

令和4年度精神保健対策費補助金

摂食障害治療支援センター
設置運営事業報告書

国立精神・神経医療研究センター

令和5年3月

令和4年度精神保健対策費補助金

摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

国立精神・神経医療研究センター

令和5年3月

摂食障害治療支援センター設置運営事業

令和4年度のあゆみ



Oct.2022

石川県摂食障害支援拠点病院に金沢大学病院が指定されました

大ニュースです！新たに、実に5年ぶりに支援拠点病院が設置されました。令和3年10月、金沢大学病院精神神経科は支援拠点病院となりました。拠点病院は摂食障害の専門治療を提供し、地域の医療機関の連携の中心的役割を担う病院です。金沢大学の摂食障害診療へのこれまでの貢献に加えて、拠点病院として指定されることで、同県の摂食障害診療がより良いものとなっていくと期待されます。

石川県支援拠点病院HP

<https://ishikawa-ed.w3.kanazawa-u.ac.jp>

最近、
食事の時間を
楽しめていますか？

石川県摂食障害支援拠点病院

摂食障害に悩む地域の方々に
適切な支援を行うための病院です。



Jan.2023 「ほっとライン」の相談日を週4日に増やしました



支援拠点病院が設置されている県では、県内を対象として拠点病院が摂食障害の相談を受け付けています。しかし支援拠点病院のない県にお住まいの方の相談も多くあったことから、令和3年1月に電話相談窓口「摂食障害相談「ほっとライン」」を国府台病院内に開設しました。開設以来とても沢山のお電話を頂いているために、令和4年1月に相談受付日を週3日から4日に増やしました。皆様のお役に立てるように相談業務を続けてまいります。「ほっとライン」はHPだけでなく、Twitter Instagramでも情報発信しています。(P29 普及啓発活動 参照)

Oct.2022 摂食障害を治療している医療機関リストを公開しました

「摂食障害を診てくれる医療機関を探しているけれど、なかなか見つからない。」というお声をよく聞きます。そこで受診先を迷った時に参考になる摂食障害診療施設リストを作成しました。このリストは、全国で摂食障害診療実績のある医療機関施設を対象に行われたアンケート調査にご回答いただいた医療機関のうち、摂食障害情報ポータルサイトで公開するリストへの掲載を「許可する」とのご回答をいただいた102の医療機関を掲載しています。初版を最初の一步として、掲載医療機関が増え、診療連携が広がっていくように願っています。(P23 治療支援・研修参照)



Jan.2023 新たに摂食障害入院研修を開催しました



本事業では研修会を開発し医療者に受講していただくことで、摂食障害診療の裾野を広げることを目指しています。この研修会は、摂食障害の入院診療を行うための知識とノウハウをパッケージにしたもので、多職種で役割ごとに講義を設けています。摂食障害の入院を受ける際に、低体重の身体管理に難しさを感じたり、行動制限のやり方がうまくいかないと感じることもあると思います。講師の浜松医科大学のチームは他の医療機関にノウハウを提供してきた実績があり、こういった点について具体的なコツを伝授してくれます。今年度は、石川県・福井県を中心に沢山の医療スタッフが参加して下さいました。次年度も開催予定です。(P23 治療支援・研修参照)

Dec.2022-Mar.2023 情報サイトに新しい記事を追加しました

摂食障害の正しい知識を伝えるために、情報ポータルサイト(一般の方・専門職の方)を運営しています。昨年のデザインリニューアルに続いて、今年は記事を一部追加しアップデートしました。新たに摂食障害診断に追加された回避制限性食物摂取症(ARFID)過食性障害(BED)について充実した記事が載っています。また一般サイトには「10代のあなたへ」という10代向けのメッセージ、専門サイトにはエビデンスのある心理療法について、治療の概説をしています。どの記事も第一線の先生にご執筆いただいた充実した内容です。下記にURLがあります、ぜひご覧ください。(P29 普及啓発活動参照)

目 次

ページ

1.	厚生労働省における摂食障害対策.....	1
2.	摂食障害全国支援センター活動報告書.....	10
1.	基本情報.....	11
2.	要旨.....	12
3.	全国摂食障害対策連絡協議会の設置.....	13
4.	支援拠点病院統括業務.....	15
5.	相談支援.....	16
6.	治療支援・研修.....	23
7.	普及啓発活動.....	29
8.	考察.....	34
3.	宮城県摂食障害支援拠点病院活動報告書.....	35
1.	基本情報.....	36
2.	要旨.....	36
3.	摂食障害対策推進協議会の設置.....	37
4.	相談支援.....	38
5.	治療支援.....	42
6.	研修.....	45
7.	普及啓発活動.....	46
8.	行政機関との連携.....	50
9.	その他の活動.....	50
10.	考察.....	51
4.	千葉県摂食障害支援拠点病院活動報告書.....	52
1.	基本情報.....	53
2.	要旨.....	54
3.	摂食障害対策推進協議会の設置.....	54
4.	相談支援.....	55
5.	治療支援.....	62
6.	研修.....	62
7.	普及啓発活動.....	64

8.	行政機関との連携.....	67
9.	その他の活動.....	67
10.	考察.....	67
5.	静岡県摂食障害支援拠点病院活動報告書	68
1.	基本情報.....	69
2.	要旨.....	70
3.	摂食障害対策推進協議会の設置.....	71
4.	相談支援.....	72
5.	治療支援.....	76
6.	研修.....	78
7.	普及啓発活動.....	80
8.	行政機関との連携.....	82
9.	その他の活動.....	83
10.	考察.....	84
6.	福岡県摂食障害支援拠点病院活動報告書	85
1.	基本情報.....	86
2.	要旨.....	87
3.	摂食障害対策推進協議会の設置.....	88
4.	相談支援.....	89
5.	治療支援.....	91
6.	研修.....	95
7.	普及啓発活動.....	96
8.	行政機関との連携.....	99
9.	その他の活動.....	100
10.	考察.....	102
7.	石川県摂食障害支援拠点病院活動報告書	103
1.	基本情報.....	104
2.	要旨.....	104
3.	摂食障害対策推進協議会の設置.....	105
4.	相談支援.....	106
5.	治療支援.....	109

6.	研修.....	110
7.	普及啓発活動.....	110
8.	行政機関との連携.....	112
9.	その他の活動.....	113
10.	考察.....	113
8.	令和4年度の活動成果と課題、提言	114
9.	全国摂食障害対策連絡協議会委員	120
10.	摂食障害全国支援センター・摂食障害支援拠点病院職員	121
11.	摂食障害治療支援センター設置運営事業拠点機関一覧	123

1. 厚生労働省における摂食障害対策
～摂食障害治療支援センター設置運営事業～

令和4年度

1. 厚生労働省における摂食障害対策 ～摂食障害治療支援センター設置運営事業～

1. 事業概要

摂食障害は、患者に対する治療や支援方法の確立や生命の危険を伴う身体合併症の治療や栄養管理等を行うなど、適切な治療と支援により患者が地域で支障なく安心して暮らすことができる体制の整備を推進することが求められている。

これらを踏まえ、平成 26 年度より「摂食障害治療支援センター設置運営事業」を実施している。

具体的には、全国 5 カ所の医療機関を「摂食障害支援拠点病院（以下、「支援拠点病院」という。）」に指定し、摂食障害に関する知識・技術の普及啓発、他医療機関への研修・技術的支援、患者・家族への技術的支援、関係機関との地域連携支援体制の構築のための調整等を行うとともに、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センターを全国 1 カ所の「摂食障害全国支援センター」に指定し、診療拠点機関による全国連絡協議会の開催や各支援拠点病院で得られた知見を集積し、支援拠点病院への技術的支援等を実施して、摂食障害患者の治療実績や患者・家族のQOLの向上、地域での多職種・他科連携や普及啓発等多くの実績を挙げてきている。

2. 第 7 次医療計画上の摂食障害の位置づけ

第 7 次医療計画において、「疾病・事業及び在宅医療に係る医療体制について」（平成 29 年 3 月 31 日付け医政地発 0331 第 3 号厚生労働省医政局地域医療計画課長通知）の別紙「疾病・事業及び在宅医療に係る医療提供体制に係る指針」中「精神疾患の医療体制構築に係る指針」に基づき、地域の実情を踏まえて、摂食障害に対応できる医療機関を明確にすることが求められていることを踏まえ、これまで実施されてきた「摂食障害治療支援センター設置運営事業」での多職種・他科連携や研修、摂食障害に関する知識・技術の普及啓発に係る取組み等を参考とし、全都道府県で摂食障害の医療連携体制が構築されるよう、本事業の活用による体制の整備について、全国障害者保健福祉関係主管課長会議や担当所管部署等をお願いしているところである。

3. 事業の成果

本事業は平成 26 年度の開始以降、5 カ所の支援拠点病院（東北大学病院、金沢大学附属病院、国立国際医療研究センター国府台病院、浜松医科大学附属病院、九州大学病院）を中心に摂食障害の患者・家族への治療機会の提供や相談支援、設置自治体内の他の医療機関への治療研修などの積極的な取組みの結果、未受診が多いと言われている摂食障害について、発症早期の患者の受診が増加したことに加え、設置自治体内の他の医療機関とも連携が進んだほか、事業に行政が関わっていることにより医療機関以外の他機関（保健所、学校、養護学校等）との連携や協力も進むなど医療提供以外にも一定の効果が出てきている状況である。

また、摂食障害全国支援センター（以下「全国支援センター」という。）（国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター）では、HP を用いて摂食障害に関する情報発信や普及啓発を行っており、当該サイトには年間約 150 万件もアクセスがあり、若年層に多い摂食障害の患者本人や家族、支援者等に対する適切な情報提供に貢献している。

さらに、本事業で開催している全国摂食障害対策連絡協議会に、摂食障害者及びその家族の支援や治療者の育成支援、啓発・予防活動などを行っている一般社団法人日本摂食障害協会に

参加いただいております、世界摂食障害アクションデイ 2022 を共催するなど、引き続き、本事業との連携について期待される。

4. 摂食障害支援拠点病院に係る事業実施に関するアンケート

【集計結果（数字は回答自治体数。内容は回答時点。）】

1. 現在、摂食障害治療支援センターを設置する予定があるか。

- ① すでに指定している 5
(宮城県、千葉県、石川県、静岡県、福岡県)
- ② 指定予定がある 3
(群馬県、東京都、福井県)
- ③ 指定予定がない 39

2. 指定予定がない理由（未指定の自治体：複数回答可）

- I. 財源を確保できない 12
- II. 国の実施要綱上の指定要件が厳しい 2
- III. 引き受けてくれる医療機関がない 10
- IV. 摂食障害について対応のノウハウがない 6
- V. 別の補助金を投入し、十分対応できている 0
- VI. 地域医療計画等の補助金以外の仕組みで十分対応できている 2
- VII. 精神保健福祉センター等で受診勧奨から普及啓発まで十分対応できている 0
- VIII. その他 14
 - ・実態把握が必要 4
 - ・支援拠点病院の要望がない 1
 - ・検討段階にない 2
 - ・指定するメリットがない 2
 - ・本事業とは別の拠点機関を複数指定している 1
 - ・指定をせずとも、十分機能している 4

3. 摂食障害対策についてのご意見等

- ・国の補助金は活用できても、県での財源確保が難しい・補助率の見直し
- ・支援拠点病院を複数指定したい
- ・摂食障害に関して、診療報酬の加算や障害福祉サービスでの加算の必要性を感じている。
- ・摂食障害患者数の実態把握できる資料が欲しい（検討のため）
- ・摂食障害対策をするための補助金のメニューを増やしてほしい。

4. 支援拠点病院設置準備研修会の管内での開催希望有り 6

5. 課題

摂食障害治療支援センター設置運営事業が平成26年度から開始され、支援拠点病院は、令和4年10月に石川県で新設されたものの、47都道府県のうち5自治体での設置に止まっている。摂食障害全国支援センターが開設しているホームページへのアクセス数も非常に多いことから、摂食障害に関する医療・支援ニーズの高さがうかがわれるが、それと比較して、専門医療機関・専門医の少なさは引き続き課題となっている。

実際には、全国支援センターと5箇所の支援拠点病院に全国の患者本人や家族からの相談が集中しており、摂食障害に関する新規相談件数のうちの約3分の1は支援拠点病院を設置している自治体外からの相談となっている現状を踏まえ、令和3年度に全国支援センターが国立国際医療研究センター国府台病院心療内科に委託して「相談ほっとライン」を開設し、5箇所の支援拠点病院以外の地域からの相談に対応できる体制を整備した。

各自治体において支援拠点病院の設置が進まない主な理由については、そもそも摂食障害に対して効果的な治療方法の普及がなかなか進まず、医療機関において摂食障害の患者の治療に苦慮していることも課題となっていると考えられる。既に外来の予約が数ヶ月待ちという状況にある5箇所の支援拠点病院のみで摂食障害の治療、回復支援を担うのは困難であり、摂食障害の診療に協力できる医療機関の確保も急務となっている。

アンケート結果からは摂食障害支援拠点病院の指定見込みは立っていないものの、管内での支援拠点病院設置準備研修の開催に意欲的な自治体も見受けられる。

摂食障害は長期間の治療を要する疾患のため、居住地に近い医療機関で相談・治療が受けられるよう治療支援ネットワークの充実が求められている。

そのため、厚生労働省においては、令和4年9月に各自治体担当者に対し、摂食障害の治療と支援に資する体制整備の説明を行うとともに関係資料を情報提供した。

6. 今後の方策

(1) 普及啓発の実施について

摂食障害の患者数については、精神保健福祉資料（2019年NDBデータ）によると、約24.5万人と推計されているところであるが、摂食障害の現状について医療者や患者・家族以外にも広く一般国民に理解して頂き、未受診者を減らすためにも普及啓発活動は重要である。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により緊急事態宣言等が出されるなど、全国支援センター及び各支援拠点病院が実施する普及啓発イベント等に少なからず影響があった。一方で、オンライン開催に変更するなど工夫して実施した結果、これまで、集合イベントでは参加できなかった遠方の方の参加や、匿名での参加が可能となったことで、これまでにはなかった普及啓発の効果が得られたのではないかと考えている。

また、当事者・家族支援の観点から、令和2年度よりAMED 障害者対策総合研究開発事業（精神障害分野）として「摂食障害を抱える家族のピアサポート研修プログラムの開発」が始まっており、摂食障害家族のピアサポーター養成のための研修プログラムを開発し、その効果を検証することとなっており、今後の当事者・家族支援への貢献が期待されている。

今後も引き続き、地方自治体、日本摂食障害学会、日本摂食障害協会などの関係機関の協力もいただきながら、さらなる普及啓発活動の展開が望まれる。

(2) 治療研修の実施について

支援拠点病院を設置されている地域では、原則的には支援拠点病院が地域の医療機関を対

象とした治療研修を実施することにより、これまで摂食障害の治療を積極的に実施してこなかった医療機関においても、初診患者や入院患者の受入が可能となる事例も報告されており、確実に摂食障害に対する診療の質の向上が図られている。また、支援拠点病院未設置地域での医療機関でも摂食障害について、現在も適切に対応されているところではあるものの、摂食障害に対応できる一部の医療機関に患者が集中してしまうなど、摂食障害患者が、日本全国、どの地域でも安心して医療が受けられているとは言い難い状況となっており、治療方法の研修をどのように実施し、診療の質を向上させるかが課題となっている。

そのため、支援拠点病院未設置地域の医療機関への研修については、全国支援センターが中心となり、支援拠点病院の協力を得ながら地道に実施していくことが必要と考えている。

令和2年度においては、障害者総合福祉推進事業を活用し、「摂食障害治療及び支援の実態把握及び好事例の把握に関する検討」を行い、摂食障害治療支援センターの利用による治療および連携支援の好事例を収集したことから、今後の医療従事者向けの治療研修の実施にあたって活用している。

7. 令和5年度からの具体的な取組

厚生労働省としては、全国への支援拠点病院の整備の予算確保と合わせて、効果的な治療方法の普及のための研修事業の実施経費等についても令和4年度予算案で計上したところであり、以下のとおり、令和5年度以降、様々な課題の改善に向けて自治体や関係団体との協力・連携体制の構築を進めていく予定である。

(1) 摂食障害全国支援センターの機能の拡充

支援拠点病院未設置の地域において、医療従事者向けの『摂食障害治療研修』を積極的に実施するとともに、自治体や摂食障害の治療を行っている医療機関を対象にした支援拠点病院の設置や地域医療連携の構築を目指す研修を実施することで、支援拠点病院も含む全国の医療機関をサポートする役割を強化する。

(2) 治療方法の開発・普及

令和2年度障害者総合福祉推進事業では治療の実態把握を行ったが、摂食障害の治療効果についてのエビデンスを収集し、効果的な治療を普及させるため、「摂食障害に対する標準的な治療方法（心理的アプローチと身体的アプローチ）とその研修方法の開発及び普及に資する研究」（厚生労働科学研究）を令和3年度から実施し、成人に対する心理療法及び認知行動療法とその研修方法の開発・効果検証、小児への早期介入方法の検討、身体治療マニュアルの効果検証及び普及方法の検討を行う。

(3) 普及啓発の実施

全国支援センター、支援拠点病院、関係団体においては、オンライン実施など開催方法の工夫により継続して普及啓発の実施をお願いしたい。

また、厚生労働省では、令和3年度から、メンタルヘルス・ファーストエイド（MHFA）の考え方をういた「心のサポーター養成事業」を開始しており、摂食障害治療支援センター設置運営事業と心のサポーター養成事業が有機的な相互連携を図ることで、摂食障害について地域住民への普及啓発がより充実するように取り組む。

摂食障害対策

厚生労働省 社会・援護局

障害保健福祉部 精神・障害保健課

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

摂食障害

患者数（推定）

- 摂食障害患者数： 約245,534人（精神保健福祉資料（2019年NDBデータ））
- 神経性やせ症： 12,674人
（低体重でも食事量の制限や嘔吐等、痩せるための行動をとる）
- 神経性過食症： 4,612人
（適正又は過体重であるが、頻繁に過食し、嘔吐等の痩せるための行動をとる）
- 過食性障害： 1,145人
（過食するが、痩せるための行動をとらない）
（平成28年度 厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業 「摂食障害の診療体制整備に関する研究」）
- 女子中学生の100人に1～2人、男子中学生の1000人に2～5人
（平成21年度 障害者総合対策研究事業 「児童・思春期摂食障害に関する基盤的研究」）

治療を受けていない患者が多い

- 保健所や学校、摂食障害治療支援センター相談事例の調査で約半数の患者が治療を受けていない。
- 保健所・保健センターの相談事例のうち治療中断は29.8%、未受診は19.2%であった。
- 神経性やせ症が疑われる生徒のうち1/3～1/2が医療機関を受診していない。

症状

- 精神症状として多いのは、肥満への恐怖・体重や体型へのこだわり、自己誘発性嘔吐、下剤・利尿剤などの乱用、むちゃ食いの反復など
- 身体症状として、脱水、お腹の張り、低血圧などがあり、病状によっては、生命の危険があるときもある

治療

- 規則正しい食事摂取、食事摂取に対する不安や葛藤の傾聴、カウンセリング、精神療法、薬物療法等の組み合わせ
- 身体症状もあるため、心療内科、内科との連携が必要である
- 症状の悪化があった場合には入院治療となる

課題

- 疫学
 - ・患者数の実態把握が困難
 - ・患者の低年齢化、及び高齢化が問題視されている
 - ・回復率が50～60%である一方、50%が回復するのに4～5年かかり、死亡率も10%と高いという報告もある
- 治療
 - ・精神症状のほか、身体症状も認めるため、他科横断的な治療が必要となる
 - ・治療方法としてガイドラインは策定されているが、エビデンスとしては不十分な面もあるといわれている
 - ・上記状況のため、専門医の数が不足している

摂食障害治療ガイドラインより

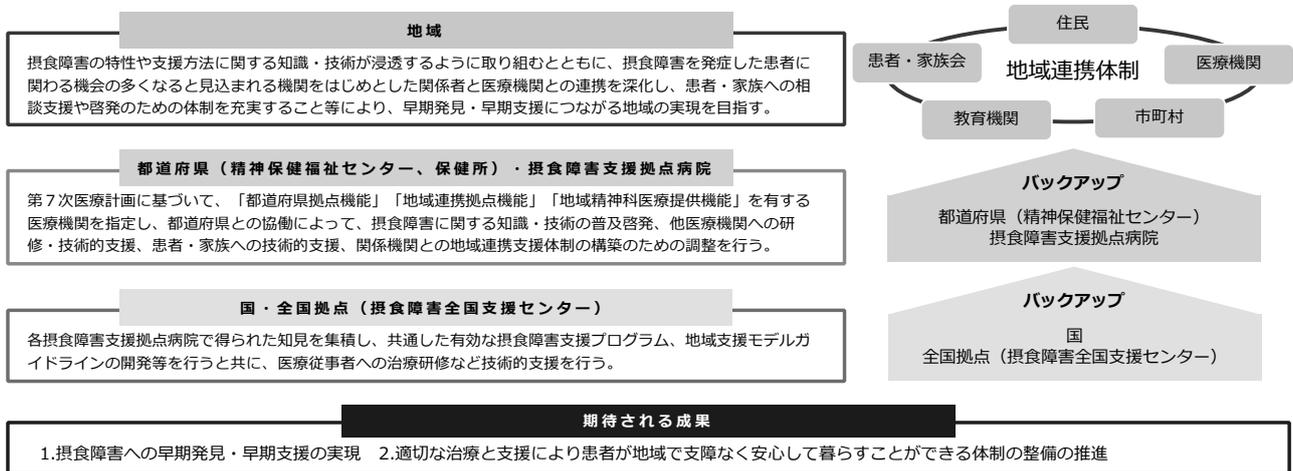
摂食障害治療支援センター設置運営事業

令和4年度予算：19,452千円 → 令和5年度予算案：19,452千円

摂食障害患者が、早期に適切な支援を受けられるよう、摂食障害治療における支援体制の在り方を提示し、摂食障害支援拠点病院間のネットワーク強化により全国で均一な摂食障害診療を行える体制を整備。

現状と課題

平成30年度からの第7次医療計画により、各都道府県において、多様な精神疾患等に対応できる医療連携体制の構築に向けて、「良質かつ適切な精神障害者に対する医療の提供を確保するための指針」を踏まえて、多様な精神疾患等ごとに医療機能を明確化することとされており、摂食障害全国支援センターとして国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センターを、摂食障害支援拠点病院を各都道府県で指定し、摂食障害の治療支援体制の構築に向けて、知見の集積、還元、診療のネットワーク作り等を引き続き進めていく必要がある。



期待される成果

1. 摂食障害への早期発見・早期支援の実現
2. 適切な治療と支援により患者が地域で支障なく安心して暮らすことができる体制の整備の推進

2

摂食障害全国支援センター及び摂食障害支援拠点病院（令和5年2月現在）

- 摂食障害全国支援センター：全国1か所
- 摂食障害支援拠点病院：全国5か所



令和4年度新規設置機関

3

摂食障害治療支援センター設置運営事業の目的等

(目的)

- 摂食障害は10代～40代の女性に多い疾患といわれているが、専門の医療機関・専門医が全国的に少ないことが課題の一つ。
- 本事業は、摂食障害の専門医療機関の力所数増、まずは3次医療圏（都道府県）の設置を目指し、摂食障害支援拠点病院を設置する自治体に対して国庫補助（1/2）する。

(事業実績)

- 令和4年度現在、摂食障害支援拠点病院は**5医療機関**。全国支援センターが1カ所。
 - * 全国支援センター（1カ所）：国立精神・神経医療研究センター
 - * 摂食障害支援拠点病院（5カ所）：宮城（東北大学病院）、千葉（国立国際医療研究センター国府台病院）、石川（金沢大学附属病院）、静岡（浜松医科大学医学部附属病院）、福岡（九州大学病院）
- 主な事業内容は、以下のとおり
 - ① 摂食障害患者・家族の治療及び相談支援、
 - ② 摂食障害治療医療連携協議会の設置・運営、
 - ③ 摂食障害支援コーディネーターの配置、
 - ④ 医療従事者（医師、看護師等）等向け研修、
 - ⑤ 市民向けの普及啓発（公開講座、講演、リーフレットの作成等）

(第7次医療計画との関係)

- 第7次医療計画において、「多様な精神疾患等に対応できる医療連携対策の構築に向けた医療機能の明確化」として、都道府県ごとに摂食障害の専門医療機関を配置することが定められている。
- 同計画中に、「摂食障害治療支援センターを参考に」とあることから、今後、未整備自治体は同事業をモデルに整備し、本事業実施自治体は同機関を指定することで整備が図られることを想定している。

4

摂食障害治療支援センター設置運営事業の実績（令和3年度）

令和3年度事業実績

摂食障害支援拠点病院で行う業務

1. 摂食障害対策推進協議会の設置・運営
2. 管内の医療機関等への助言・指導管内の医療機関等への助言・指導
3. 医療従事者、関係機関職員、摂食障害患者及びその家族等に対する研修の実施
4. 摂食障害患者及びその家族、地域住民等への普及啓発
5. 摂食障害患者及びその家族への専門的な相談、治療及び回復支援
6. 関係機関（精神保健福祉センター、保健所、市町村、福祉事務所、公共職業安定所等）との連携・調整

都道府県	支援拠点病院	摂食障害治療支援コーディネーター	研修・講演等	研修・講演等の内容	普及啓発の取組み
宮城県	東北大学病院	1名	11回	・病院内看護師を対象とした摂食障害の基礎知識と治療・看護に係る研修 ・摂食障害治療支援センターコーディネーターを対象とした摂食障害の基本等に係る研修 ・病院内心療内科、精神科、小児科職員を対象とした摂食障害の症例に係る研修・検討会	市民公開講座、市民公開講座の案内ならびにポスターチラシの配布、新聞や情報誌に案内広告を掲載、HPのコンテンツ充実化、摂食障害に関連するイベント情報や医療従事者に対する研修会の案内などの掲載
千葉県	国立国際医療研究センター国府台病院	3名	7回	・臨床心理士、養護教諭・学校教育関係者、摂食障害治療者を対象として研修	千葉県障害者福祉課と連携し、SNS等を活用した摂食障害患者とその家族、一般市民向けに情報発信
静岡県	浜松医科大学附属病院	1名	4回	・摂食障害に関心を有する医療従事者、養護教諭、精神科医・小児科医、精神科治療協力病院他職種を対象とした研修会	一般市民、当事者、家族、支援者を対象とした摂食障害フォーラムをWEB開催
福岡県	九州大学病院	1名	8回	・精神科・心療内科の病院、診療所を対象とした研修会、学校関係者を対象とした研修会、一般市民を対象とした講演会	相談案内カードの作成・配布、摂食障害に関する内容をマスメディアと連携して発信、摂食障害支援拠点病院のリーフレットの作成・配布

5



6

課題に向けた取組 (摂食障害全国支援センター)

学校と医療のより良い連携のための対応指針

摂食障害に関する学校と医療のより良い連携のための対応指針 (小学校版・中学校版・高等学校版・大学等)

(平成26年度～平成28年度において厚生労働科学研究費補助金 (障害者政策総合研究事業 (精神障害分野)) 「摂食障害の診療体制整備に関する研究」)

⇒ 養護教諭などの教育関係者を対象にした研修によるゲートキーパーの養成。早期発見、早期治療へ。

摂食障害治療支援コーディネーターのための相談支援の手引き

摂食障害支援拠点病院において相談支援を担当するコーディネーターが、摂食障害の患者、家族、関係者等から相談を受ける際の手引き

(平成30年度摂食障害治療支援センター設置運営事業)

⇒ コーディネーター研修の実施、摂食障害支援拠点病院未設置自治体への設立支援

摂食障害の治療ネットワークの指針と簡易治療プログラムの開発

本研究開発の目標・ねらい

1. 精神保健福祉センター、自治体の摂食障害相談実態・認識・課題を調査する。
2. 精神科、身体科および相互の連携指針とマテリアルを作成する。
3. 摂食障害の非専門家が実施可能な簡易治療プログラムを開発する。
4. 千葉県で自治体と医療機関の地域連携モデルを構築する。

期待される効果

1. 自治体の課題が明確化され、窓口の設置や地域連携が促進される。
2. 関係機関・施設、診療科間の連携がスムーズになる。
3. 早期発見治療、合併症・併存症への対応が促進され、治療中断する患者が減少する。
4. 医療者や患者の負担が軽減される。

(平成29年度～31年度AMED長寿・障害総合研究事業者対策総合研究開発事業 (精神障害分野))

7

2. 摂食障害全国支援センター活動報告書

令和4年度

摂食障害全国支援センター

Center for Eating Disorder Research and Information



令和4年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援拠点病院設置事業報告書

1. 基本情報

拠点機関名	摂食障害全国支援センター
設置施設	国立精神・神経医療研究センター
郵便番号	187-8553
所在地	東京都小平市小川東町 4-1-1
電話番号	042-341-2711(代)

URL

摂食障害全国支援センター：<http://www.ncnp.go.jp/nimh/shinshin/edcenter/>

摂食障害情報ポータルサイト(一般の方)：<http://www.edportal.jp/>

摂食障害情報ポータルサイト(専門職の方)：<http://www.edportal.jp/pro>

摂食障害全国支援センター職員

氏名	所属	役職
関口 敦 (事務局実施責任者、センター長)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	心身症研究室長
井野 敬子 (事務局実施担当者、副センター長)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	ストレス研究室長
小原 千郷 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費研究員
船場 美佐子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費研究員
中野 稚子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	テクニカルフェロー
國重 寛子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費研究補助員
兼山 桃子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費事務助手
河合 啓介 (事務局実施担当者)	国立国際医療研究センター国府台病院 心療内科 (委託)	心療内科診療科長
廣方 美沙 (相談コーディネーター)	国立国際医療研究センター国府台病院 心療内科 相談ほっとライン (委託)	看護師・保健師
藤野 沙織 (相談コーディネーター)	国立国際医療研究センター国府台病院 心療内科 相談ほっとライン (委託)	看護師

2. 要旨

令和4年10月に石川県に摂食障害支援拠点病院が5年ぶりに新規指定されたものの、支援拠点病院設置は5箇所にとどまっている。都道府県の行政担当者から、新規拠点病院指定についての問い合わせはあるものの、新規指定への動きは限定的である。これら問い合わせや進捗状況から、新規指定に向けた工程のボトルネックも明らかとなり、より具体的な対策が見えてきている。

また、本事業では、摂食障害入院医療管理加算が算定できる医療機関を増やすことを目標としており、令和4年度より摂食障害入院医療管理加算の要件が緩和された。要件緩和に併せて算定医療機関が増えることが見込まれるが、算定医療機関における摂食障害の入院治療の質を担保するために、全国の医療機関を対象とした摂食障害入院治療研修会を開催し、算定状況の調査も予定している。

上記活動を含めた令和4年度の主要な活動と成果の概要を以下に示す。

支援拠点病院統括業務

支援拠点病院との連携ミーティングをオンラインで2回開催し、情報共有と課題についての討議を行った。全国支援センターが開催する摂食障害治療研修のあり方などが話し合われた。

全国協議会は、第1回、第2回共にメール審議＋ウェブ会議で開催された。第1回全国協議会では年度の事業計画の策定と、新規支援拠点病院指定準備の進捗確認、新規指定施設への支援体制の確認、国府台病院へ委託している電話相談事業(相談ほっとライン)の開所日の維持拡大の必要性を共有した。第2回全国協議会では全国支援センターおよび支援拠点病院の活動実績報告を受けて、各支援拠点病院での好事例の共有や新規指定に向けた課題の抽出や既存支援拠点病院からの支援体制を確認した。

相談支援

5支援拠点病院と、全国を対象とした電話相談「摂食障害「相談ほっとライン」」(国府台病院に委託)への相談件数は、コロナ禍に起因すると思われる増加・若年化は収束傾向が認められた。摂食障害診療施設リストをWeb公開し、全国の精神保健福祉センターにも配布した。「相談ほっとライン」は開設当初より増枠したが、相談ニーズの上限はまだ見えていない。また、石川県の新規指定に合わせて、摂食障害治療支援コーディネーターを対象とした研修会を開催した。

治療支援・研修

摂食障害の治療の初心者を対象に「摂食障害治療研修」をオンラインで2回開催した。新規の支援拠点病院候補となる自治体を対象に、摂食障害の医療ニーズの掘り起こしを目指して、支援拠点病院設置準備研修会を開催した。全国の入院治療施設を対象とした入院治療研修を開催し、特に支援拠点病院設置の意向を表明している医療機関に対して手厚くサポートを行った。

普及啓発活動

情報ウェブサイトを運営・記事の更新や各種メディア対応を継続的に行っている。世界摂食障害アクションデイ2022での市民公開講座、第25回日本摂食障害学会学術集会の市民講座において、当該事業について講演を行った。

3. 全国摂食障害対策連絡協議会の設置

全国摂食障害対策連絡協議会・計画

1. 全国協議会を1回目令和4年7-8月と5回目令和5年2-3月頃の2回開催する。
会議内容(議題等)は第1回全国協議会では年度の事業計画の策定を行う。摂食障害対策の方向性全般について討議する。第2回全国協議会では支援センターおよび支援拠点病院の活動実績報告を受けて、事業の効果の検証、問題点の抽出等を行う。

全国摂食障害対策連絡協議会・結果

第1回: 支援拠点病院候補の進捗について報告を受け、新設支援をサポートする方法論について検討した。摂食障害の入院診療加算要件が緩和されたことを受け、入院診療の質を維持することを目的に入院治療研修のプログラム開発することとなり、年度内の開催を目標とした。協議会委員により今年度の全国支援センター事業が承認された。

第2回: 令和4年度実施事業報告として、石川県支援拠点病院の新規指定、石川県・福井県の視察、情報サイトの記事追加、国府台病院に委託している相談ほっとラインの相談日拡充を報告した。動画に影響を受け、不適切なダイエットやリスクの高い排出行動を行う若年者がいることを懸念し、摂食障害の正しい知識を伝えるための動画プロジェクトについて、概要を勘案した。また小児科と成人の精神科・心療内科との連携を進める戦略について検討した。

全国摂食障害対策連絡協議会

第1回全国摂食障害対策連絡協議会

開催日	R4/07/19-07/25 メール審議 R04/07/29 ウェブ会議
参加者	支援拠点病院職員、実施団体、厚生労働省、摂食障害の診療に資するもの、他
実施場所	ウェブ会議
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全国支援センターにおける令和4年度の事業計画の策定 <ol style="list-style-type: none"> 1) 研修会(各種研修の開催様式・内容決定) <ol style="list-style-type: none"> ① コーディネーター研修 ② アドバンス入院治療研修会 ③ 初学者向け研修会 ④ 支援拠点病院設立準備研修会 ⑤ 地域向け研修会 2) 摂食障害ポータルサイトの改訂 3) 心理療法の記事 執筆者 Reviewer の承認 4) 相談支援事業の報告 5) 資料支援体制整備に向けた連携 6) AMED 事業、厚労科研事業、日本摂食障害学会、日本摂食障害協会との連携 2. 支援拠点病院の令和4年度の事業計画について 3. 石川県、他1件の拠点病院候補について進捗報告
参加人数	38

第2回全国摂食障害対策連絡協議会

開催日	R5/01/27-02/02 メール審議 R5/02/06 ウェブ会議
参加者	支援拠点病院職員、実施団体、厚生労働省、摂食障害の診療に資するもの、他
実施場所	ウェブ会議
議題	<ol style="list-style-type: none"> I. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> 1) 令和4年度実施事業

参加人数	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種研修会、イベントなど 2. 石川県支援拠点病院の新規指定 3. HP 改訂(ポータルサイト/全国支援センター) 4. 相談ほっとラインの拡充 5. 正しい摂食障害の情報提供のため Google/YouTube と連携 6. 各種取材対応の報告 <p>2) 各支援拠点病院からの報告</p>
	<p>II.審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 相談ほっとラインの日数追加 2. 子ども関連の対策の強化 3. 動画プロジェクト 4. アクションデイ企画:令和5年6月4日(日) 5. 新規支援拠点病院の候補へのアプローチ&設置準備研修会の全国展開 6. 支援センターの枠組みを活用した共同研究 7. ポータルサイト:更新計画 8. 研修会の参加要件 9. 福井県・石川県視察報告 <p>38</p>

4. 支援拠点病院統括業務

支援拠点病院統括業務・計画

1. 支援拠点病院と密接に連携を図り、情報を共有し、必要に応じ、支援拠点病院への助言および連携調整を行う。そのために全国支援センターと支援拠点病院との摂食障害支援拠点病院連携ミーティングを2回開催する(開催日:1回目令和4年7-8月、2回目令和5年2-3月頃、開催形式:ウェブ会議)。

支援拠点病院統括業務・結果

1. **摂食障害支援拠点病院連携ミーティングは、ウェブ会議形式で7月と1月の2回開催した。**
 - ・第1回摂食障害支援拠点病院連携ミーティングでは、自治体・拠点病院候補となりうる医療機関をターゲットとし入院治療研修会開催する方針が定まった。さらに、全国支援センターで実施する3日間摂食障害治療研修について、症例を相談できる機会がないという受講者の声に応え、日本摂食障害学会とコラボレートして症例検討を行う機会を設けることを発案し、次年度の学術大会との連携を試みることとなった。
 - ・第2回摂食障害支援拠点病院連携ミーティングでは、日本摂食障害協会との共催する世界アクションデイ2023企画のテーマについて周知した。次年度の支援センター事業として、動画プロジェクトを立ち上げることを提案し、協議会にて討議することとなった。

摂食障害支援拠点病院連携ミーティング

第1回摂食障害支援拠点病院連携ミーティング

開催日	R4/07/11
対象者	支援拠点病院職員、実施団体
実施場所	ウェブ会議
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全国支援センター主催の研修会について 2. 治療支援体制の整備に向けた連携 3. 各支援拠点病院のR4年度計画(R3年度の相談事業の集計データ供覧) 4. 電話相談等の名称についての整理 5. 日本摂食障害学会でのシンポジウム企画依頼 6. 研究相談
参加人数	27

第2回摂食障害支援拠点病院連携ミーティング

開催日	R5/01/13
対象者	支援拠点病院職員、実施団体
実施場所	ウェブ会議
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和4年度実施事業報告 2. 各拠点病院からの報告 3. 第2回連絡協議会の置ける審議事項の整理
参加人数	28

5. 相談支援

相談支援・計画

1. 支援拠点病院に対し、連携ミーティング等で相談業務に関する連携調整を行う。
2. 各拠点病院で相談業務を担当するコーディネーターの研鑽と情報交換を目的として、コーディネーター研修を開催する。
3. 全国を対象とした摂食障害に関する相談業務の開設について実施可能性を検討する。
4. 支援拠点病院より収集したデータ分析結果とそれに基づく患者・家族への対応方法をフィードバックする。
5. 情報ウェブサイトにて、患者・家族・支援者向けの摂食障害の医療、研究、支援に関する情報を提供する。

相談支援・結果

1. 支援拠点病院との連携ミーティングを2回ウェブ会議で実施した。
2. コーディネーター研修会を開催した。支援拠点病院は5年ぶりの新規設置であるため、石川県のコーディネーターを対象にコーディネーターの基本的な業務と年間スケジュールについての講義をビデオ録画し、オンデマンドで提供した。今後も新規拠点病院が指定される際には、つどオンデマンド学習ができるメリットがある。まだコーディネーターが業務内容について質疑応答する機会をウェブ会議で設けた。
3. 令和4年1月に国府台病院に開設された摂食障害相談「ほっとライン」は、年度当初は週3日の相談日であったが、令和5年1月4日より、相談日を週4日(火曜～金曜、9時～15時)に増設した。支援拠点病院が設置されていない都道府県からの相談を受けつけている。この相談業務は摂食障害全国支援センターから、国立国際医療研究センター国府台病院心療内科に委託して運営されている。同診療科にて摂食障害「相談ほっとライン」HPも運営している。(7.普及啓発後述)
4. 令和4年度摂食障害治療支援センター相談支援事例の分析結果は以下に詳細を記す。
5. 情報ウェブサイト(摂食障害ポータルサイト)の記事を更新した(詳細は7.普及啓発活動を参照)。
6. 精神神経学会・日本婦人科学会が行動作成した「精神疾患を合併した、或いは合併の可能性のある妊産婦の診療ガイド」当事者・家族版の文中において摂食障害ポータルサイト(一般の方)紹介を承諾した。

相談件数 期間:R4.4-R4.11

新規相談件数	延べ相談件数
493	559

地域(新規件数)n= 493 期間:R4.4-R4.11

県内	県外	不明	計
-	-	-	-

ほっとラインは未記入でOK

相談者(新規件数)n= 493 期間:R4.4-R4.11

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
152	27	242	7	29	5	2	5	20	4	493

相談対象患者の年齢(新規件数)n= 493 平均年齢: 25.7 SD= 13.3 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	不明	個別以外	計
6	204	131	58	47	24	10	2	3	4	489

相談対象患者の性別(新規件数)n= 493 間:R4.4-R4.11

女性	男性	その他	不明	個別以外	計
465	22	4		2	493

相談対象患者状態(新規件数) n= 493

期間:R4.4-R4.11

やせ	食事制限	過食	代償行動					精神・行動症状					
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	その他
210	246	241	151	20	16	53	0	0	164	12	18	2	

相談対象患者属性(新規件数) n= 493

期間:R4.4-R4.11

学生				社会人			その他	不明	個別以外	計
小	中	高	大/専	就業者	無職	主婦				
20	54	84	92	117	80	21	16	5	4	493

摂食障害での受診状況(新規件数) n= 493

期間:R4.4-R4.11

受診中	中断中	未受診	ED以外で受診中	その他	不明	個別以外	計
190	72	118	102	4	3	4	493

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ(新規件数) n= 493

期間:R4.4-R4.11

インターネット	紹介				メディア				ポスター・ちらし	その他	不明
	機関			その他・不明	テレビ	新聞	自治体・広報	その他・不明			
	医療	行政	教育								
402		3	1	2	14	37		1			3

相談経路(延べ件数)n= 559

期間:R4.4-R4.11

電話	メール	面談	計
559			559

相談内容(延べ件数) n= 559

期間:R4.4-R4.11

疾患相談	有り	対応相談			受診相談	問い合わせ	その他	コロナ関連
		接し方	生命危機	受診拒否				
342	216	186	1	52	377	18	28	28

対応内容(延べ件数) n= 559

期間:R4.4-R4.11

有り	紹介先				有り	情報提供				助言	問い合わせ対応	その他
	拠点病院	協力病院	他の医療機関	公共機関		疾患知識	治療受診	資料	社会資本			
343	49	295	2	236	481	392	433	2	10	124	17	13

講習会、研修会、ミーティング等

摂食障害治療支援コーディネーター研修

開催日	R4/09/26
対象者	摂食障害治療支援コーディネーター
研修内容	1.オンデマンド講義「摂食障害治療支援コーディネーター業務に関して」 2.ウェブ会議 情報交換・総合討論
講師	高倉修(外部講師・アドバイザー)、小原千郷(講師・アドバイザー)、北島智子(外部講師・アドバイザー)、関口敦(アドバイザー)、井野敬子(司会)
実施場所	オンデマンド配信+ウェブ会議
参加人数	13

参考資料:摂食障害相談「ほっとライン」
「ほっとライン」ホームページ(国府台病院作成)

相談リーフレット(国府台病院作成)

ロゴ(国府台病院作成)



 摂食障害全国支援センター:相談ほっとライン
Center for Eating Disorder Research and Information: Consultation Hotline

令和4年度摂食障害治療支援センター設置運営事業～相談支援事例の分析

令和4年4月より11月までの、5県・ほっとラインにおける相談支援の実績と内容を報告する。
尚、データの解析にあたっては、1名から複数回の相談があった場合も、1名からの相談は1件(1名)としてカウントした(延べ相談件数を除く)。

<相談件数と相談者について>

- ・ 延べ相談件数は1,512件であり、そのうち新規の相談1181件(78.1%)であった(表1)。新規相談の割合は昨年度56.7%であり、今年度で20%増加している。
- ・ 新規相談者の居住地は、24%が県外からの相談であった(表2、図1)。前年度は32.2%であり、県外からの相談割合は減少している。
- ・ 新規相談者の内訳は、患者の家族が一番多く(54%)、次いで患者(32%)、医療・行政・教育等の機関の職員(9%)であった。家族の中では母親が最も多く、機関職員の中では医療機関職員からの相談が最も多かった(表3、図2)。
- ・ 相談業務を知ったきっかけは、圧倒的にWEB(インターネット)が多かった(図3)。

表1 相談件数

期間:R4.4-R4.11

県	新規相談件数	延べ相談件数
宮城	111	433
千葉	299	417
静岡	119	163
福岡	124	153
石川	35	40
全国ほっとライン	493	559
計	1181	1765

表2:県内/県外の相談割合(新規件数)

期間:R4.4-R4.11

県	県内	県外	不明	計
宮城	78	22	11	111
千葉	167	81	51	299
静岡	90	29	0	119
福岡	91	24	9	124
石川	23	8	4	35
計	449	164	75	688

図1 地域(新規件数)

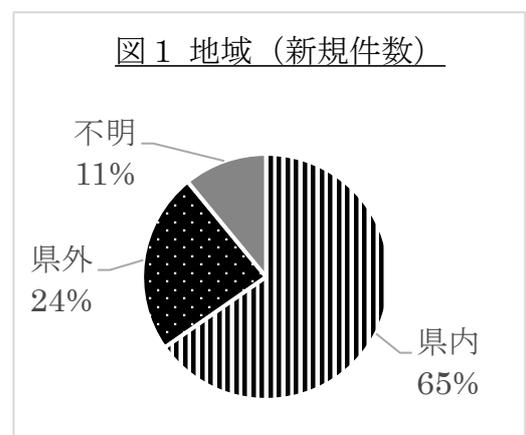


表3 相談者(新規件数)

期間:R4.4-R4.11

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
378	66	498	23	51	69	13	21	45	17	1181

図2 相談者（新規件数）

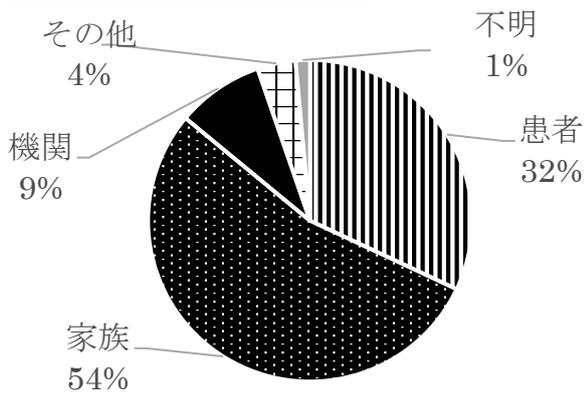
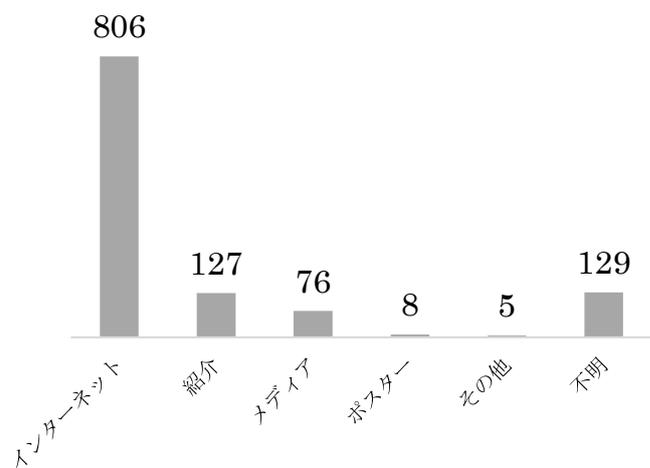


図3 支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ



<相談対象となった患者について>

- ・ 10代の患者からの相談が一番多く、次いで20代、30代と続いた。例年と同様の傾向であった。(図4)。
- ・ 性別は女性が91%、男性が6%で、例年と同様の割合であった(図5)。
- ・ 患者の属性は学生が一番多く、次いで何らかの形で就業中のものが多かった(図6)。
- ・ 患者の受診状態については、摂食障害で受診中の患者は全体の41%であった。摂食障害以外の疾患で通院中の者が16%で、何らかの形で通院している者は57%であった。13%が受診を中断中で、これらは前年と同様の割合であった。未受診は、前年は27.6%であったが、今年は24%であった。(図7)
- ・ 新規相談者において患者の抱える問題は、やせ、食事制限、過食、嘔吐などの摂食障害特有の症状に加えて、精神不安定などの非特異的な精神症状も見られた(図8)。
- ・ 相談経路は81%が電話、メールが19%であった。(図9) メール相談に応じている拠点病院とそうでない拠点病院がある。

図4 対象者の年齢（新規件数）

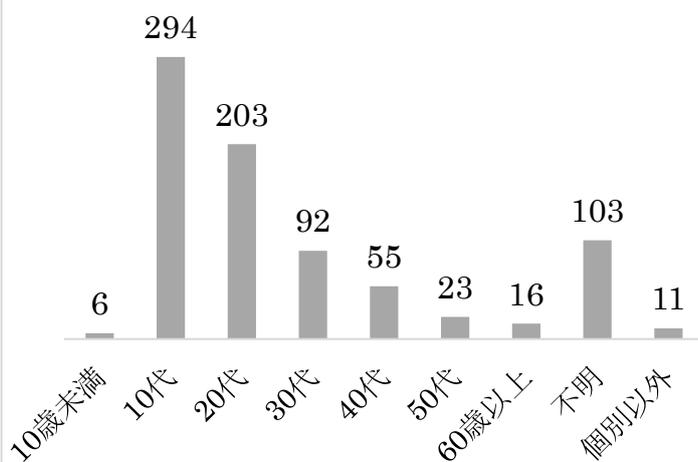


図5 対象患者の性別（新規件数）

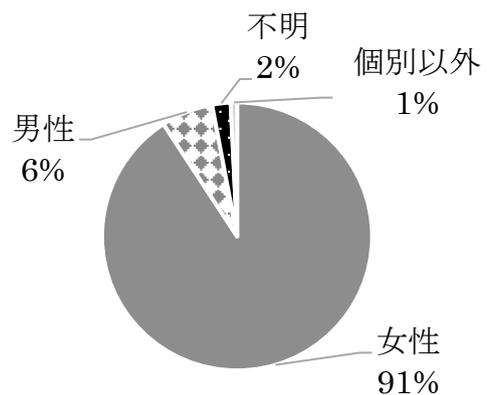


図6 相談対象者属性（新規件数）

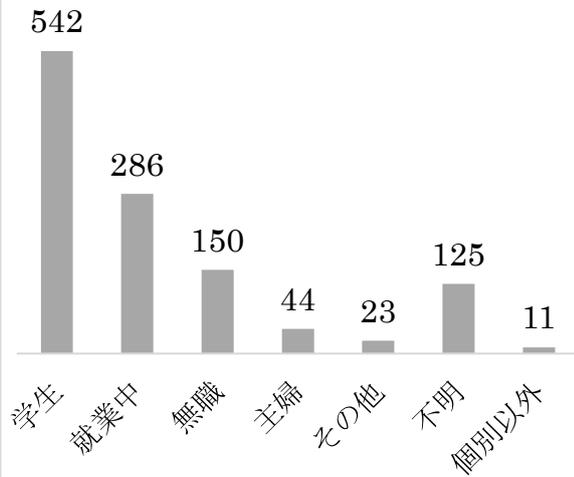


図7 摂食障害での受診状況（新規件数）

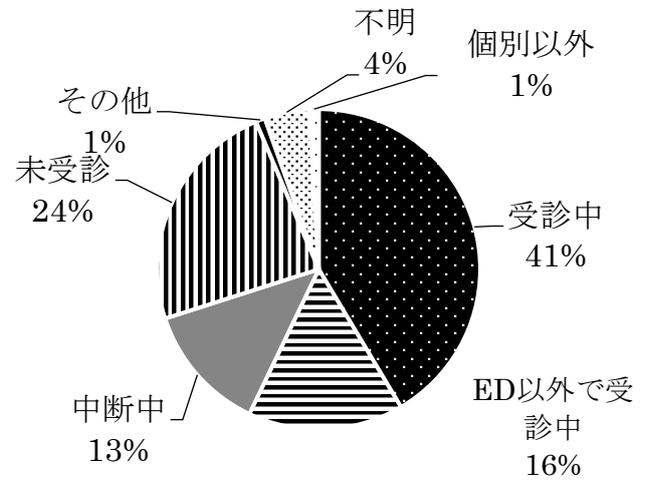


図8 対象患者状態（新規件数）

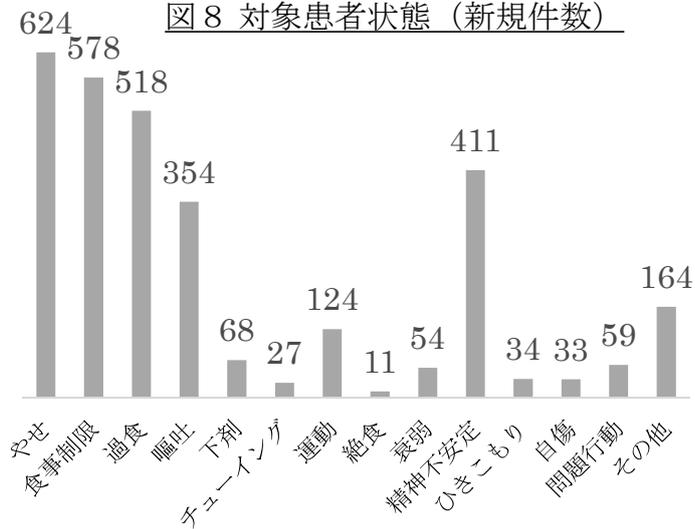
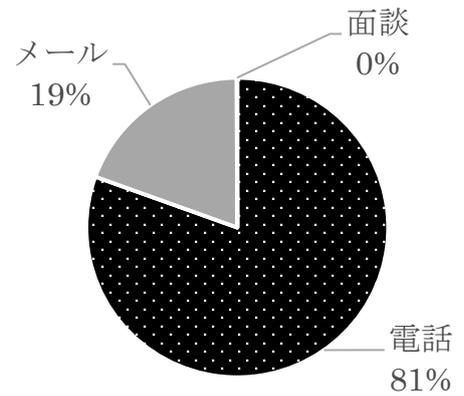


図9 相談経路（のべ件数）



<相談と対応の内容について>

- ・ 相談内容(延べ件数・複数回答)は、これまでの傾向と同じく受診相談が一番多く、引き続き、病院紹介の高いニーズが伺われた(図 10)。
- ・ 対応内容(延べ件数・複数回答)は、情報提供が最も多かった。前年は病院紹介が最も多かった。今年度は、情報提供に次いで、病院紹介、具体的な助言が続いた。(図 11) 相談件数の多いほととラインでは、相談者の地域にある医療機関への紹介数が少ないため、結果として情報提供の数が増えたものと推測される。

<相談内容分類>

・受診相談: 受診に関連する相談

相談例: 今の症状でも受診すべきか、何科にいけばよいか、どの病院がよいか

・疾患相談: 疾患・症状についての質問や、どう対処するかの相談

相談例: 食行動がおかしいが摂食障害なのか、過食を止めたいがにはどうしたらよいか

・対応相談: 患者への対応、接し方に関する相談

相談例: 食べろといっても食べないがどうすればよいか、受診を拒否している

・支援拠点病院業務: 支援拠点病院の業務、役割についての問い合わせ、公演依頼等

<対応内容分類>

・病院紹介: 具体的な名称を挙げての医療機関や公共機関の紹介

対応例: 支援拠点病院、関連病院等を紹介

・助言: 生活の改善、食行動、患者への対応などへの個別の状況に合わせた助言

対応例: 親に患者への接し方をアドバイス、ストレス解消法の提案

・情報提供: 一般的な知識や、受診法や治療法、社会資源などについての情報提供

対応例: 疫学・一般的な治療法などの知識の提供、ポータルサイトの紹介

・支援拠点病院業務: 支援拠点病院の説明、啓発活動など支援拠点業務に関する対応、講演依頼の受諾など

図10 相談内容 (のべ件数 複数回答)

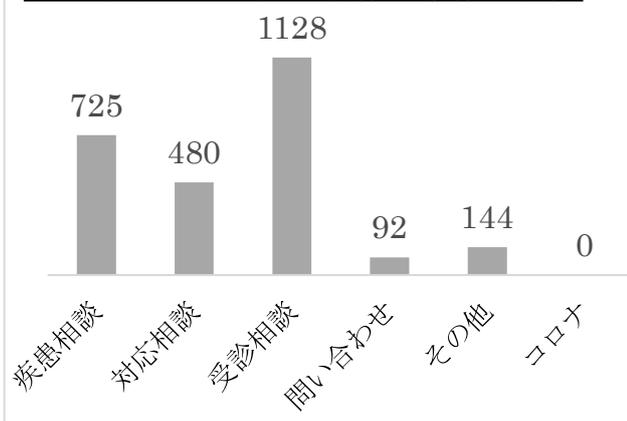
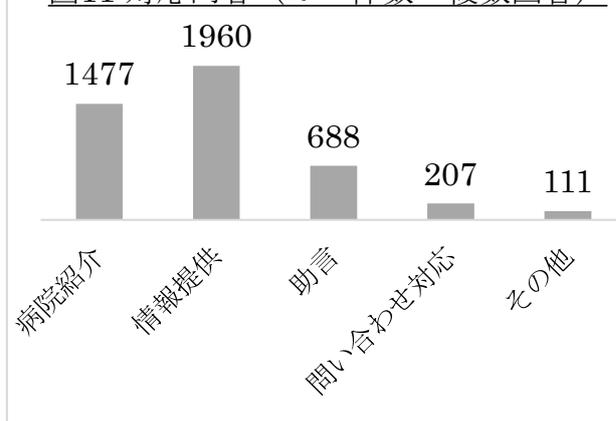


図11 対応内容 (のべ件数 複数回答)



<全体のまとめと提言>

- ・ 延べ相談件数は、1765 件であり、そのうち新規の相談が 1,162 件(66.9%)であった。昨年の件数(延べ 1,512 件,新規 858 件,新規割合 56.7%)よりも増加し、高い相談ニーズが伺われる。
- ・ 相談対象者の年齢以外の相談者の属性、患者の状態、相談内容には昨年度までとは大きな変化はなかった。コロナ禍以来、相談者の年齢や相談件数に変動が続き実態把握が難しいことから、コロナ禍の影響の調査・分析を他機関と共に進めるべきである。
- ・ 県外からの相談が 24%を占め、県外からも高い相談ニーズが伺われる。全国を対象としたほっとライン開設(国府台病院に委託)に伴って、各拠点病院においてやや県外からの相談は減少したと推測する。拠点病院のない都道府県の相談ニーズを当該県の行政及び医療機関にフィードバックし、支援拠点病院設置の機運の向上につなげる方略を確立すべきである。
- ・ 家族からの相談が半数以上を占め、特に母親からが多かった。患者・家族支援のリソースとして、ピアサポーターの育成、家族相談会の開催などの支援を検討したい。
- ・ 受診の相談や病院紹介についての高い相談ニーズが伺われる。これに対しては、ほっとラインの相談日の拡充、摂食障害を診療している医療機関リストを公開し、対応した(次項 治療支援・研修を参照)。

6. 治療支援・研修

治療支援・研修・計画

1. 昨年度開発した摂食障害治療研修プログラムを活用しオンライン研修会を開催し、全国に摂食障害治療者の裾野を広げる。
2. 新規支援拠点病院の設立を目指し、現拠点病院の診療・連携ノウハウを提供する「支援拠点病院設置準備研修会」を開催する。
3. 摂食障害診療施設リストを情報ポータルサイトで公開する。掲載医療機関として、令和2年度障害者総合福祉推進事業費補助金事業で実施した『摂食障害治療及び支援の実態把握及び好事例の把握に関する研究』の病院調査の対象となった摂食障害の治療を実施している医療機関で、掲載の同意が得られた施設のリストを掲載する予定である。

治療支援・研修・結果

1. 全国の病院、診療所、保健所、精神保健福祉センター、教育機関等に勤務し摂食障害に関心を有する医療従事者を対象に、「初心者が知っておくべき外来治療」をテーマに研修会を実施した。本研修に産婦人科医師・小児科医師の参加者が多いことや、同領域の質問が多いことを受けて本年度より「産婦人科領域における摂食障害の対応」「小児科医が診る摂食障害」の講義を新たに追加した。摂食障害の診方、考え方、初期対応、外来・入院診療、疾病・心理教育、医療連携の基本について学び、摂食障害の診療により自信をもってもらうことを目的とした。初回から現在5回開催分を集計し、参加者属性・アンケート結果を資料として末尾に掲載する。
2. 摂食障害の入院加算に関わる施設基準が緩和されたことを受け、入院診療のノウハウを提供するために、医療施設の医療者を対象として『摂食障害入院診療研修会』を開催した。開催は金沢大学で現地とオンラインのハイブリッド開催であった。研修会を通じて既存の支援拠点病院のメンバーと、新規支援拠点病院である金沢大学附属病院との交流を深めることができた。また福井大学を対象に入院治療について質疑応答に答える機会を現地開催で設け、拠点病院の入院治療のノウハウを提供する機会を設けた。
3. 令和4年10月摂食障害診療施設リストを公開した。地域の精神保健福祉センター・掲載病院・協議

会評議員に「精神保健福祉センター配布用 2022 年版(106 施設掲載)を配布した。ポータルサイトへ掲載許可をいただいた医療機関は、ポータルサイトに web 版 2022 年(102 施設掲載)を公開した。

4. 受け持った摂食患者を相談できる先がないという研修会受講者の声を受けて、次年度は摂食障害学会と共催して、第 26 回日本摂食障害学会学術集会（2023 年 10 月 21 日～22 日）で症例検討を行う予定である。

講習会、研修会、ミーティング等

第二回支援拠点病院設置準備研修会	
開催日	R4/06/30～07/31
対象者	新規支援拠点病院(金沢大学附属病院神経科精神科)関係者
講師	高倉修、河合啓介、竹林淳和、西村克彦
実施場所	オンデマンド配信
参加人数	4
摂食障害研修会	
開催日	R4/08/08～09/12 R4/08/22
対象者	茨城県内で摂食障害支援に携わる教育職・医療職・行政職
講師	竹林淳和、河合啓介、関口敦
主催	茨城県精神保健福祉センター 摂食障害治療全国支援センター
実施場所	オンデマンド配信+ライブ配信
参加人数	オンデマンド+ライブ 223
摂食障害治療研修『初心者が知っておくべき外来治療』第 4 回	
開催日	R4/08/05～08/27 R4/08/28
対象者	摂食障害に関心を有する医療従事者
講師	安藤哲也、高倉修、佐藤康弘、吉内一浩、山内常生、河合啓介、小川真里子、作田亮一
実施場所	オンデマンド配信+ライブ配信
参加人数	オンデマンド 217 ライブ170
摂食障がいへの治療支援に関する研修会	
開催日	R4/08/08～09/12 R4/08/29
対象者	福井県内の医療者、学校教諭、養護教諭、心理職等の摂食障がい支援に関わる方
講師	高倉修、竹林淳和、関口敦
主催	福井県 健康福祉部 障がい福祉課 摂食障害治療全国支援センター
実施場所	オンデマンド配信+ライブ配信
参加人数	オンデマンド+ライブ 134
第 19 回摂食障害治療研修	
開催日	R4/10/05～10/07
対象者	摂食障害に関心を有する医療従事者
講師	安藤哲也、高倉修、山内常生、小原千郷、宇佐美政英、西園マーハ文、鈴木眞理、中里道子、森野百合子、武田綾、佐藤康弘

実施場所	ライブ配信
参加人数	81
摂食障害治療研修『初心者が知っておくべき外来治療』第5回	
開催日	R5/12/04
対象者	摂食障害に関心を有する医療従事者
講師	安藤哲也、高倉修、佐藤康弘、吉内一浩、山内常生、河合啓介、小川真里子、作田亮一
実施場所	オンデマンド配信+ライブ配信
参加人数	オンデマンド 149 ライブ 122
摂食障害入院治療研修『入院治療の留意点とコツ』第1回	
開催日	R4/12/12～R5/1/31 R5/01/17
対象者	摂食障害の入院診療に関わる医療従事者
講師	講師:竹林淳和、野林美裕、鈴木麻友子、望月洋介、位田文香 質疑応答:佐藤康弘、河合啓介、高倉修、北島智子、関口敦、井野敬子
実施場所	オンデマンド配信+ライブ配信/現地開催 金沢大学付属病院 神経科精神科
参加人数	オンデマンド61 ライブ6

参考資料: 摂食障害治療研修会時間割/チラシ

2022年度 精神保健に関する技術研修
摂食障害治療研修
 ～初心者を知っておくべき外来治療～(第5回)

<スケジュール>

日付	時間	講師名	所属
11月11日 (金) ～12月3日 (土)	<オンデマンド配信> 1. 摂食障害の今	安藤 哲也	国際医療福祉大学 成田病院 心療内科 教授
	<オンデマンド配信> 2. 一般医でもできる初期治療	高倉 修	九州大学病院心療内科 講師
	<オンデマンド配信> 3. 摂食障害の理解～患者、家族にどう伝えるか～	佐藤 康弘	東北大学病院心療内科 講師
	<オンデマンド配信> 4. 一般医で行うべき検査・身体管理・専門家との連携	吉内 一浩	東京大学医学部附属病院 心療内科 准教授
	<オンデマンド配信> 5. 摂食障害の専門的治療と紹介の方法	山内 常生	大阪公立大学大学院医学研究科 神経精神医学 講師
	<オンデマンド配信> 6. 小児科医が診る摂食障害	作田 亮一	関西医科大学埼玉医療センター 子どものこころ診療センター長
	<オンデマンド配信> 7. 産婦人科領域における摂食障害への対応	小川 真里子	東京歯科大学市川総合病院 産婦人科 准教授
9:10～	(おむかえ付開始)		
09:30～9:35 (5分)	開会のご挨拶	金 吉晴	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 所長
9:35～9:40 (5分)	ガイダンス		
		関口 敦	国立精神・神経医療研究センター 行動医学研究部 部長 摂食障害臨床実践センター センター長
9:40～10:25 (45分)	<ライブ配信> 8. 症例からみる摂食障害の治療の流れとコツ	河合 啓介	国立精神・神経医療研究センター 医務局心療内科 診療科 長
10:25～10:30	(休憩)		
10:30～12:00 (90分)	<ライブ配信> 9. 質疑応答	全講師	
12:00	(閉講式)		

令和4年度 第19回摂食障害治療研修会 講義日程

日時 : 令和4年10月6日(水)～7日(金)
 場所 : オンライン開催

日付	曜日	時間	講師名・所属/講演内容
10月6日	水	9:30～11:00	開講式 ガイダンス 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 長 金 吉晴 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部 部長 関口 敦
		9:30～11:00	安藤 哲也 国際医療福祉大学 成田病院 心療内科 教授 摂食障害の今 - 実践 - 治療の進め方
		11:15～12:45	高倉 修 九州大学病院 心療内科 講師 加齢による摂食障害
		13:30～15:00	山内 常生 大阪公立大学大学院医学研究科 神経精神医学 講師 入院治療
		15:15～16:45	小原 千寿 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部 研究員 文京大学 人間科学部 臨床心理学科 兼任准教授 心理教育
10月6日	木	9:30～11:00	鈴木 眞理 埼玉学院大学 心理学部 国際心理学科 特任教授 治療の進め方 - 治療的介入
		11:15～12:45	高岡マハ 文 明治学院大学 心理学部 心理学科 教授 精神科 入院治療 - 入院治療の進め方
		13:30～15:00	宇佐美 成美 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 子どものこころ診療センター センター長 児童科科 診療科 長 小児科の加齢による摂食障害
		15:15～16:45	中里 望子 国際医療福祉大学 医学部 精神科 主任教授 治療法 - 対するガイドライン セル・ヘルプ 活用と治療法
		9:30～11:00	森野 百合子 尾道聖心学院 小児科 子どものこころセンター 部長 摂食障害治療の家庭支援
10月7日	金	11:15～12:45	武田 雄 特定非営利活動法人のひのくに 心理療法士 治療法の進め方
		13:30～15:00	佐藤 康弘 東北大学病院 心療内科 講師 最新動向
		15:15～16:45	質疑応答(佐藤 康弘 関口 敦 森野 百合子)

— 初心者が知っておくべき外来治療 —

摂食障害治療研修

第1部 オンデマンド配信
 令和4年11月11日(金) 10:00
 ～12月3日(土) 23:00

1. 摂食障害の今 | 安藤哲也 [国際医療福祉大学]
2. 一般医でもできる初期治療 | 高倉修 [九州大学]
3. 摂食障害の理解 - 患者、家族にどう伝えるか - | 佐藤康弘 [東北大学]
4. 一般医で行うべき検査・身体管理・専門家との連携 | 吉内一浩 [東京大学]
5. 摂食障害の専門的治療と紹介の方法 | 山内常生 [大阪公立大学]
6. 小児科医が診る摂食障害 | 作田亮一 [関西医科大学埼玉医療センター]
7. 産婦人科領域における摂食障害への対応 | 小川真里子 [東京歯科大学市川総合病院]

第2部 ライブ配信
 令和4年12月4日(日)
 9:30～12:00

8. 症例からみる摂食障害の治療の流れとコツ | 河合啓介 [国府台病院]
9. 質疑応答 全講師
※講義のご質問に対しは講師陣から回答ももたらせる時間です。
 ※第2部のライブ配信については、当日配信のみです。
 後日配信はございません。

対象 | 摂食障害に関心を有する医療従事者等
 第1部・2部どちらも参加できる方。
 会場 | オンライン開催
 参加費 | 3,000円
 定員 | 300名
 申込 | 下記URLからお申込みください。
(詳細も以下より参照ください)
https://www.ncnp.go.jp/info/2022/5_sesyokugainai.html
 締切 | 令和4年9月21日(木)
 申込多数の際は、早期締め切り

お問い合わせ先 | 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部 摂食障害研修 担当 奥山・藤室
 Email: ed_kenshu@ncnp.go.jp 番号は「12月4日治療研修問い合わせ」

— 入院治療の留意点とコツ — 第一回

摂食障害入院治療研修

対象 | 摂食障害入院治療を実施している施設の医療関係者
 会場 | オンライン開催
 参加費 | 無料
 定員 | 400名
 申込 | 下記URLからお申込みください。(詳細も以下より参照ください)
<https://ninh-ncnp.smtkg.jp/public/seminar/view/2000>
 締切 | 令和4年12月25日(日) 業者あり

第1部 オンデマンド配信
 令和4年12月12日(月) 10:00～
 令和5年1月31日(土) 23:00

1. 摂食障害診療総論 | 竹林洋和 [浜松医科大学医師]
2. 入院治療プログラムの解説 | 竹林洋和 [浜松医科大学医師]
3. 看護師の関わり方: 業務手順や患者説明 | 野村美裕、鈴木麻友子 [浜松医科大学看護部]
4. 心理師の関わり方: 心理教育、疾病教育、家族指導、家族教室の運営 | 望月洋介 [浜松医科大学心理士]
5. 栄養士の関わり方: デイケアでの患者指導、医師との連携 | 位田文香 [浜松医科大学栄養士]
6. 地域医療連携の構築 | 竹林洋和 [浜松医科大学医師]

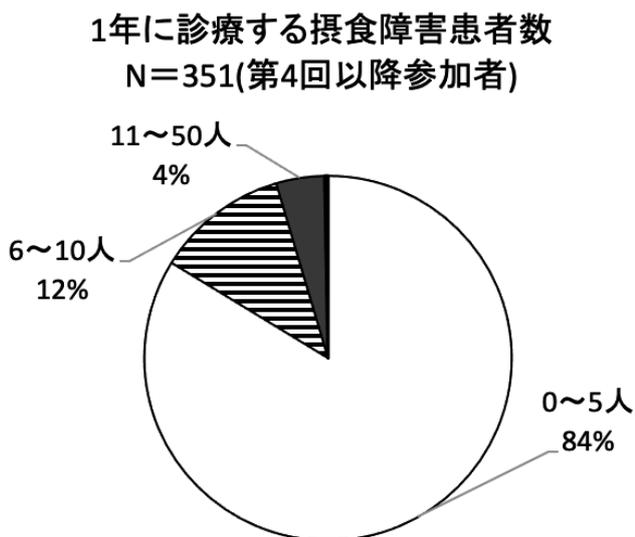
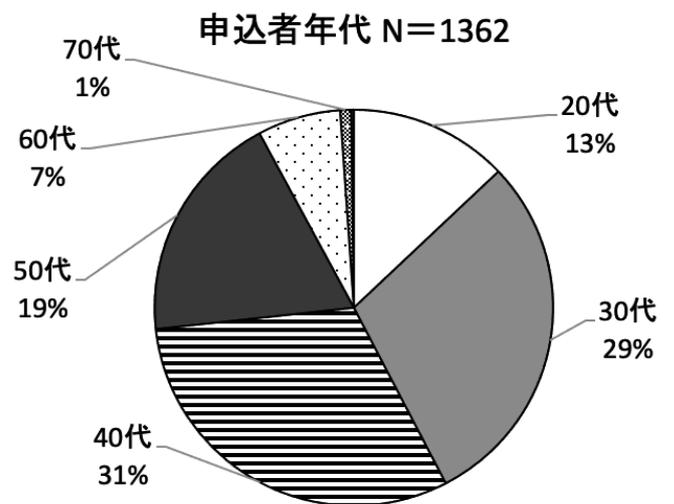
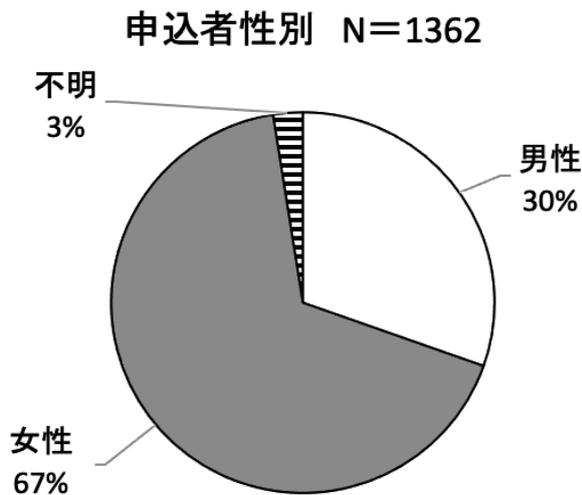
第2部 ライブ配信
 令和5年1月17日(火)
 16:30～18:30

7. 質疑応答 | 竹林洋和、野村美裕、望月洋介、位田文香
※講義のご質問に対しは講師陣から回答ももたらせる時間です。
 ※第2部のライブ配信については、当日配信のみです。
 後日配信はございません。

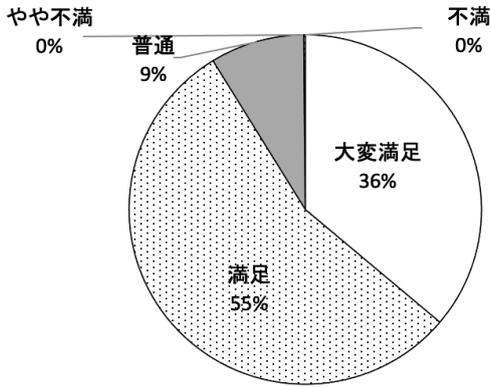
お問い合わせ先 | 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部 摂食障害研修 担当 奥山・藤室
 Email: ed_kenshu@ncnp.go.jp 番号は「摂食障害 入院治療研修 問い合わせ」

研修会アンケート結果(2021年度-2022年度:初心者が知っておくべき外来治療)

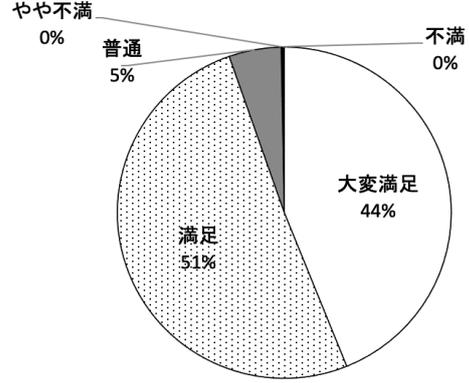
研修会(開催日時)	申込者(名)	ライブ配信参加者(名)	事後アンケート回答者(名)	備考
第1回(2021.1.24)	351	326	305	
第2回(2021.12.5)	446	227	241	オンデマンドで閲覧可能にした
第3回(2022.2.27)	227	121	126	身体管理・専門家連携を追加
第4回(2022.8.28)	217	170	176	産婦人科・小児科を追加
第5回(2022.12.4)	149	122	120	
合計	1390	966	968	



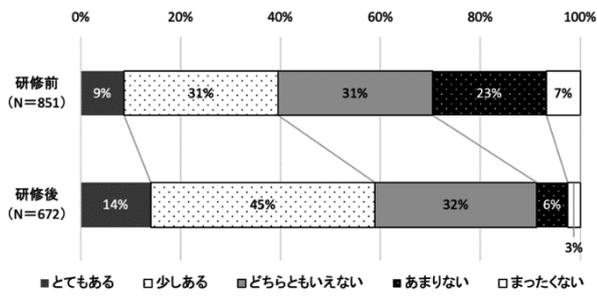
研修会プログラム構成の満足度



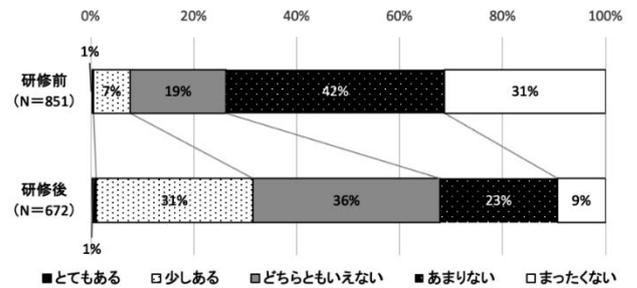
研修会の満足度



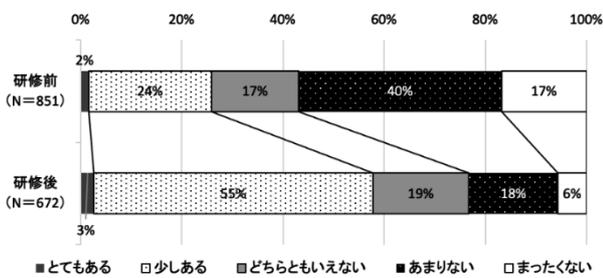
摂食障害患者を外来で治療したいと思いますか？



摂食障害患者を外来で治療するための自信はありますか？



摂食障害患者を外来で治療するための知識はありますか？



7. 普及啓発活動

普及啓発活動・計画

1. 情報ウェブサイトコンテンツの更新・拡充を実施する。令和5年の2月頃までに実施する。
2. 日本摂食障害協会と共催し、世界摂食障害アクションデイ2022にて市民公開講座を開催する。患者・家族を対象とした情報発信および患者・家族の支援ニーズの把握を目指す。

普及啓発活動・結果

1. 摂食障害に関する情報ウェブサイトの運営

- ・ 摂食障害情報ポータルサイト(一般向け、専門職向け)運営委員を実施団体5名で構成した。
- ・ 令和2年度障害者福祉推進事業「摂食障害の実態把握及び後事例の把握に関する検討事業」の成果物である「摂食障害を診療している医療機関リスト -Web版-」を摂食障害情報ポータルサイトへ掲載した(2022年10月)。受診先に困っている摂食障害患者の受診の一助になると考えている。今後、診療機関の再調査の予定はないが、軽微な情報修正については年2回程度行う予定である。
- ・ 「摂食障害を診療している医療機関リスト 精神保健福祉センター版」を全国の精神保健福祉センター、摂食障害治療拠点病院、掲載医療機関に配布した。
- ・ ポータルサイトの一部のコンテンツを更新した。摂食障害に対する心理療法、DSM-5で新たに摂食障害に加わった2疾患(過食性障害、回避・制限性食物摂取症)について新規記事を追加した。ポータルサイト(一般の方)の記事のうち、「小中学生の皆さんへ」を「10代のあなたへ」とし、記事を更新した。更なる更新対象の記事を選定し、執筆依頼をした。
- ・ ポータルサイトにおいて、随時イベント、研修案内、摂食障害に関する情報を掲載した。全国支援センターHPのコンテンツを更新した。
- ・ 国府台病院にて摂食障害「相談ほっとライン」のホームページを更新し、SNS(Twitter)においても情報を発信し啓蒙に努めた。フォロワー数は600に達した。
- ・ 令和4年1月～令和5年1月までの12ヶ月間で一般向け、専門向け合わせ1,454,160ページビュー、665,388ユーザーのアクセスがあった。前年は10ヶ月間で集計したが、それでもページビューは前年比91.5%、ユーザーは同99%であり、今年度は1割程度減少している。
- ・ サイト内で最もランディングが多いページは、一般サイト「摂食障害のサイン | 摂食障害について」であった。
- ・ 摂食障害全国支援センターのHPアクセス数が、80,954ページビュー、前年比191%と大幅に伸びている。ポータルサイト経由で12,325のアクセスがある。

2. 世界摂食障害アクションデイ2022

- ・ 2022年6月5日『世界摂食障害アクションデイ2022』の市民公開講座を、日本摂食障害協会との共催で、オンライン開催し、本事業が国府台病院に委託している相談業務について「全国に広げる相談支援体制」という演題で紹介した。摂食障害患者を含めた309名にご参加いただいた。事前アンケートなどで患者・家族の支援ニーズの調査も行った。

3. メディア関連対応

- ・ メディアの取材に応じ、摂食障害という疾患について、摂食障害にまつわる医療体制の課題、本事業の活動などについて情報提供をした。
- ・ Googleと連携し、摂食障害と検索するとOne Box(検索結果の上に表示される情報部分)に摂食障害「相談ほっとライン」の相談日と電話番号が掲載されるようにする予定である。

インターネット閲覧回数(2022.1-2023.1):

摂食障害情報ポータルサイト

1,331,744 ページビュー(前年比 91.5%) 663,271 ユーザー(前年比 99%)

摂食障害全国支援センターHP

80,954 ページビュー(前年比 193%)、30,908 ユーザー(同 191%)

但し、前年度は 10 ヶ月、今年度は 12 ヶ月で集計

摂食障害情報ポータルサイト(一般)閲覧数ランキング TOP10

2022 年 1 月～2023 年 1 月 (サイト内は 29 ページ、うち 10 位まで)

	ページタイトル	ページビュー数
1	摂食障害のサイン 摂食障害について	240,880
2	摂食障害はどんな病気? 摂食障害について	206,385
3	よくある相談	88,584
4	摂食障害からの回復 摂食障害で悩んでいる方へ	79,142
5	摂食障害情報 ポータルサイト(一般の方)	64,140
6	子どもの摂食障害 摂食障害を支える周囲の方へ	56,093
7	摂食障害について	44,144
8	嘔吐や下剤乱用 摂食障害について	43,060
9	摂食障害で悩んでいる方へ	41,032
10	ご家族の方へ 摂食障害を支える周囲の方へ	38,830

摂食障害情報ポータルサイト(専門)閲覧数ランキング TOP10

2022 年 1 月～2023 年 1 月 (サイト内は 12 ページ、うち 10 位まで)

	ページタイトル	ページビュー数
1	摂食障害の概説と疫学	32,679
2	トップページ	33,382
3	摂食障害の治療	25,114
4	診療の手引き・ガイドライン	12,378
5	多職種のかかわり	11,604
6	参考資料・学校関係	10,271

7	研修案内	6,079
8	診療連携・相談窓口	5,123
9	身体科・精神科連携指針	1,844
10	サイトご利用にあたって	500

摂食障害全国支援センター 閲覧数ランキング TOP10

2022年1月～2023年1月(サイト内は11ページ、うち10位まで掲載)

	ページタイトル	ページビュー数
1	摂食障害全国支援センター	42,292
2	相談窓口	11,447
3	拠点病院設置サポート	5,905
4	本事業での活動	3,728
5	本事業について	2,875
6	調査・研究	2,704
7	リンク集	2,022
8	事業報告書	1,843
9	活動報告	1,476
10	リンク・著作権等	724

メディア対応（取材に応じかつ記事がリリースされたもののみ掲載）

「やせたい私」が嫌い 摂食障害のリアル 情報編	
リンク	https://www.asahi.com/articles/DA3S15356789.html
メディア媒体	朝日新聞
公表日	2022年7月15日 25面
取材対応	鈴木真理 関口敦 井野敬子
摂食障害の小中高生急増 コロナ禍の影響も	
リンク	なし
メディア媒体	共同通信(愛媛、佐賀、中国新聞、琉球新報他に記事掲載)
公表日	オンライン配信 10月14日 10月15日付朝刊
取材対応	関口敦 井野敬子

インタビュー◎身体症状の重症度や有無で紹介先の検討を 摂食障害疑い例にどう対応？	
リンク メディア媒体 公表日 取材対応	https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/report/202212/577415.html 日経メディカル オンライン配信 2022年11月30日 関口敦 井野敬子
掲載「医療ルネサンス」 2023年2月に摂食障害をテーマにした連載(全6回)	
リンク メディア媒体 公表日 内容 取材対応	ヨミドクターURL https://yomidr.yomiuri.co.jp/iryo-rennaissance/ 読売新聞 ▽1・2回目(2月15日&17日) 摂食障害とは…ミス日本で当事者の河野瑞夏さんの体験 鈴木眞理 神経性やせ症(摂食制限型→過食・嘔吐型) ▽3回目(2月18日) 入院治療(行動制限)やせ症…九州大病院・高倉修 ▽4回目(2月20日) CBT-E 過食症…東北大病院・佐藤康弘／関口敦 ▽5回目(2月21日) FBT やせ症…二子玉川・荻原かおり／成増厚生病院・森野百合子 ▽6回目(2月22日) 基礎知識 Q&A…日本摂食障害協会 鈴木眞理 鈴木眞理 高倉修 佐藤康弘 荻原かおり 森野百合子 関口敦 井野敬子 センターよりどのような内容をとりあげると良いかの助言と、最新の治療／国内の課題について情報提供した。
摂食障害の子ども患者高止まり…保護者や養護教諭が気づけるサイン	
リンク メディア媒体 公表日 内容 取材対応	https://withnews.jp/article/f0230309000qq0000000000000000W02c10701qq000025562A 朝日新聞 withnews オンライン配信 2023年3月9日 コロナ禍における子どもの摂食障害患者の増加、高止まりの調査結果を受け、子供の摂食障害に保護者や学校関係者が気を配るべきサインについて紹介している。 関口敦 井野敬子

その他

総合授業インタビュー対応	
取材元 リンク 放映日公表日 取材対応	湘南学園高校 学生 なし 学生の総合授業の一環として学生のインタビューにオンラインで応じた。総合学習の授業コンセプトは「世界中の人が人間らしく生きられる社会について考えよう」をテーマに「自分たちが暮らしている社会に存在する課題」について同校の学生がテーマを選んで学ぶもの。その中でも「摂食障害」について学習しているグループのインタビューを受けた。 関口敦 井野敬子

8. 考察

令和4年度は、石川県摂食障害支援拠点病院の新規指定、入院治療研修の開催、診療施設リストの公開、自治体主催の研修会の支援、各種メディア対応など、寄せられたニーズに対応し続けた1年であった。主に本年度の成果および新たに見えてきた課題を振り返り、医療者、当事者、自治体、メディアからの各種要望に応えられる事業運営体制の構築へ向けて、総論的な考察を行いたい。

今年度最大の出来事は、10月に石川県摂食障害支援拠点病院に金沢大学附属病院(神経科精神科)が指定されたことである。5年ぶり5カ所目の新規支援拠点病院であり、北陸地方では初である。新規指定に至る過程は、一義的に金沢大学の菊知先生、内藤先生のご尽力の賜物であったが、指定後の支援に関しては、既存の支援拠点病院の協力を得てコーディネーター研修会や入院治療研修を開催するなど、全国支援センターとして一定の役割を果たせたと考えている。今後、新規指定される拠点病院に対しても、同様のスキームで支援できる見通しが立った。

石川県に続く拠点病院の指定が期待され、実際に複数の医療機関や自治体関係者からの問い合わせをいただいているが、新規指定に向けた具体的な動きは少ない。新規指定へのボトルネックは、①医療機関/自治体が、①摂食障害支援ニーズを把握していない、②摂食障害対策の優先度を上げられない、③現状の摂食障害診療体制に問題を感じていない、ことに大別されると考えている。また、これらボトルネックを通過したとしても、医療機関や精神保健医療担当者が交渉をして、都道府県の予算を確保しなければいけない現状が、大きなハードルとなっている。全国支援センターとしてもできる限りのサポートを行いたい、現状で支援可能な手段は各種研修会の開催による既存支援拠点病院における好事例の共有に留まっている。厚生労働省、日本摂食障害学会、日本摂食障害協会とも連携によるオールジャパン体制を構築して、各々の立場で可能な限りのサポートをできる体制を整える必要がある。

医療者や当事者からの要望が強かった、診療施設リストをWeb公開することができた。診療施設リストは、掲載医療機関に患者が集中することの懸念により公開が難しかったが、今回掲載を同意いただいた施設に限定して公開にたどり着いた。このような事情から、掲載医療施設は100施設ほどにとどまり、地域によってはほとんど掲載施設がないケースもあることから、ニーズに充分応えきれていないことは把握している。しかし、摂食障害診療体制の現状を表す資料としても価値があると考えている。またリスト公開後に医療機関から追加掲載を希望する声も聞かれるようになっており、今後の拡大が期待される。

最後に、メディア対応にも触れておきたい。国府台病院に委託している電話相談事業「相談ほっとライン」や、上述の診療施設リストの公開、コロナ禍における10代患者の増加と高止まりの発表を受けて、多くのメディアからの取材依頼を受けている。新聞やテレビなどの従来メディアに加えて、SNSプラットフォーム業者からも問い合わせをいただき、SNS上に跋扈している摂食障害発症や悪化のきっかけとなり得るような有害なコンテンツを規制して、摂食障害の正しい知識の普及啓発へとつなげる活動へと発展している。更に、高校の学習指導要綱に摂食障害が加わったことにより、高校生からの問い合わせも受けている。これら地道な対応が啓発活動とともに、摂食障害のスティグマ対策にもつながることを期待している。

3. 宮城県摂食障害支援拠点病院活動報告書

令和 4 年度

宮城県摂食障害支援拠点病院

Miyagi Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和4年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

1. 基本情報

支援拠点病院名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
宮城県摂食障害支援拠点病院	東北大学病院心療内科	980-8574	宮城県仙台市青葉区星陵町1-1	022-717-7328

URL 宮城県摂食障害支援拠点病院：<http://plaza.umin.ac.jp/~edsupportmiyagi/index.htm>

摂食障害支援拠点病院職員

氏名	所属	役職
福土 審	東北大学大学院医学系研究科心療内科学／東北大学病院心療内科	教授／科長
佐藤 康弘	東北大学病院心療内科	講師
金澤 素	東北大学大学院医学系研究科心療内科学／東北大学病院心療内科	准教授
馬上 峻哉	東北大学病院心療内科	助手
後藤 漢	東北大学病院心療内科	助手
阿部 麻衣	東北大学病院心療内科	コーディネーター

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
阿部 麻衣	公認心理師/医療心理士

2. 要旨

宮城県摂食障害支援拠点病院では、摂食障害対策推進協議会を設置し、摂食障害に関する治療支援また連携について討議し、事業計画を策定している。

相談支援では 相談体制を専用回線、専用メールアドレスにて週3日相談を受付。コーディネーターが相談内容を聞きとり、医師と相談し回答。今年度は新規相談114件、延べ相談433件で、若年層(10-20代)の新規相談対象患者が7割近くを占める。

治療支援にては 昨年度より、新規患者数が増加しており、特に若年層の10代が目立った。

研修において 院内での症例検討会の継続、教育委員会での研修をおこなった。

啓発普及活動 継続して市民公開講座、家族教室を開催。年々、参加者が多く、当事業の認知度が広がっていること、市民の摂食障害への強い関心が伺える。

行政とは、 摂食障害対策推進協議会を設置し、摂食障害に関する治療支援また連携について討議し、事業計画を策定。

その他の活動 ホームページやSNSを活用して啓蒙活動を継続。

考察 相談支援数も治療支援においても、対象患者は若年層の割合が大きく、今後も、摂食障害について相談、早期治療につながる支援が不可欠である。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	福土 審	医師（東北大学病院心療内科 科長、医学系研究科心療内科学 教授）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
委員	富田 博秋	医師（東北大学病院精神科、医学系研究科精神神経学分野 教授）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	佐藤 康弘	医師（東北大学病院心療内科 講師）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	金澤 素	医師（東北大学医学系研究科心療内科学 准教授）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	橋本 崇	宮城県庁（保健福祉部精神保健推進室 室長）	県保健福祉部障害福祉課
同上	菅原 美帆子	宮城県庁（保健福祉部精神保健推進室 精神保健推進班 室長）	県保健福祉部障害福祉課
同上	小原 聡子	医師（精神保健福祉センター 所長）	県精神保健福祉センター
同上	石川 達	医師（東北会病院 院長）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	野村 泰輔	医師（のむら内科・心療内科クリニック 院長）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	舩越 俊一	医師（宮城県精神医療センター 副院長）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	遠藤 由香	医師（広瀬病院）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	町田 知美	医師（東北ろうさい病院心療内科 副部長）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	築場 玲子	宮城県仙台保健福祉事務所・塩釜保健所（技術副参事兼技術次長）	保健所
同上	〇〇〇〇〇	摂食障害患者	摂食障害関係者
同上	〇〇〇〇	摂食障害家族	摂食障害関係者

摂食障害対策推進協議会

	開催日	議 題
第1回	令和4年7月1日	令和4年度摂食障害支援拠点病院設置運営事業実施計画について
第2回	令和5年1月20日	令和4年度摂食障害支援拠点病院設置運営事業の活動報告について

4. 相談支援

相談体制

専用回線、専用メールアドレスにて、火～木曜日の週3日にて相談を受付。

コーディネーターが相談内容（相談者の属性、相談対象者の困っている症状や状態、性別、年齢、身長、体重、医療機関受診の有無、お住まいの地域）を聞きとり、医師と相談後、対応について回答。

対応相談

摂食障害の症状、状態に応じ、医師と相談し、対応を回答する。摂食障害治療支援コーディネーターのための相談支援の手引きの使用や、摂食障害ポータルサイト、「学校と医療のより良い連携のための対応指針」、EAT119、書籍、自助グループ等を紹介。

受診相談

県内対象者の場合

対象者の状態に応じて、拠点病院の連携医療機関や、カウンセリングを希望の場合には相談機関を案内。

県外対象者の場合

「摂食障害相談施設リスト」に掲載されている対象者の住まい地域の自治体にある医療機関や、各都道府県の精神保健福祉センターの連絡先を案内。

相談支援結果

令和4年(2022年)4～11月までの相談延べ件数は433件、新規相談件数は111件であった。新規相談件数の内訳は、電話相談が85件(76.6%)、メール相談が26件(23.4%)であった。電話相談は、本人、母が6割近くを占め、メール相談は、7割が本人からであった。経年推移で見ても、本人、母からの相談が多い。また、地域別の相談内訳では、県内が7割近く、県外が2割と、地域を問わず、相談窓口が必要とされている。また、新規相談対象患者は10-20代の若年層が7割近く(73名：65.8%)を占めていた。相談対応としては、相談対象患者が、「摂食障害と疑われる状態であるがどう対応したらよいのか」、「医療機関に連れて行った方がよいのか」などの状況や対応について、「いま、どの段階に相談対象患者がいるのか」といった不安や心配が寄せられた。また、治療が必要な場合には、「何科に行ったらよいのか」、「患者にどう声をかけ医療機関に連れていけばよいか」、「近くに専門の医療機関がない」といった相談が寄せられた。そして、摂食障害からの回復にはどうしても時間がかかること、年単位で時間を要す現実に落胆、現実を受け入れることがなかなか容易ではない患者、家族も多い。

医療機関12件（小児科6件、精神科3件、心療内科3件）からは受診相談が寄せられ、その対象患者の年齢は10代が9件(75%)と、若年層が主であった。

患者属性の推移では、社会人群（就業者、無職、主婦）と学生群（小中高、大/専）で分けてみると、2015-2019年度までは、社会人群が学生群より上回っていたが、2020-2022年にかけて逆転している状況であった。

情報提供としては、ポータルサイトや書籍の紹介、県外からの相談であれば、「摂食障害治療施設リスト」の案内、またそれに掲載されているお住まいの地域のある医療機関を紹介、各都道府県の精神保健福祉センターの案内、EAT119 林利香さんのホームページなどの紹介をおこなった。

相談件数 期間:R4.4-R4.11

新規相談件数	延べ相談件数
111	433

地域(新規件数)n= 111 期間:R4.4-R4.11

県内	県外	不明	計
78	22	11	111

相談者(新規件数)n= 111 期間:R4.4-R4.11

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
39	8	33	1	3	12	0	5	8	2	111

相談対象患者の年齢(新規件数)n= 111 平均年齢: 23.4 SD= 11.8 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	不明	個別以外	計
0	48	25	10	9	1	1	1	16	0	111

相談対象患者の性別(新規件数) n= 111 間:R4.4-R4.11

女性	男性	その他	不明	個別以外	計
95	8	0	8	0	111

相談対象患者状態(新規件数) n= 111 期間:R4.4-R4.11

やせ	食事制限	過食	代償行動					精神・行動症状					
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	その他
67	48	43	23	5	0	16	0	2	58	3	2	5	1

相談対象患者属性(新規件数) n= 111 期間:R4.4-R4.11

学生				社会人			その他	不明	個別以外	計
小	中	高	大/専	就業中	無職	主婦				
9	16	10	16	26	9	4	1	20	0	111

摂食障害での受診状況(新規件数) n= 111 期間:R4.4-R4.11

受診中	中断中	未受診	ED以外で受診中	その他	不明	個別以外	計
64	10	19	7	0	11	0	111

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ(新規件数) n= 111 期間:R4.4-R4.11

インターネット	紹介				メディア				ポスター・ちらし	その他	不明
	機関			その他・不明	テレビ	新聞	自治体・広報	その他・不明			
	医療	行政	教育								
85	11	1	1	1	1	2	0	0	0	0	9

相談経路(延べ件数)n= 433 期間:R4.4-R4.11

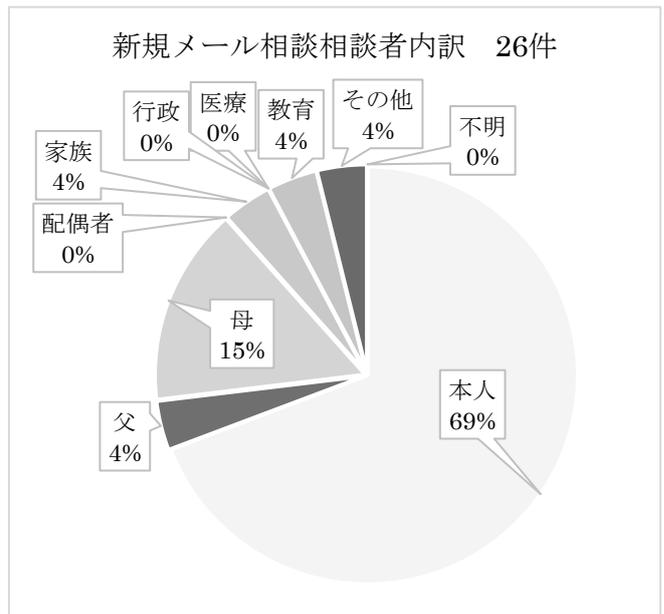
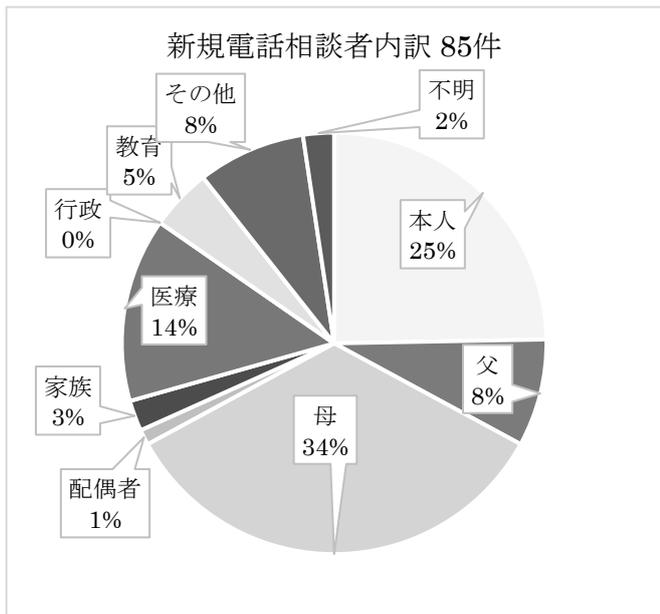
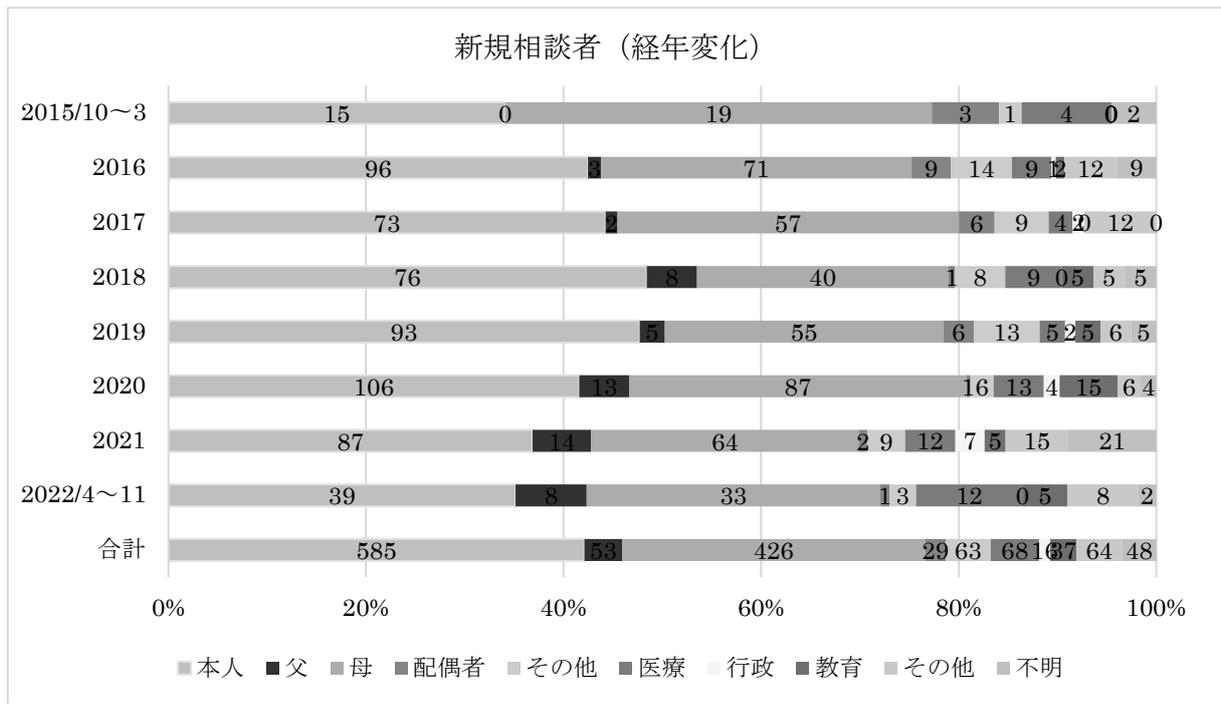
電話	メール	面談	計
291	142	0	433

相談内容(延べ件数) n= 433 期間:R4.4-R4.11

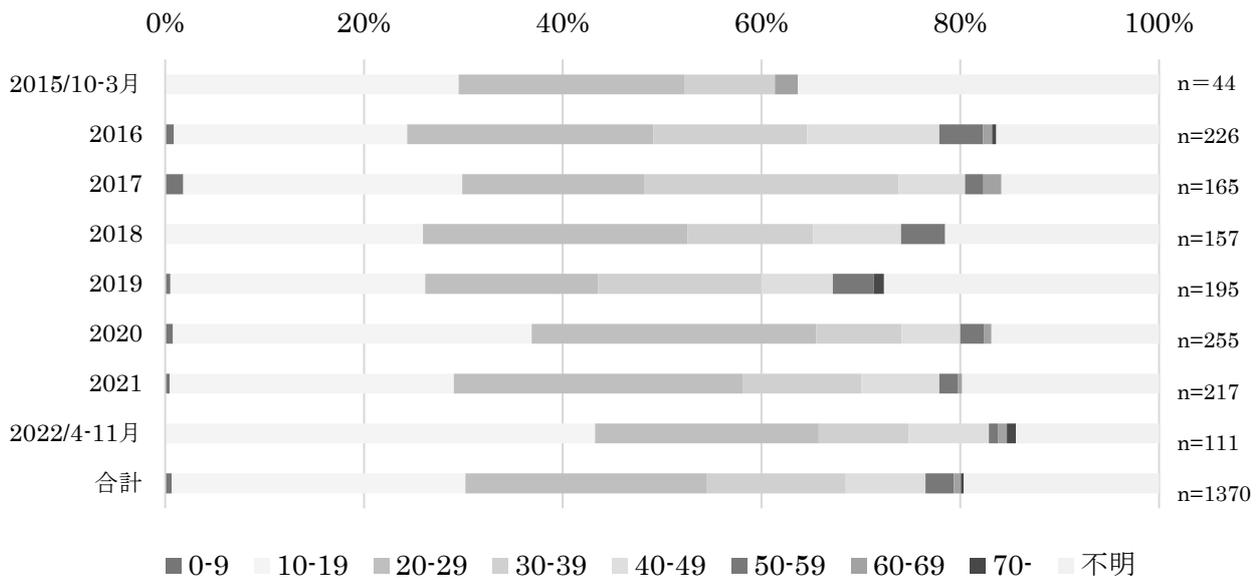
疾患相談	有り	対応相談			受診相談	問い合わせ	その他	コロナ関連
		接し方	生命危機	受診拒否				
165	49	45	2	15	132	5	12	18

対応内容(延べ件数) n= 433 期間:R4.4-R4.11

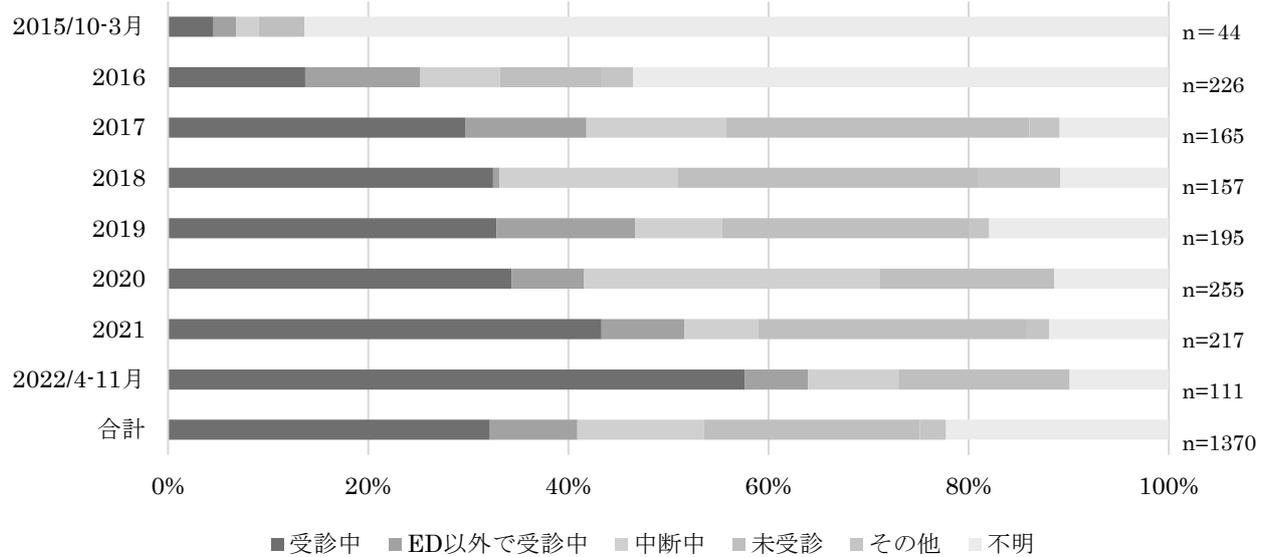
有り	紹介先				有り	情報提供				助言	問い合わせ対応	その他
	拠点病院	協力病院	他の医療機関	公共機関		疾患知識	治療受診	資料	社会資本			
135	79	51	21	10	147	145	138	119	3	105	8	25



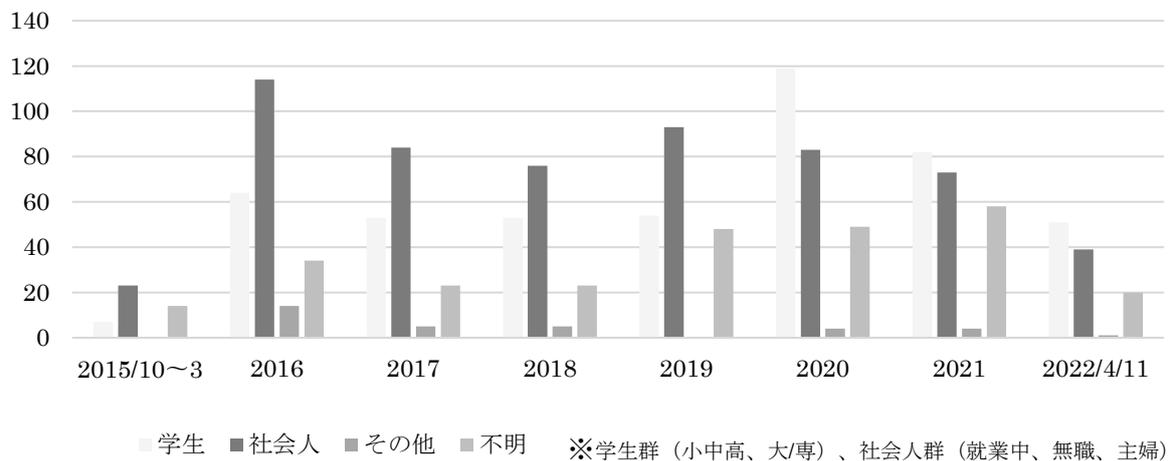
相談対象患者の年齢構成



受診状況の経年変化



受診状況の経年推移



家族支援

開催日	対象者	参加人数 (組)	内容	開催方法
R4.8.27	摂食障害患者 摂食障害患者の家族 一般県民	70	「日本に必要な地域における摂食障害 ケアー摂食障害は回復できるー」 講師：日米両看護師 摂食障害ホープジャパン代表 安田真佐枝	Web
R5.3月11日	摂食障害患者の家族		「摂食障害のこと 最新版」 講師：東北大学病院心療内科講師 佐藤 康弘 「家族にできるサポート」 講師：文教大学人間科学部臨床心理学科 特任専任講師 小原千郷	Web

5.治療支援

治療体制・計画

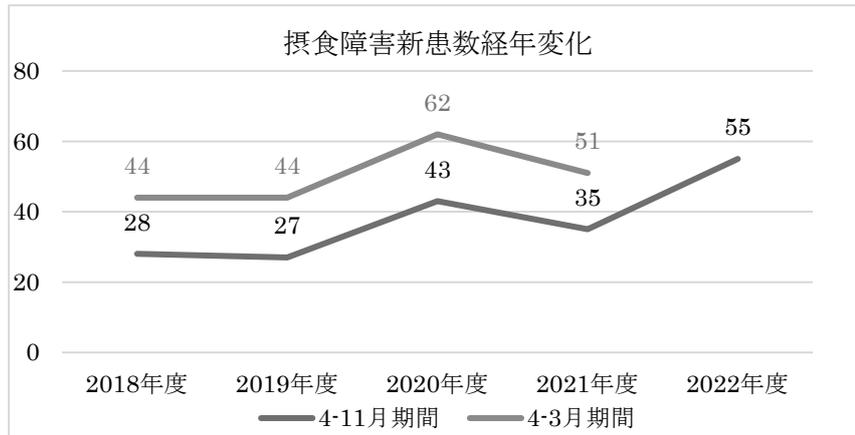
治療体制は、心療内科医師5名、看護師、管理栄養士、公認心理師、薬剤師、医療連携室等による多職種連携にて対応。
 拠点病院への相談や、医療機関からの相談による受診について対応。
 相談対象者、患者の状況や状態によって、連携医療機関と連携構築。
 院内に摂食障害治療支援センター運営委員会を設置し、運営委員が所属する専門領域における摂食障害診療の望ましい運用とコンサルテーションに対応する。

治療支援実施結果

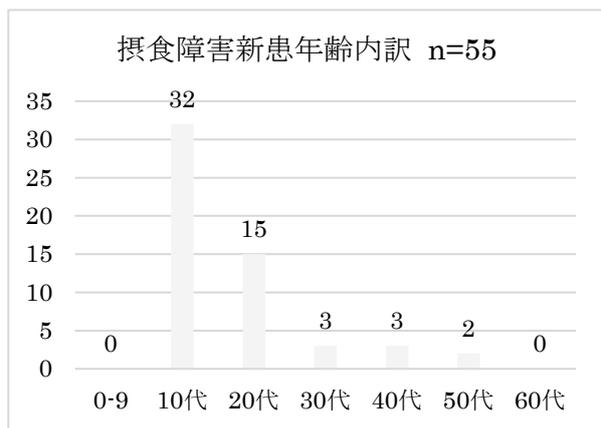
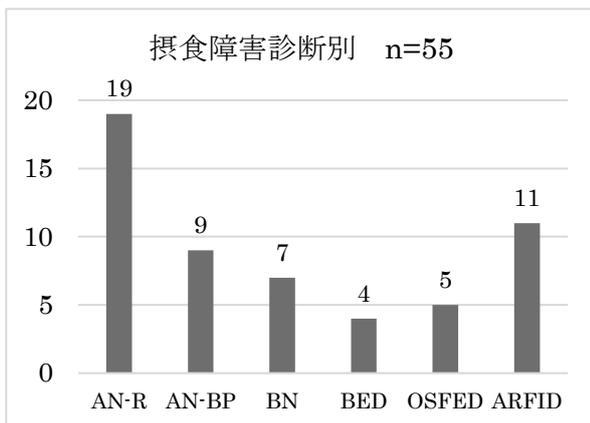
支援拠点病院設置病院 初診患者数 (R4.4- 11) 55人 内、拠点病院経由での受診 19人

初診患者数	55人							
性別	女性 48人	男性 7人						
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	
	0人	32人	15人	3人	3人	2人	0人	
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID		
	19人	9人	7人	4人	5人	11人		
外来／入院	外来のみ	入院のみ	両方					
	43人	1人	11人					
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≦
	9人	10人	8人	7人	1人	16人	1人	3人
治療状態	治療中	治療中断	治療終了	紹介				
	36	5	4	10				

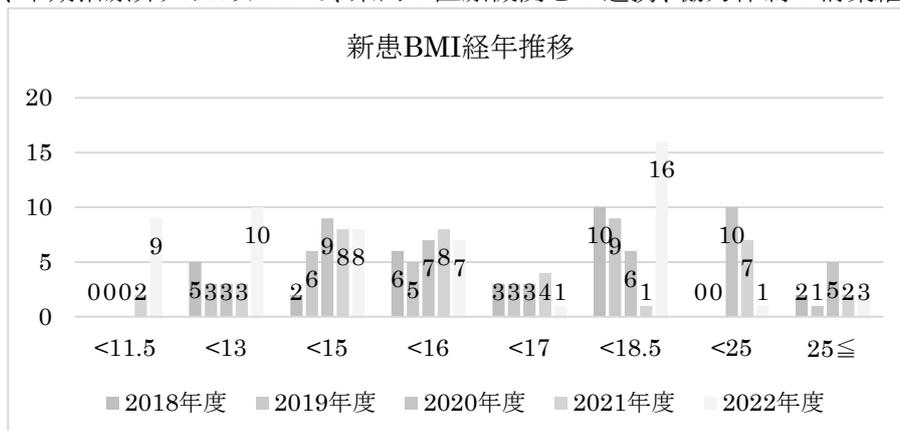
令和4年4～11月の間に東北大学病院心療内科を受診した摂食障害の新規外来患者数は55名(37.4%)であった。同期間の心療内科新規外来患者数の4割近くを摂食障害が占めており、R3年度同期間の35名、R3年度51名を既に超えており、昨年度一旦落ち着いたかにも見えたが今年度は増加傾向にある。



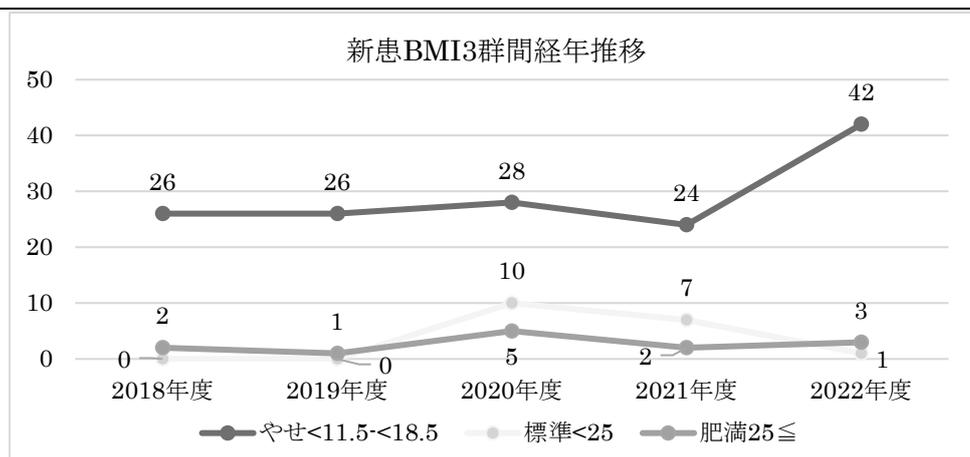
摂食障害の内訳は、神経性やせ症患者(AN)が28名(50.9%)、うち制限型(AN-R)19名(34.5%)、過食排出型(AN-BP)が9名(16.4%)。神経性過食症患者(BN)は、7名(12.7%)、過食性障害患者(BED)4名(7.3%)、回避制限性食物摂取症(ARFID)患者は11名(20%)、他の特定される食行動障害または摂食障害(OSFED)が5名(9.1%)。



年代別にみると、10代が32名(58.2%)、20代が15名(27.3%)で合わせて47名(85.5%)と若年層が摂食障害新規患者数の8割を超えている。拠点病院経由での受診19名(34.5%)すべてが若年層。摂食障害の新規患者数全体の3割が拠点病院経由である。若年層の割合は、昨年度同時期(4-11月)の倍以上(R3年度22名、R4年度(4-11月)47名)であった。そういったケースは医療機関からの相談でもみうけられ、早期治療介入にあたって、県内の医療機関との連携、協力体制の構築継続が必要である。



新患BMIの経年推移では、2018-2020年度(4-11月同期間)まではゼロであったBMI<11.5が2021年度2名、2022年度では9名と低体重群がみられた。



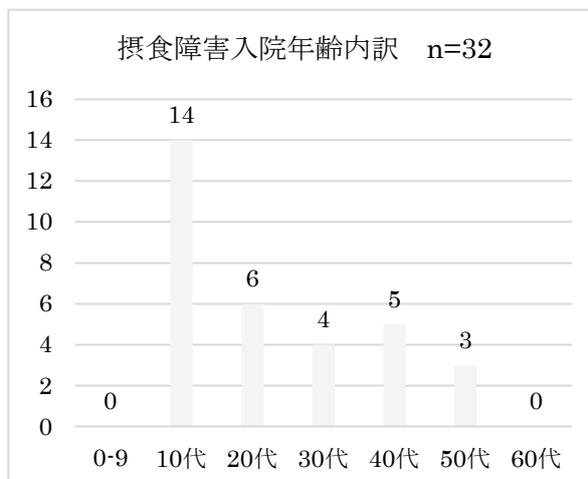
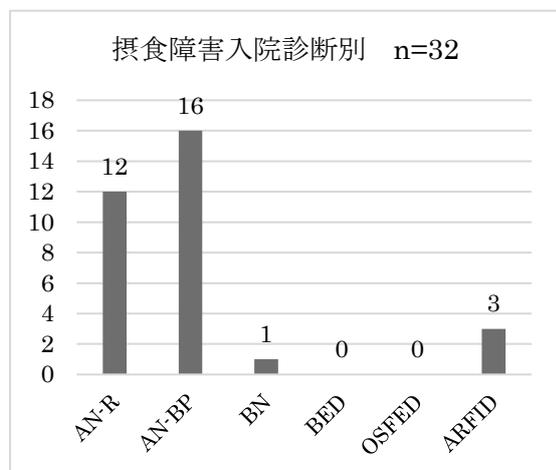
やせ(<11.5-17)、標準体重 (<25)、肥満 (25≦) で BMI を 3 群にて分けてみると、やせの群の割合が 2018-2021 年度はほぼ同様の状況であったが、2022 年度は大きく増加していた。

支援拠点病院設置病院 入院患者数 32 人 (R4.4- 11)

入院患者性別	女性 31 人	男性 1 人						
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	
	0 人	14 人	6 人	4 人	5 人	3 人	0 人	
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID		
	12 人	16 人	1 人	0 人	0 人	3 人		
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≦
	6 人	12 人	8 人	5 人	0 人	1 人	0 人	0 人

東北大学病院心療内科への令和 4 年 4~11 月の間における摂食障害入院患者数は 32 名であった。

神経性やせ症(AN)患者が 28 名(87.5%)、うち制限型(AN-R)12 名(37.5%)、過食排出型(AN-BP)16 名(50%)、神経性過食症患者(BN)は 1 名(3.12%)、回避制限性食物摂取症(ARFID)患者 3 名(9.4%)。また、年代別では、10 代が 14 名 (43.7%) と半数近くを占めていた。



6.研修

研修体制・計画

院内職員（医師・看護師・薬剤師・管理栄養士、心理士ほか）ならびに関連機関において研修会をおこなう。院内および病院同士の連携を深めていくため、拠点病院職員が講義を行い、摂食障害の知識や連携を深める。

研修実施結果

昨年度から開始した院内 Web 連携ミーティングを定期的に継続する。また、8 月には、教育委員会からの依頼をうけ、大郷町にて研修会をおこなった。令和 5 年 3 月に東北ろうさい病院心療内科と連携会議を開催する予定である。講義を通して、関係機関や多職種による連携、摂食障害へのサポート体制構築に努めた。

講習会、研修会、ミーティング等

開催日	対象者	参加人数	研修内容	開催方法（場所）
R4/7/4	院内精神科、心療内科、小児科職員	20	第6回摂食障害合同症例検討会	Web
R4/8/30	黒川郡教育委員会関係者	20	摂食障害	大郷町
R4/9/26	コーディネーター		摂食障害治療支援コーディネーター研修会	Web
R4/11/7	院内精神科、心療内科、小児科職員	12	第7回摂食障害合同症例検討会	Web
R4/3/6予定	院内精神科、心療内科、小児科職員		第8回摂食障害合同症例検討会	Web
R5/3月予定	院内職員		摂食障害の基礎知識と治療	東北ろうさい病院

7. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

摂食障害の普及啓発活動として必要な事項について、摂食障害全国支援センターと協議して実施する。一般の人々に摂食障害の病態・治療および早期治療の重要性に関する知識を浸透させるため、摂食障害治療についての市民公開講座を開催する。さらに、令和5年3月には摂食障害治療の専門家を招き家族教室を開催する。また、拠点病院のホームページのコンテンツ充実を図り疾患教育を行うとともに、摂食障害に関連するイベント情報や医療従事者に対する研修会の案内などを掲載し普及啓発を行う。

普及啓発活動実施結果

令和4年8月に摂食障害治療についてオンライン市民公開講座を開催し、摂食障害の理解について啓蒙した。ホームページや、チラシなどの宣伝によって多くの事前申込みがあり、摂食障害への高い関心がかがえ、当日の講演では多くの質問や感想が寄せられ、摂食障害に対して支援の必要性が多方面からあった。アンケート結果に寄せられた今後聞いてみたい内容として、「摂食障害のこころの症状」、「摂食障害のこころの治療」、「家族の接し方」、「自助グループ・家族会の情報」が多かった。相談支援においても、家族が対象患者への接し方に苦慮し疲弊している声も寄せられることから、引き続き、患者をサポートする家族への支援が不可欠である。そういった家族への支援の一つとして、継続している家族教室を令和5年3月に摂食障害治療の専門家を招き開催する。

また、拠点病院ホームページのコンテンツ充実を図り疾患教育を行うとともに、摂食障害に関連する情報の案内などを掲載し普及啓発を行った。

講演会

開催日	対象者	参加人数 (組)	内容	開催方法
R4/8/30	摂食障害患者 摂食障害患者の家族 一般県民	70	第9回宮城県摂食障害支援拠点病院市民公開講座 日本に必要な地域における摂食障害ケアー「摂食障害は回復できるー」 講師：日米両看護師 摂食障害ホープジャパン代表 安田真佐枝	Web
R5/3/13	摂食障害患者の家族		摂食障害の家族教室 「摂食障害のこと 最新版」 講師：東北大学病院心療内科講師 佐藤 康弘 「家族にできるサポート」 講師： 文京大学人間科学部臨床心理学科特任専任講師 小原千郷	Web

第9回宮城県摂食障害支援拠点病院市民公開講座チラシ

- ・宮城県内医療機関（精神科・心療内科・小児科・婦人科）
- ・県内保健所・保健福祉センター、仙台市内市民センター
- ・宮城県内小・中・高校・専門学校・大学 送付

第9回宮城県摂食障害支援拠点病院Web市民公開講座

「日本に必要な地域における摂食障害ケア —摂食障害は回復できる—」

ふるってご参加ください！

受講料無料 オンライン開催 定員先着80名 申込方法メール 申込締切8/22(月) 主催宮城県受託事業

日時 8月27日(土曜日) 午前10時～11時35分

講師 日米両看護師 摂食障害ホープジャパン代表 安田真佐枝

司会 東北大学大学院医学系研究科心療内科教授/東北大学病院心療内科 科長 宮城県摂食障害支援拠点病院 病院長 福土 審

お申込方法
・こちらのQRコードよりお申込みください

問い合わせ先
宮城県摂食障害支援拠点病院
〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1 東北大学病院心療内科
電話022-717-7328 メール miyagi.ed@gmail.com



R4/ 8/5 発刊 河北新報朝刊

摂食障害治療の道探る

27日オンライン市民講座

摂食障害治療の最新事情 35分間の質疑応答時間を設けて紹介する市民公開講座が ける。

8月27日(土)、ビデオ会議アプリ「Zoom(スー)は厚生労働省と宮城県が2ム」を使ってオンライン015年、東北大病院心療配信される。主催は宮城県内科内に開設した。

で、座長は県摂食障害支援拠点病院院長で東北大病院心療内科科長の福土審さん。

摂食障害ホープジャパン代表で、日米両看護師の安田真佐枝さんが「日本に必要な地域における摂食障害ケア—摂食障害は回復できる—」と題して講演する。

時間は午前10時～11時35分。約50分の講演の後、約

問い合わせは宮城県摂食障害支援拠点病院022(717)7328へ。



メディア関係

開催日 (発行日、オンエア)	メディア	内容
R4/ 8/5 発行日	河北新報朝刊	第9回宮城県摂食障害支援拠点病院市民公開講座の案内広告掲載
R4/8/11 発刊日	河北ウィークリー せんだい	第9回宮城県摂食障害支援拠点病院市民公開講座の案内広告掲載

R4/8/11 発刊 河北ウィークリーせんだい

第9回 宮城県摂食障害支援拠点病院

Web市民公開講座

定員80名 要申込
ZOOM利用・受講料無料

「日本に必要な地域における摂食障害ケア—摂食障害は回復できる—」

講師 日米両看護師 摂食障害ホープジャパン代表 **安田 真佐枝** 日 **8月27日(土)**
座長 東北大学大学院医学系研究科心療内科 教授 東北大学病院心療内科 科長 宮城県摂食障害支援拠点病院 病院長 **福土 審** 時 **10:00～11:35**

申込方法 QRから申込フォームにアクセスし 必要事項をご入力ください。 申込締切:8/22月
※入力いただいたアドレスに、web講座への接続方法についてお知らせ致します。 ※定員に達し次第受付終了となります

申込はこちら▼

主催:宮城県(受託者:宮城県摂食障害支援拠点病院)
問い合わせ/宮城県摂食障害支援拠点病院
〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1 ☎022-717-7328



つまり

- 摂食障害は治療によって回復できる病気なのです。
- 一生付き合っていく必要はありません。

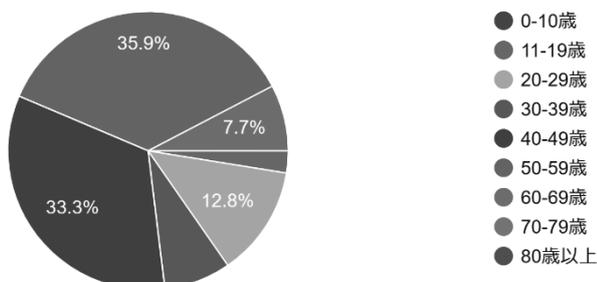
ただ、ご本人が諦めなければ。。。



第 9 回宮城県摂食障害支援拠点病院市民公開講座アンケート結果抜粋（聴講 70 名の内 39 名回答）

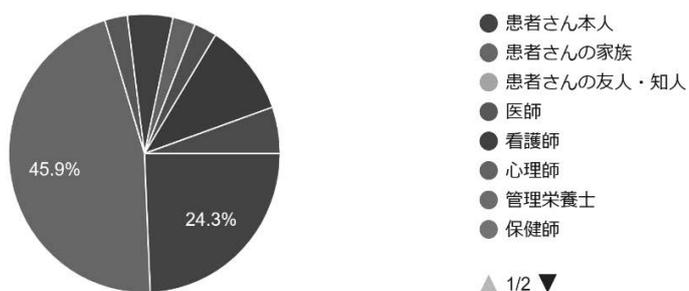
1.あなたの年齢を教えてください。

39 件の回答



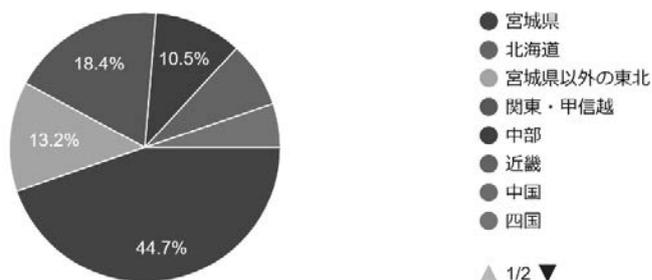
3.あなたは次のどれにあたるでしょうか。

37 件の回答



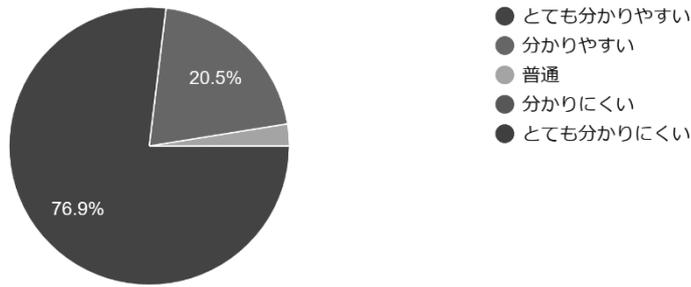
4.お住まいの地域を教えてください。

38 件の回答



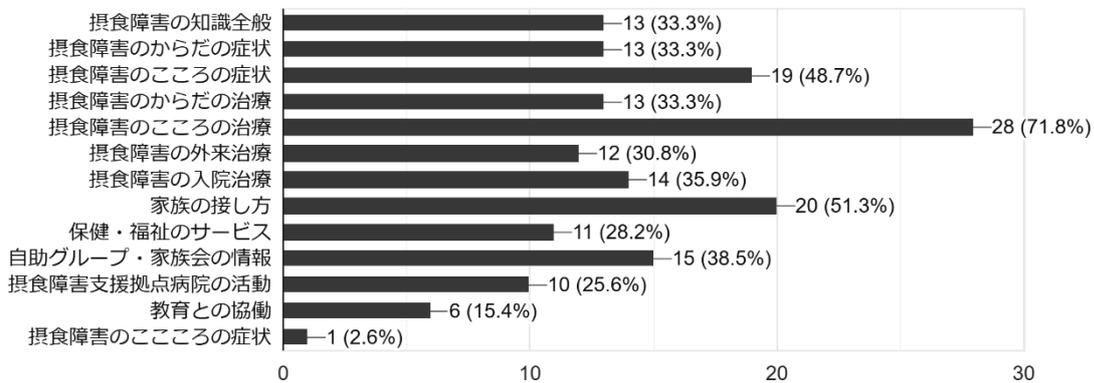
7.今日の講演の内容はどうでしたか。

39件の回答



8.今後の市民公開講座で聞いてみたい内容を選んでください。（複数回答可）

39件の回答



感想抜粋

- ・ありがとうございました。そうなんだよなーと思うことがたくさんありました。食べたいものを食べた上で落ち着いた体重を受け入れられると良いなと思います。今回お聞きしたことを心にとめながら治療に向き合っていきたいと思います。
- ・アメリカと日本の医療制度の問題など、色々な障壁があるようにも考えましたが、それでも日本でできることはまだまだたくさんあると実感しております。医療従事者にも「摂食障害」の勉強は今後重要になってくると感じております。また機会がありましたら何卒よろしく願いいたします。
- ・毎年参加させていただいております。そのおかげで数年前よりも私自身回復してきてます。安田先生のご講演は数年前からずっと希望していたので、二回連続のご講演ありがたいです。
- ・罹患してから6年目になります。病院やカウンセリング、本や講演、自分なりに取り組んでも回復どころか悪化、もはや摂食障害であることが当たり前になってしまった自分にとって安田先生の優しくも力強い言葉の数々に心救われました。回復のメカニズムのご説明も今まで見たことのあるもので1番納得がしやすく具体的に感じました。摂食障害の回復を諦めたくないです...改めてその気持ちを自覚しました。

8. 行政機関との連携

研修体制・計画

年度毎に2回、宮城県摂食障害対策推進協議会をおこなう。

研修実施結果

令和4年7月に、令和4年度第1回の協議会を開催し、令和3年度の事業報告および令和4年度の摂食障害に関する治療支援また連携について討議する。令和5年1月に第2回を開催する。

連携会議等

開催日	対象者	参加人数	内容	開催方法
R4/7/1	協議会委員	14	令和3年度摂食障害治療支援センター設置運営事業の活動報告、令和4年度摂食障害支援拠点病院設置運営事業実施計画について確認	Webミーティング
R5/1/20	協議会委員	14	令和4年度摂食障害支援拠点病院設置運営事業の活動報告	Webミーティング

9. その他の活動

実施体制・計画

ホームページを更新する。また、フェイスブックにて、摂食障害についての情報を随時発信する。

実施結果

随時、ホームページおよびフェイスブック、Twitterにて、摂食障害に関する情報を発信している。

・ Facebook いいね! 320件 (令和5年1月10日現在)

・ 宮城県摂食障害支援拠点病院ホームページ アクセスカウンター 57684 (2023年1月10日現在)

Google Search Console (2022/4/1-11/30)

<http://plaza.umin.ac.jp/~edsupportmiyagi/>



・検索キーワード	クリック数	表示回数
拒食症 どこから	152	22,376
拒食症 食事 1日	70	13,137
摂食障害支援拠点病院	33	633
摂食障害 仙台	32	300
摂食障害 病院 おすすめ 仙台	25	263
摂食障害 病院	24	1,845
摂食障害に 強い 病院	13	51
拒食症どこから	10	2,284
摂食障害 食事	10	745
摂食障害 どこから	9	639

・デバイス	クリック数	表示回数
モバイル	955	109,163
PC	173	20,413
タブレット	27	2,443

10. 考察

- ・相談対象患者は若年層の割合が多く、今後も、摂食障害についての相談、早期治療につながる支援が不可欠である。
- ・摂食障害からの回復にはどうしても時間を要するため、相談対象患者、家族等に寄り添い、摂食障害の正しい知識や情報提供、希望をもてる声かけや支援が今後も継続的に必要である。
- ・新規相談対象患者数は昨年度より減ったようにも見えるが、拠点病院を受診した摂食障害の新規患者数はR3年度より逆に大きく増加しており、タイムラグがあるような形にも見える。発症までの期間や状況、原因等を解明が重要と考えられる。
- ・摂食障害患者のなかには、嘔吐により歯の問題を抱え、歯の治療が必要である。その原因が摂食障害であることで治療への抵抗も大きいことから、歯医者との連携をのぞむ相談も寄せられた。歯科医療分野も対象とした、摂食障害と歯の問題についての情報提供や共有、啓蒙を通じた連携も今後の課題と考えられる。

4. 千葉県摂食障害支援拠点病院活動報告書

令和 4 年度

千葉県摂食障害支援拠点病院

Chiba Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和4年度(2022年4月～2022年11月)

精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置事業報告書

1. 基本情報

千葉県摂食障害支援拠点病院

Chiba Prefectural Support Base for Eating Disorders

センター名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
千葉県摂食障害支援拠点病院	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	272-8516	千葉県市川市国府台1-7-1	047-372-3501 (代)

URL: 千葉県摂食障害支援拠点病院

<http://www.ncgmkohnodai.go.jp/sessyoku/index.html>

千葉県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
河合 啓介	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	診療科長
田村 奈穂	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	医師
石戸 淳一	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	医師
出水 玲奈	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	レジデント
中谷 有希	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	心理療法士
山本 ゆりえ	国立国際医療研究センター国府台病院薬剤部	薬剤師
岩崎 心美	千葉県摂食障害支援拠点病院	コーディネーター
大家 聡樹	千葉県摂食障害支援拠点病院	コーディネーター、 事務助手
池田 知寿子	千葉県摂食障害支援拠点病院	コーディネーター

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
岩崎 心美	看護師、保健師、臨床心理士、公認心理師
大家 聡樹	臨床心理士、公認心理師
池田 知寿子	看護師、公認心理師

2. 要旨

今年度は、コーディネーター3名(非常勤)、事務助手2名(非常勤:専任1名、兼任1名)の体制で、週3回の相談業務を行った。新型コロナウイルス感染症拡大の影響等で、対面式の研修会等は延期している。千葉県摂食障害対策推進連絡協議会はWebで開催した。

今年度(令和4年4月1日～令和4年11月30日)の相談件数は、新規299件、延べ417件(延べ件数において、電話相談233件、メール相談184件、面談0件)であり、月の平均相談数は52.1件であった。月の平均件数は、全国ほっとラインの開設の影響などもあってか、昨年度の59.3件より減少した。相談内容は昨年同様に受診先と助言に関する内容が中心であった。

相談者の割合は過去3年と同様に母が118件(39%)で一番多く、次いで患者本人からの相談が111件(37%)であった。千葉県摂食障害支援拠点病院は首都圏唯一の摂食障害支援施設であり、首都圏からの相談が依然として多かった。今年度の相談ケースの年齢については10-19歳が99件(40%)と最も多く、次いで20-29歳の73件(29%)、30-39歳の34件(14%)と続いている。(不明者除く割合。)相談者の摂食障害による受診状況は、現在受診中(外来、入院含む)は144件(48%)、中断中は34件(11%)、未受診は70件(24%)、摂食障害以外で受診中は26件(12%)、その他1件(0%)、受診状況不明は24件(8%)であった。受診中患者の相談数の割合が、昨年度の43%に比べて増加傾向にあった。相談者の基幹病院(国府台病院)への紹介割合は2017年度94%、2018年度は52%、2019年度は35%、2020年度は34%、2021年度は19%、2022年は33%であった。

2022年4月～11月までのホームページへのアクセス数は:10655件であった。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	河合 啓介	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科・千葉県摂食障害治療支援拠点病院	医療
副委員長	菊池 周一	袖ヶ浦さつき台病院 病院長	医療
委員	中里 道子	国際医療福祉大学大学院精神科 主任教授 千葉大学大学院学研究院 特任教授	医療
同上	安藤 咲穂	千葉県こども病院 精神科部長	医療
同上	鈴木 高男	摂食障害家族の会ポコ・ア・ポコ 会長	患者家族
同上	Aさん	患者本人	当事者
同上	石川 真紀	千葉県精神保健福祉センター 次長	行政
同上	大野 義弘	千葉県健康福祉部障害者福祉推進課 課長	行政
同上	依頼中	保健所	行政
同上	依頼中	養護教諭・保健所	教育

摂食障害対策推進協議会

	開催日	議 題
令和 4 年度第一回千葉県摂食障害対策推進協議会	5 月 31 日	令和 4 年度の千葉県摂食障害対策の推進について
第 1 回 摂食障害支援拠点病院連携ミーティング	7 月 11 日	令和 4 年度精神保健対策費補助金「摂食障害治療支援センター設置運営事業」について

4. 相談支援

相談体制

本年度は、保健師・看護師・公認心理師・臨床心理士等の資格を持つコーディネーター3名で週3日の相談業務を行っている。

相談支援結果

今年度(令和4年4月1日～11月30日)の相談総数は、新規299件、延べ417件(延べ件数において、電話相談232件、メール相談185件、面談0件)であり、月の平均相談数52.1件であった。大部分は新規相談(299件、71.7%)であった。月の平均件数は、昨年度の59.3件より減少した。(以下、年齢分布、病院紹介は延べ件数、他は全て新規相談件数による。)

相談者の摂食障害による受診状況は、現在受診中(外来、入院含む)は144件(48%)、中断中は34件(11%)、未受診は70件(24%)、摂食障害以外で受診中は26件(12%)、その他1件(0%)、受診状況不明は24件(8%)であった。昨年度に比べて受診中の割合が多い。

相談内容は受診先の問い合わせ(受診相談)が233件(48%)と昨年同様に最も多く、次いで疾患に関する相談が110件(22%)で多かった。相談者はこれまでと同様に母が118件(39%)で一番多く、次いで患者本人からの相談が111件(37%)であり、両方で76%を占めていた。

今年度は県内の相談者が167件(63%)、県外からの相談者は81件(37%)であった(居住地不明を除く)。昨年の県内相談率54%と比較すると、今年度は増加傾向にあった。千葉県摂食障害支援拠点病院は首都圏唯一の摂食障害支援施設であり、首都圏からの相談が多数あるが、今後も50%以上は千葉県内の相談を目指して活動する。

今年度の相談ケースの年齢については10-19歳の99件(40%)と最も多く、次いで20-29歳の73件(29%)、30-39歳の34件(14%)と続いている。このほか、40歳代以上の相談者は40名(16%)であった。(不明者除く。)

月毎の相談者数の年齢分布を集計して図(「千葉県摂食障害支援拠点病院の年齢別相談件数の推移とCOVID-19」)にしたが、緊急事態宣言(state of emergency :SE)やコロナ感染の波の時期に一致して、若年層の相談数が一過性に増加していたところがあった。このことから、低年齢層の摂食障害患者が新型コロナウイルス感染症拡大に影響を受けている可能性が示唆された。ただし、その増加は一過性で、その影響の評価は慎重に行う必要がある。

病院紹介を行った相談において、基幹病院(国府台病院)への紹介割合は2017年度は94%であったのが2018年度は52%、2019年度は35%、2020年度は34%、2021年度は19%、2022年度は33%であった。今年度は、若干増加傾向にあったが、県内相談が増えたことと関連している可能性がある。

普及啓発活動の欄に詳しく記載したが、2020年6月より、Facebook、Instagram、Twitterによる配信を開始した。その時期に一致して相談件数やホームページ閲覧数は増加した。

相談件数 期間:R4.4-R4.11

新規相談件数	延べ相談件数
299	417

地域(新規件数)n= 299 間:R4.4-R4.11

県内	県外	不明	計
167	81	51	299

相談者(新規件数)n= 299 期間:R4.4-R4.11

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
111	17	118	7	6	14	6	4	11	5	299

相談対象患者の年齢(新規件数)n= 299 平均年齢: SD = ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	不明	個別以外	計
3	99	73	34	24	9	5	2	50	0	299

相談対象患者の性別(新規件数) n= 299 間:R4.4-R4.11

女性	男性	その他	不明	個別以外	計
269	20	0	10	0	299

相談対象患者状態(新規件数) n= 299 期間:R4.4-R4.11

やせ	食事制限	過食	代償行動					精神・行動症状					
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	その他
177	132	115	90	19	5	20	2	28	137	15	5	42	128

相談対象患者属性(新規件数) n= 299 期間:R4.4-R4.11

学生				社会人			その他	不明	個別以外	計
小	中	高	大/専	就業者	無職	主婦				
7	28	40	44	74	41	8	5	52	0	299

摂食障害での受診状況(新規件数) n= 299 期間:R4.4-R4.11

受診中	中断中	未受診	ED以外で受診中	その他	不明	個別以外	計
144	34	70	26	1	24		299

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ(新規件数) n= 299 期間:R4.4-R4.11

インターネット	紹介				その他・不明	メディア				ポスター・ちらし	その他	不明
	機関			医療		テレビ	新聞	自治体・広報	その他・不明			
	行政	教育	その他									
190	23	1	5	6	3	3	0	0	1	3	64	

相談経路(延べ件数)n= 417 期間:R4.4-R4.11

電話	メール	面談	計
232	185	0	417

相談内容(延べ件数) n= 417 期間:R4.4-R4.11

疾患相談	有り	対応相談			受診相談	問い合わせ	その他	コロナ関連
		接し方	生命危機	受診拒否				
134	94	80	9	23	344	16	97	21

対応内容(延べ件数) n= 417 期間:R4.4-R4.11

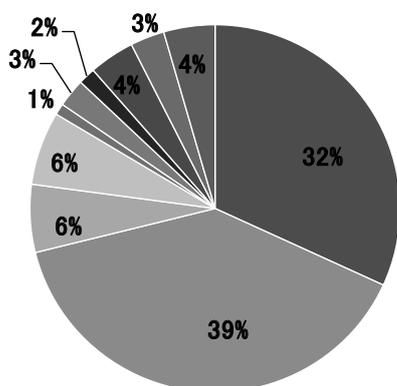
有り	紹介先				有り	情報提供				助言	問い合わせ対応	その他
	拠点病院	協力病院	他の医療機関	公共機関		疾患知識	治療受診	資料	社会資本			
247	148	132	98	65	314	129	291	20	33	239	106	70

家族支援

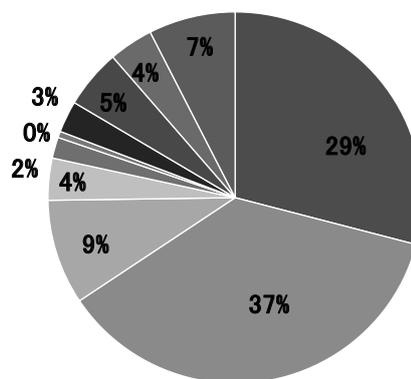
開催日	対象者	参加人数(組)	内容	実施場所
	実績なし			

相談者属性の変化(2017-2022年度,延べ件数)

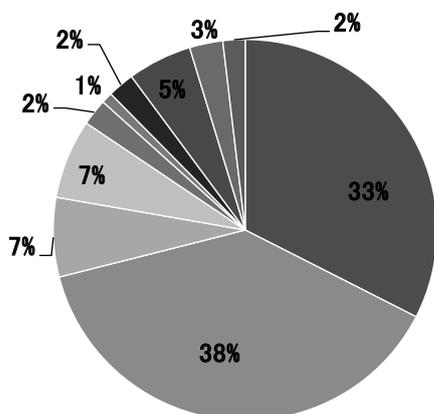
2017年度



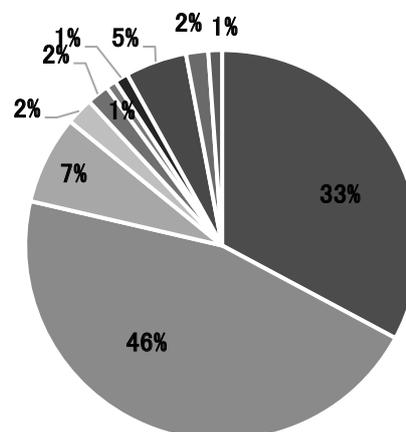
2018年度



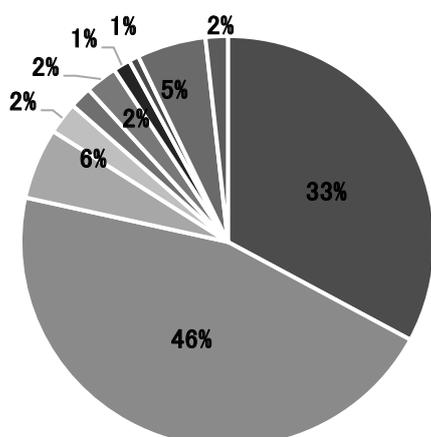
2019年度



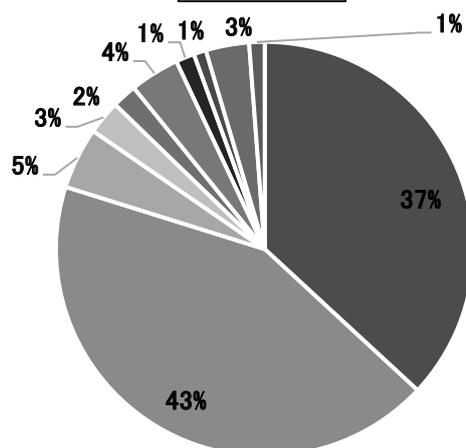
2020年度



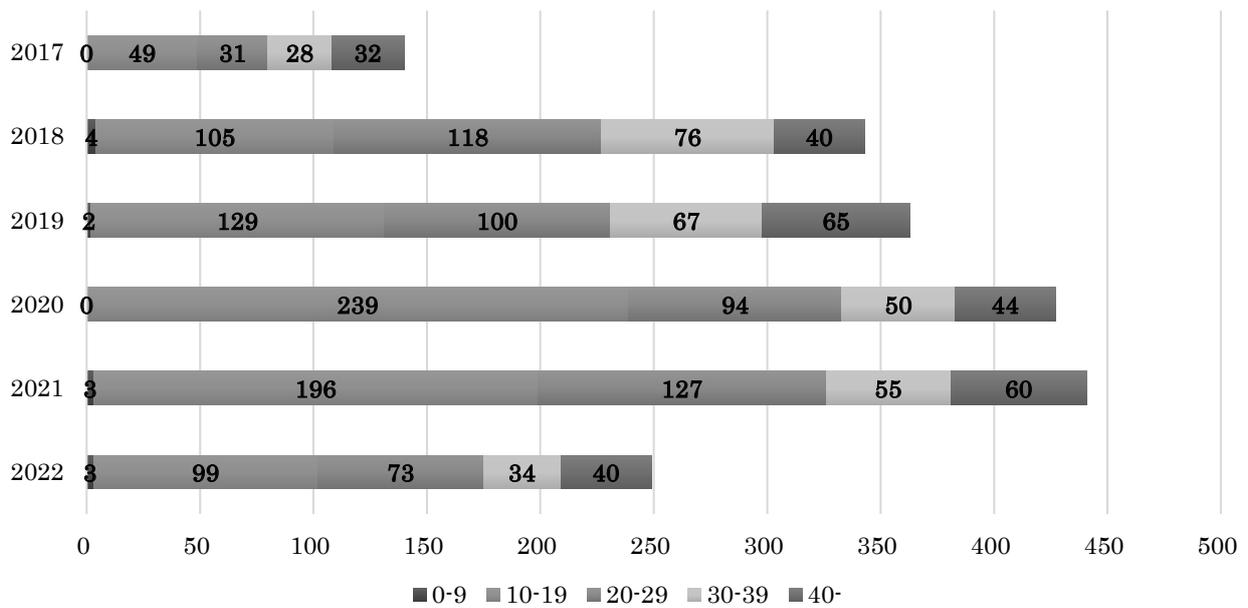
2021年度



2022年度



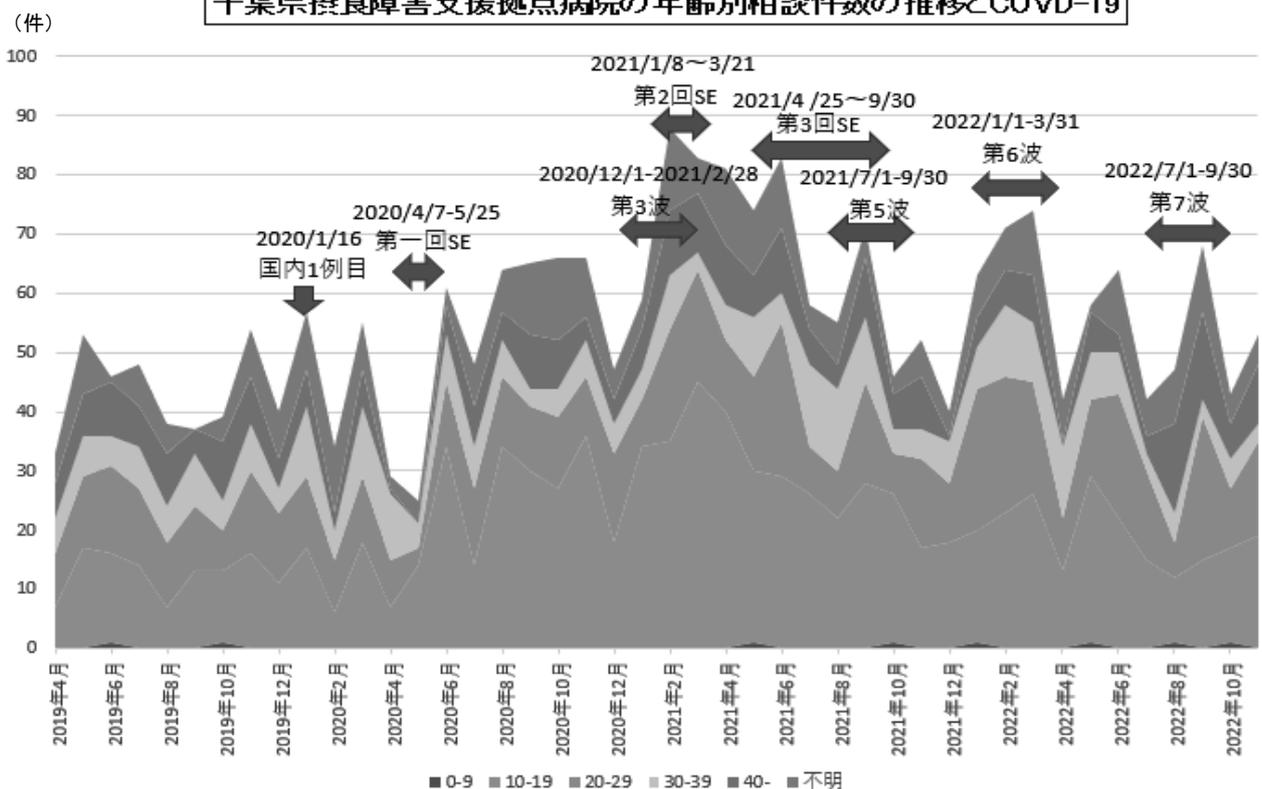
相談件数と年齢の内訳(経年推移)※年齢不明除く



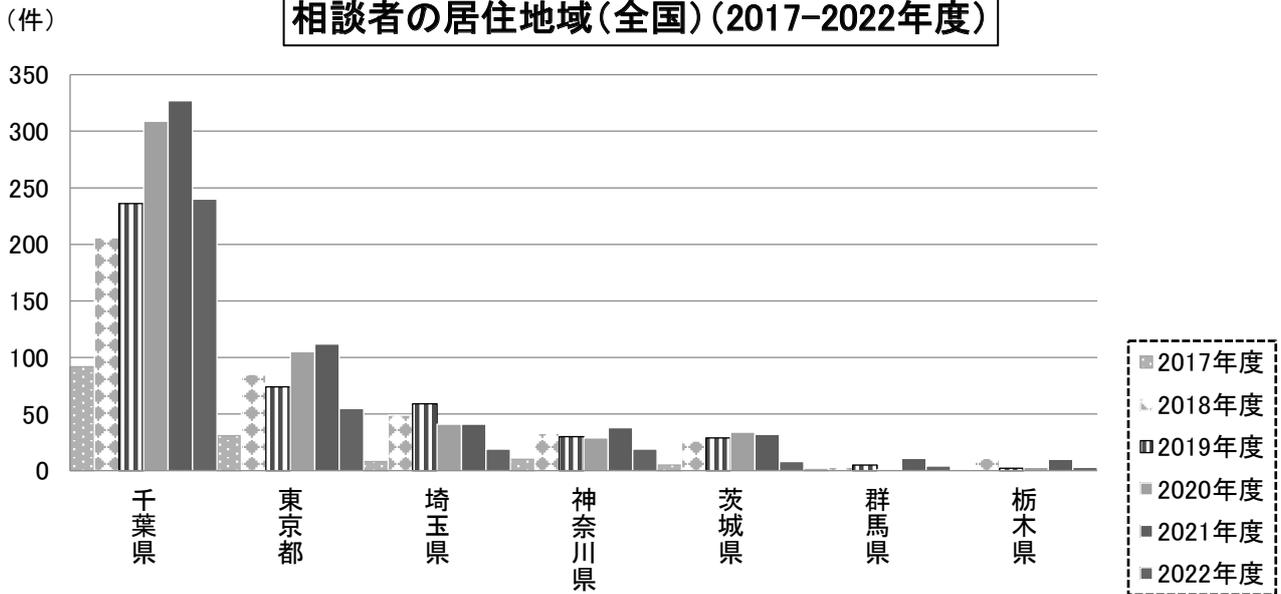
相談件数における年齢層の割合(年齢不明者除く)

	10代未満	10代	20代	30代	40代以上
2017年度	0%	36%	23%	22%	20%
2018年度	1%	31%	35%	22%	12%
2019年度	1%	36%	28%	18%	18%
2020年度	0%	56%	22%	12%	10%
2021年度	0%	44%	29%	12%	14%
2022年度	1%	40%	29%	14%	16%

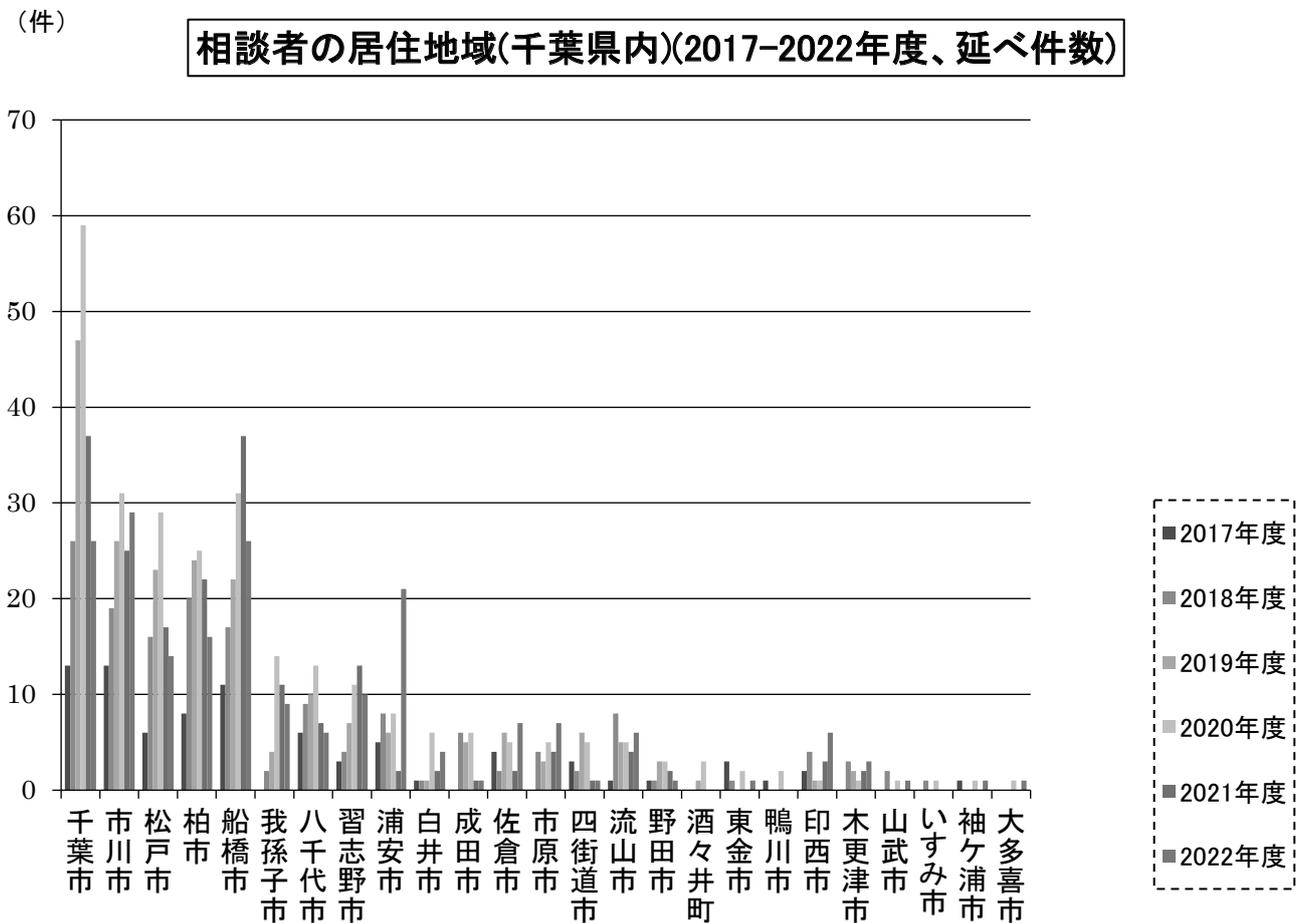
千葉県摂食障害支援拠点病院の年齢別相談件数の推移とCOVID-19



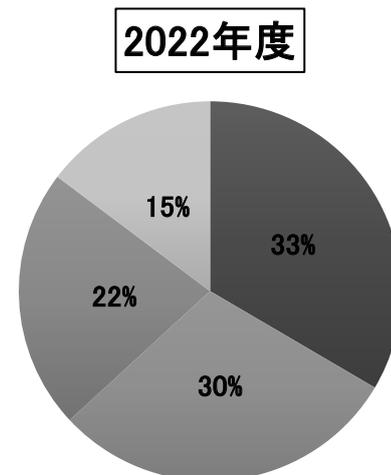
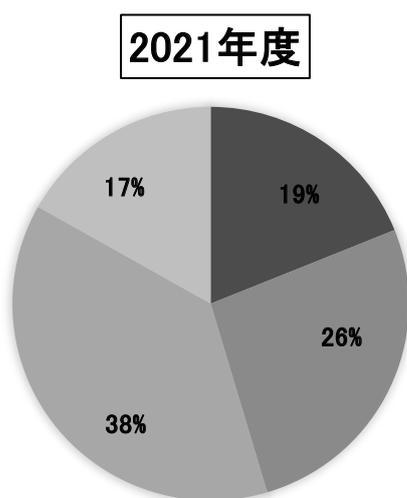
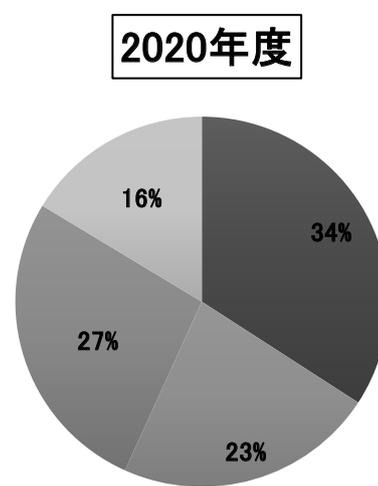
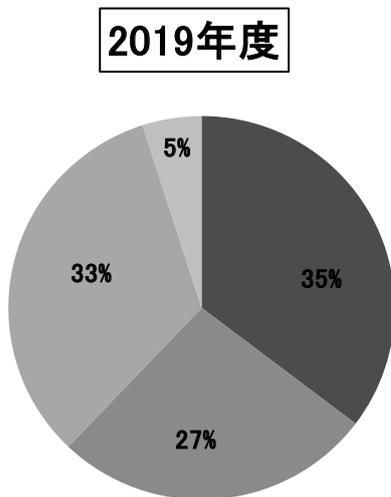
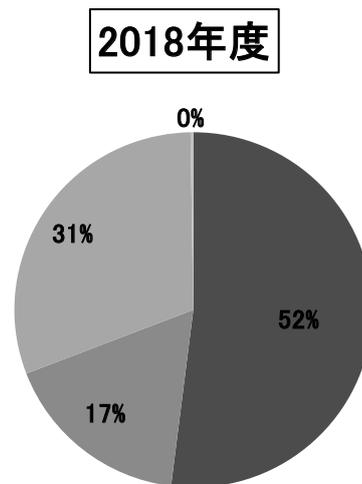
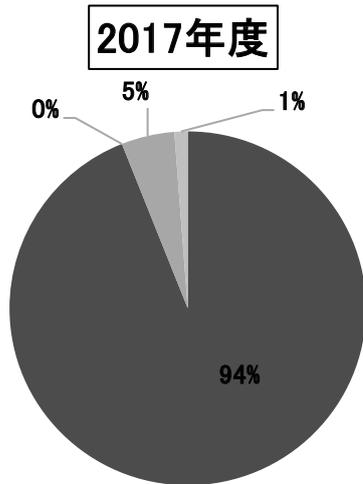
相談者の居住地(全国)(2017-2022年度)



相談者の居住地(千葉県内)(2017-2022年度、延べ件数)

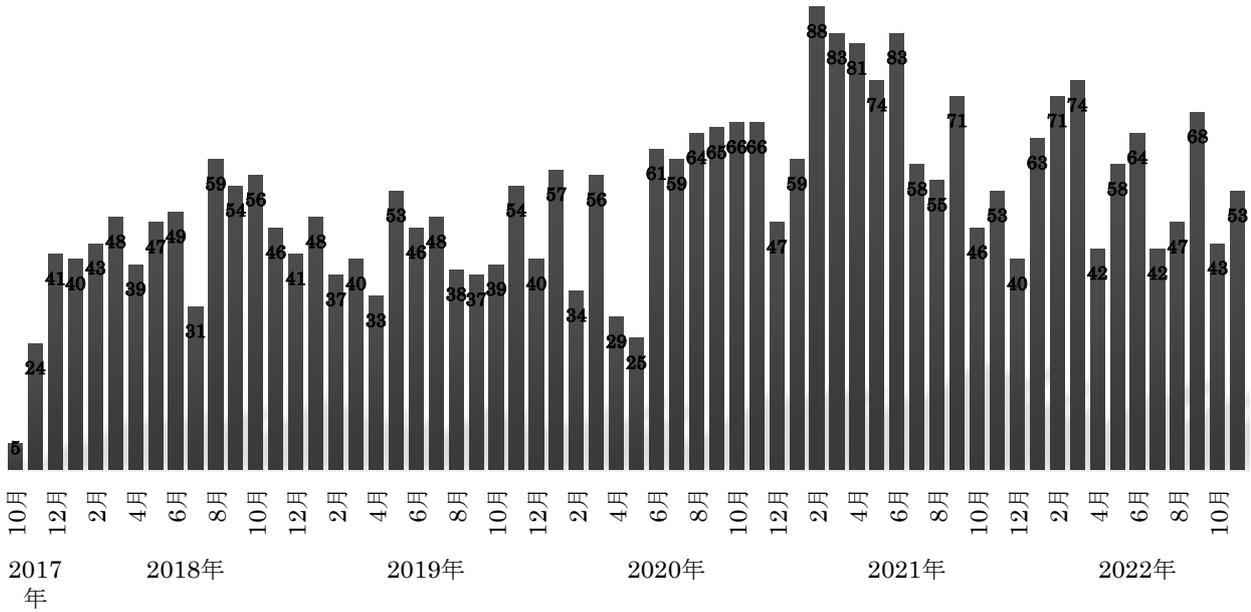


当センターから紹介した施設の内訳(2017-2022 年度、延べ件数)



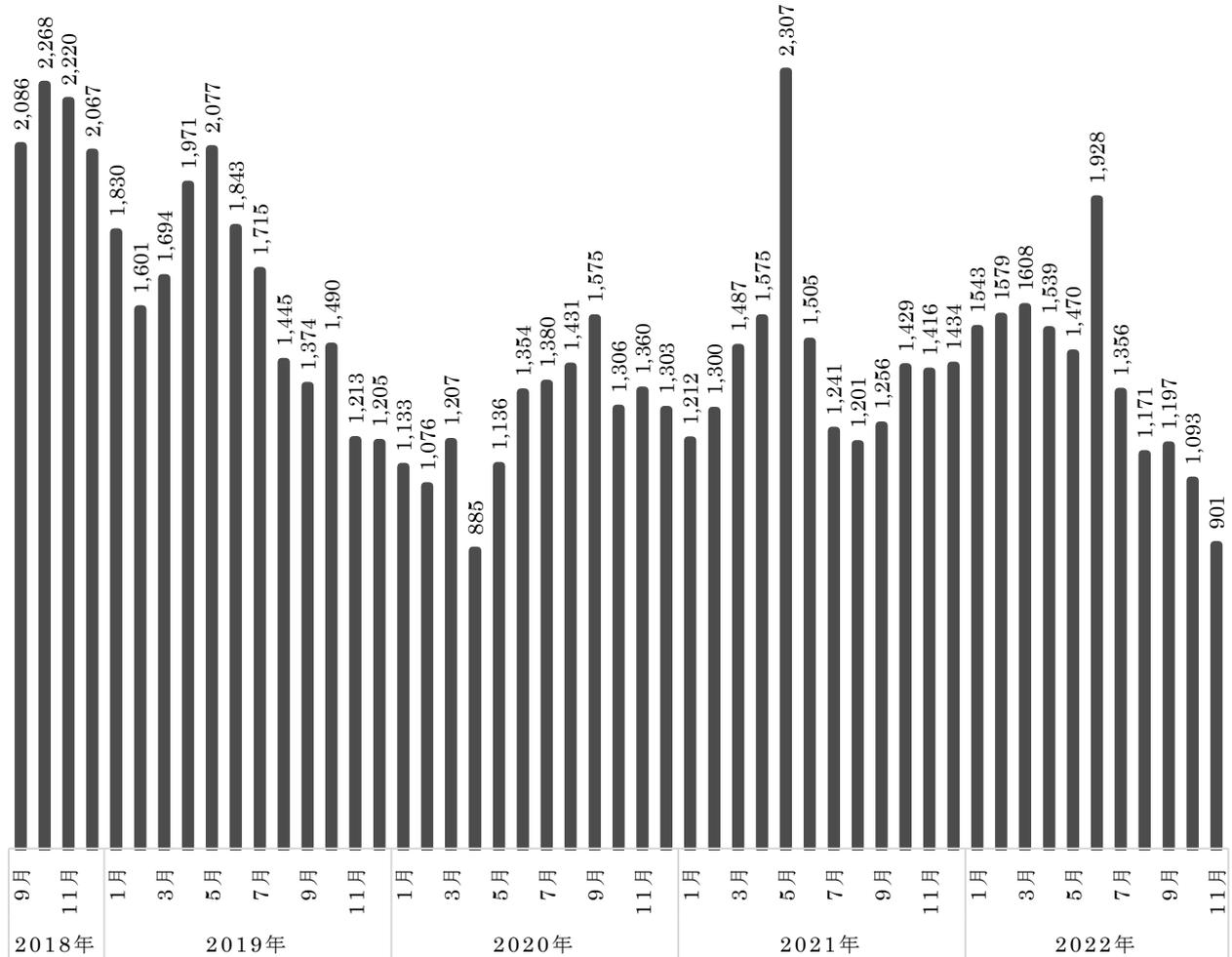
当センター開設からの月別相談件数の推移(千葉県)

(件)



千葉県摂食障害支援拠点病院のHPアクセス数

(件)



5.治療支援

治療体制・計画

基幹病院における2022年4月から2022年11月の新患摂食障害患者は131名であった。治療体制は心療内科医13名(常勤6名、非常勤5名)、非常勤心理療法士4名で治療を行っている。初診患者のうち35名(27%)は入院に移行した。薬物療法の他に支持的面接を中心に各種心理療法(認知行動療法、芸術療法、箱庭療法、自律訓練法、マインドフルネスなど)を行っている。また個人療法に加えて、コラージュ、園芸療法、集団認知行動療法、集団マインドフルネス療法、集団ヨーガ療法、心理教育プログラム「ひまわり」などを行っている。摂食障害に特化した治療として、Enhanced Cognitive behavioral Therapyを積極的に行っている。

治療支援実施結果

初診患者数は125人が女性、6人が男性であった。また、10代の患者が一番多く、次いで、20代、40代、30代の患者が多く、支援センターの相談ケースと類似した結果が得られた。国府台病院の摂食障害の外来患者数は、2018年に一時的に増加(139件)したが、その後減少し、摂食障害入院患者数は大きな変化を認めていない。支援拠点病院活動開始後も、紹介業務が順調にすすめば、基幹病院への受診患者数において極端な増加はみられなかった。

千葉県摂食障害治療支援拠点病院(国府台病院)

初診患者数(2022.4-2022.11) 131人

初診患者数	131人								
性別	女性	男性							
	125人	6人							
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	
	0人	46人	35人	23人	15人	9人	2人	1人	
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID	睡眠関連摂食症候群		
	28人	48人	38人	4人	7人	4人	2人		
外来/入院	外来のみ	入院のみ	両方						
	95人	1人	35人						
BMI kg/m ²	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≤	不明
	2人	9人	13人	5人	4人	3人	13人	0人	0人
治療状態	治療中	治療中断	治療終了	紹介					
	31人	14人	1人	3人					
治療期間	ヶ月	人	人	人					

協力病院初診患者数(2022.4-2022.11) データなし

病院名:データなし

6.研修

研修体制・計画

千葉県内を中心に、医療従事者、教師、養護教諭、福祉施設職員等を対象として摂食障害に関する研修会を行ってきた。今年度は、県内摂食障害連携アンケート調査で、研修会に参加希望と返答があった施設を中心に、研修会を開催予定である。また、研修を摂食障害治療支援病院(心療内科)だけでなく、対策推進協議会委員の施設(精神科・小児科)でも開催し、3回以上

出席した治療者には、支援センター独自の認定書を発行することなどを計画である。新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況を考慮して、研修開催の方法を検討する。

講習会、研修会、ミーティング等

開催日	対象者	参加人数	研修内容	実施場所
2022/6/5	摂食障害に携わる者	309名	摂食障害ほっとラインについての講演,摂食障害アクションデイ	オンライン
2022/6/17-18	精神科医療・摂食障害治療に携わる者	不明	第118回 日本精神神経学会 学術総会 河合啓介・シンポジウム:摂食障害を外来で効果的に治療する。演題:身体的合併症と精神面の治療バランス。	福岡国際会議場、福岡サンパレスホテル&ホール/オンライン
2022/8/4	摂食障害の就労支援に携わる者	約20名	「摂食障害について・摂食障害の方への接し方」	障害者就労支援センタービルド市川
2022/8/28	摂食障害治療に携わる者	170名	第4回摂食障害治療研修・河合啓介～初心者が知っておくべき外来診療～症例からみる摂食・障害の治療の流れとコツ	オンライン
2022/8/29	山武地域の教諭・養護教諭	約45名	「摂食障害の治療と支援について」	千葉県山武保健所
2022/9/16	サポートセンタースタッフ	23名	摂食障害治療の基本・千葉県子どもと親のサポートセンター講演会	千葉県子どもと親のサポートセンター
2022/9/17	歯科医師	不明	歯科と摂食障害	市川市歯科医師会館
2022/10/6	児童養護施設スタッフ	約12名	「摂食障害について・摂食障害の方への接し方」	神奈川県横須賀市児童養護施設 しらかば子どもの家
2022/11/25-26	摂食障害治療に携わる者	不明	第26回 日本心療内科学会・座長及び口演・福岡 シンポジウム5・摂食障害の心療内科領域における現状と課題 演題名:首都圏摂食障害支援拠点病院における摂食障害診療の現状と課題	オンライン

7.普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

千葉県摂食障害支援拠点病院では、千葉県障害者福祉課と連携をとり、摂食障害患者とその家族、それに加えて一般県民に向けても普及啓発活動を行っている。千葉県摂食障害支援拠点病院のホームページ上で当事者・家族向けのe-ラーニングサイトを開設している。また、2020年6月より、Facebook、Instagram、Twitterによる配信を開始した。

●当センターホームページとSNSに関するURL

HP：<http://www.ncgmkohndai.go.jp/sessyoku/index.html>

Facebook @CPTSCED <https://www.facebook.com/CPTSCED/>

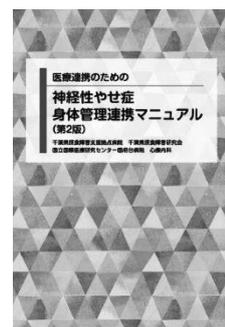
Instagram @chiba_sessyoku https://www.instagram.com/chiba_sessyoku/

Twitter @edsupport_chiba https://twitter.com/edsupport_chiba

千葉県内の摂食障害治療支援に関する医療連携ネットワークの推進のため、第2回目のアンケート調査を2019年度に施行し、2020年度事業報告書にて報告済である。精神科診療所はBMI 15-16kg/m²の受け入れは半数以上が可能などの結果が判明した。今年度は、Webを通じて、「現在摂食障害を診療していると返答した213施設」と「現在診療していないが今後連携可能と返答した146施設」、「第二回目のアンケート調査にご協力いただいていない県内精神科病院33施設」合計392施設を対象に、医療連携の推進のためのアンケート調査(第3回)を実施し、現在解析中である。

また、例年に引き続き、「ネットワークづくりのための千葉県摂食障害研究会」を開催し、摂食障害を治療している県内の医療機関等と交流しているほか、今年度から「治療者の交流を目的とした千葉県摂食障害小研究会」をZOOMにて開催し、治療法の講演や事例検討などを行った。(下記資料参照)

千葉県摂食障害医療連携のための調査(2020年)では、県内で摂食障害を診療している精神科・心療内科医師へアンケートを実施した。その結果より精神科・心療内科医師が内科・小児科・産婦人科・プライマリ・ケアなどの身体科医へ治療を依頼したい項目は、採血検査、輸液等の栄養療法、心電図、レントゲン検査であることが明らかとなった。そこで、これらの項目の特価した治療マニュアルを作成し、さらに第2版に改定し



https://www.ncgmkohndai.go.jp/sessyoku/020/manual_2_20220729.pdf

県内全ての精神科・心療内科施設へ配布した。さらに、県内でこのマニュアルの講習会を開催、それらの対応への疑問点については、千葉県摂食障害支援病院(月・火・金9時～16時)で電話やメールによる相談を受付けている。

普及啓発活動実施結果

HP 閲覧回数(セッション数):10655回(2022.4-2022.11)

Twitter フォロワー数279名(2022年11月時点)

メディア関係

開催日(発行日、オンエア)	メディア	内容
2022/6/15	NHK(WEB)	NHK Web レポート摂食障害の女性が伝えたいこと(河合)
2022/9/8	時事メディカル	治療難しい摂食障害,長引くコロナも影響～全国規模の相談電話,気軽に利用呼び掛ける～(河合)

2022/9/20	AERA dot.	拒食症・過食症「ほっとライン」相談から見えた治療中断の課題 -6割が医療機関に受診経験あり-(河合)
2022/10/10	朝日新聞デジタル	身近な人が摂食障害かも...どう声かければ? 専門家の助言と注意点(河合)
2022/10/14	朝日新聞	摂食障害の悩み、相談して 電話窓口開設 「正しい知識・選択肢伝える」(河合)
2022/11/16	毎日新聞	摂食障害、漂う患者 相談電話、6割が受診経験 医療機関とミスマッチ(河合)

千葉県摂食障害研究会(2017-2022年度)及び千葉県摂食障害小研究会(2022年度)



論文・総説

1. 河合啓介, 身体科と精神科の連携-身体科に必要な精神疾患の基礎知識-摂食障害, *Current Therapy*, 2022, 40(10), 35-39.
2. 河合啓介, 塚崎稔, 波多伴和, 竹元隆洋, 特集3病院における内観療法の実例 病院における内観療法の実例-各施設の内観療法の流れ-, *内観研究*, 2022, 28 (1), 45-55.
3. Kawai K, Kojima Y, Yamamoto Y, Fujimoto K, Tamura N, Oya T, Tachimori H., The importance of an eating disorder treatment support center in Japan: A survey from 2017 to 2020. *Glob Health Med.* 2022 Jun 30;4(3):152-158. DOI: 10.35772/ghm.2021.01104.
4. Yamashita M, Kawai K, Toda K, Aso C, Suematsu T, Yokoyama H, Hata T, Takakura S, Sudo N. Cardiopulmonary exercise testing for patients with anorexia nervosa: a case-control study. *Eat Weight Disord.* 2022 Dec;27(8):3553-3560. DOI :10.1007/S40519-022-01492-6.

書籍

1. 河合啓介, 心療内科の治療 摂食障害に対する認知行動療法, 中井吉英・久保千春編, *心療内科学—診断から治療まで—*, 日本心療内科学会, 2022, 369-373, 朝倉書店.

学会発表・講演等

1. 河合啓介, 事例検討会コーディネーター, 第44回日本内観学会, 2022, Jul, 27th-29th.
2. 河合啓介, シンポジウム司会・コメンテーター, 第44回日本内観学会, 2022, Jul, 27th & 29th.
3. 河合啓介, シンポジウム:摂食障害を外来で効果的に治療する, 演題:身体的合併症と精神面の治療のバランス, 第118回日本精神神経学会学術総会, 2022, Jun, 17th-18th.
4. 河合啓介, シンポジウム:病院での内観療法の実例, 演題:総合病院心療内科での内観療法の導入と展開, 第118回日本精神神経学会学術総会, 2022, Jun, 17th-18th.
5. 長谷川遥菜, 早川達郎, 近藤忠之, 田村奈穂, 河合啓介, 吉村健佑, 柳内秀勝, 酒匂赤人, レセプト情報・特定健診等情報データベース(NDB)オープンデータを用いた摂食障害の臨床疫学, 第118回日本精神神経学会学術総会, 2022, Jun, 17th-18th.

6. 中谷有希, 出水玲奈, 石戸淳一, 田村奈穂, 河合啓介, 不安症状を呈する神経性過食症患者に対して「摂食障害に対する認知行動療法 CBT-E」が有効であった一例, 口演, 第 63 回日本心身医学会, 千葉, 2022, June 25th-26th.
7. 出水玲奈, 廣方美沙, 山本ゆりえ, 石戸淳一, 田村奈穂, 井野敬子, 関口敦, 金吉晴, 河合啓介, 摂食障害全国支援センター「相談ほっとライン」活動報告, 口演, 第 63 回日本心身医学会, 千葉, 2022, June 25th-26th.
8. 伊藤沙織, 山本ゆりえ, 出水玲奈, 田村奈穂, 河合啓介, 2022, 千葉県摂食障害治療支援ネットワーク作成のための摂食障害患者の実態調査(第二報), 口演, 第 63 回日本心身医学会, 千葉, 2022, June 25th-26th.
9. 田村奈穂, 石戸淳一, 出水玲奈, 藤本晃嗣, 大出貴士, 河合啓介, 2022, 神経性やせ症の剖検症例 3 例, ポスター発表, 第 63 回日本心身医学会, 千葉, 2022, June 25th-26th.
10. 渡邊荘, 田村奈穂, 河合啓介, 2022, 急性感音難聴の治療中に心因性難聴と判明した症例, ポスター発表, 第 63 回日本心身医学会, 千葉, 2022, June 25th-26th.
11. 河合啓介, 会長講演 心身医学の原点とその展開, 第 63 回日本心身医学会, 口演, 千葉, 2022, June 25th-26th.
12. 河合啓介, 教育講演 3 摂食障害の身体管理:再栄養症候群を中心に, 座長, 第 25 回日本摂食障害学会, 2022, Online, Oct 15th-16th.
13. 田村奈穂, 一般演題1 症例報告, 座長, 第 25 回日本摂食障害学会, 2022, Online, Oct 15th-16th.
14. 田村奈穂, 大家聡樹, 岩崎心美, 河合啓介, 千葉県摂食障害支援拠点病院への相談内容による, 成人移行における課題, (シンポジウム 4 摂食障害支援拠点:10 代の相談、成人期移行), 口演, 第 25 回日本摂食障害学会, 2022, Online, Oct 15th-16th.
15. 山本ゆりえ, 立森久照, 田村奈穂, 河合啓介, 千葉県摂食障害支援拠点病院における相談内容の NVivo を用いた質的研究 -重症度別解析からみえる患者や家族のニーズとは- (第 2 報), 口演, 第 25 回日本摂食障害学会, 2022, Online, Oct 15th-16th.
16. 河合啓介, シンポジウム 5 摂食障害の心療内科領域における現状と課題 演題名:首都圏の摂食障害支援拠点病院における摂食障害心療の現状と課題, 第 26 回日本心療内科学会, 座長及び口演, 福岡, 2022, Nov 25th-26th.
17. 廣方美沙, 吉田さやか, 田村奈穂, 関口敦, 井野敬子, 金吉晴, 河合啓介, 摂食障害全国支援センター「相談ほっとライン」活動報告, ポスター発表, 第 26 回日本心療内科学会, 福岡, 2022, Nov 25th-26th.
18. 田村奈穂, 石戸淳一, 長田美央, 長谷川遥菜, 出水玲奈, 藤本晃嗣, 富田吉敏, 大出貴士, 河合啓介, 神経性やせ症の剖検症例 4 例, ポスター発表, 第 26 回日本心療内科学会, 福岡, 2022, Nov 25th-26th.
19. 渡邊才一郎, 田村奈穂, 長田美央, 長谷川遥菜, 出水玲奈, 石戸淳一, 藤本和輝, 辰島啓太, 河合啓介, 神経性やせ症に合併する骨粗鬆症に対してロモゾマブの効果がみられた一例, ポスター発表, 第 26 回日本心療内科学会, 福岡, 2022, Nov 25th-26th.

8.行政機関との連携

研修体制・計画

Web による会議を千葉県障害者福祉課の担当職員と定期的に行っている。

連携会議等

開催日	対象者	参加人数	内容	実施場所
5月31日	千葉県摂食障害対策推進協議会代表者	10人	令和4年度第1回千葉県摂食障害対策推進協議会	オンライン
7月11日	各県の摂食障害協議会関係者	11人	令和4年度第1回全国摂食障害支援拠点病院連携ミーティング	オンライン

9.その他の活動

実施体制・計画

普及啓発活動の欄に記載したが、県内の医療連携の推進のため、県内すべての内科・精神科・婦人科・小児科へ医療連携のためのアンケート調査(第2回)を2019年に実施し解析した。一昨年度は、Webを通じて、「現在摂食障害を診療していると返答した213施設」と「現在診療していないが今後連携可能と返答した146施設」、「第二回目のアンケート調査にご協力いただいていない県内精神科病院33施設」の合計392施設を対象に、医療連携の推進のためのアンケート調査(第3回)を実施し、現在結果解析中である。

10.考察

本年度の月の平均相談数52.1件であり、昨年度の59.3件より減少した。この要因の一つとしては、2022年2月に全国ほっとラインが開設されたことが挙げられる。全体の件数は減ったものの、県内相談率は53%から65%へ増加し、県内相談率の増加傾向がみられた。相談者は10代が著明に多く、低年齢層の摂食障害患者が新型コロナウイルス感染状況に影響を受けている可能性はある。支援センター開設当初の病院紹介先は94%が基幹病院であったが、その割合の減少傾向が継続していることはセンター事業の重要な成果と考えている。今年度の相談者は10代が増加しているが、その年齢層で基幹病院への受診希望者が多かった印象がある。支援センター活動開始後も、紹介業務が順調にすすめば、基幹病院への受診患者数は増加しなかった。

<展望> 2020年6月よりFacebook、Instagram、Twitterによる情報配信を開始した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、連携会議がWeb開催になり、現地での講習会活動ができないなどの状況であるが、この機会に支援拠点病院活動もSNS等をより有効利用する方向で進めることを考えている。

千葉県摂食障害支援拠点病院独自の取り組みとして、県内治療施設の疫学調査の結果に基づく連携を目指す。今年度は、新たに「治療者の交流を目的とした千葉県摂食障害小研究会」が開催されたが、今後はさらに、県内の医療施設において複数回の研修会を行い、認定書を出すことを計画している。これは、研修継続の動機付けにもなり、治療者が異動後も、認定制度を通じて摂食障害患者の支援センターネットワークに参加することが可能になると推察される。

<課題>引き続き、医療連携を推進する。一部の施設に偏らない形で連携先を増加させるモデル作成が摂食障害の臨床には必要である。施設の特性に合わせて、初期治療、急性期の治療、身体的重症な患者の治療を取り扱う施設を分けるなどの工夫を目指す。

5. 静岡県摂食障害支援拠点病院活動報告書

令和4年度

静岡県摂食障害支援拠点病院

Shizuoka Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和4年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

1. 基本情報

支援拠点病院名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
静岡県摂食障害支援拠点病院	浜松医科大学医学部附属病院精神科 神経科	431-3192	静岡県浜松市東区半田山 1-20-1	053-435-2635

URL

静岡県摂食障害支援拠点病院：<http://www.shizuoka-ed.jp/>

静岡県摂食障害支援拠点病院職員

氏名	所属	役職
竹林 淳和	浜松医科大学精神科	講師
磯部 智代	浜松医科大学精神科	医療技術職員(臨床心理士)

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
村越 優	看護師

2. 要旨

静岡県摂食障害支援拠点病院（以下、拠点病院）では、前年度に引き続き、県の第 8 次保健医療計画（最終年度令和 5 年度）における都道府県連携拠点機能、地域連携拠点機能、地域精神科医療提供機能を担う医療機関を明確化することを目指し、令和 4 年度は、(1) 静岡県精神病院協会・静岡県診療所協会と協力の元、県内の各地域における外来治療担当医療機関を選出し、摂食障害患者が居住地域で治療が受けられる体制を構築すること、(2) 県内小児科との連携を強化すること、(3) 摂食障害の精神科治療連携病院での継続的な治療研修を行うことを事業計画とした。

『相談支援』については、事業開始後から増加していた減少に転じた。県外からの相談の割合が減り、インターネット経由での相談も減少した。令和 3 年 1 月に全国『相談ほっとライン』が開設されたことにより本件への相談件数が減ったためと考えられる。

『治療支援』については、摂食障害患者が患者の居住地域に外来診療を受けられる治療体制を作るため、静岡県精神科病院協会、静岡県精神神経科診療所協会と検討会を行なった。県東部・中部・西部に外来診療を担当する医療機関を選出していただくよう各協会に協力を依頼し、5 つの医療機関に外来を担当していただくこととなった。

『研修』については、(1) 本事業開始以来、県内の摂食障害の精神科治療協力施設が増えたことや、入院・外来を担当する医療機関のそれぞれの研修会へのニーズやテーマが異なることから、複数の連携施設が同時に研修会に参加することは困難となった。このため、今年度から来年度にかけて研修のためのマテリアルを作成し、全て医療機関で柔軟に研修していただける研修システムを構築することとした。(2) 精神科と小児科が参加する研修会（第 2 回静岡県摂食障害治療研究会）を開催し、講演内容を電子媒体で県内の小児科・精神科の医療機関に配布した。(3) 県外の大学病院精神科からの依頼で、県外の精神科専攻医・研修医を対象とした研修会にて講演を行った。

『普及啓発活動』については、『摂食障害フォーラム』をオンラインで開催し、前半は疾病の理解のための講演を行い、後半は事業開始から本年度までの本県での事業内容と今後の課題・展望について、拠点病院・行政・連携病院の担当者を演者として講演を行った。

『行政機関との連携』については、静岡市こころの健康センター（精神保健福祉センター）との共同で家族教室を行った。浜松市精神保健福祉センターが主催する摂食障害支援検討会に拠点病院も参加し、浜松市の摂食障害治療の連携・支援について検討した。

『その他の活動』として、昨年度に引き続きピア・サポーター養成を兼ねたサポートグループを計 2 回開催し、養成プログラムを受けたピア・サポーターが、家族交流会（1 回）、摂食障害患者のためのグループセラピー（22 回）に参加し、当事者や家族に向けて体験談やコメントを発信していただいた。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	竹林 淳和	浜松医科大学・講師	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	長谷川 花	沼津中央病院・医師	
同上	高木 啓	鷹岡病院・院長 静岡県精神科病院協会	
同上	五條 智久	県立こころの医療センター・医師	
同上	大石 聡	県立こども病院こころの診療センター長	
同上	田中 賢司	藤枝駿府病院・院長	
同上	水野 大地 田中 徹	好生会三方原病院・医師	
同上	西村 克彦	聖隷三方原病院・医師	
同上	大城 将也	菊川市立総合病院・医師	
同上	三田 智子	パルモこども診療所・院長 静岡県小児科医師会・会長	
同上	櫻井 新一郎	桜心メンタルクリニック・院長 静岡県日本精神神経科診療所協会・副会長	
			摂食障害患者家族
同上	木村 雅芳	県西部保健・所長	摂食障害対策に資するもの
同上	内田 勝久	静岡県精神保健福祉センター・所長	
同上	二宮 貴至	浜松市精神保健福祉センター・所長	
同上	大久保 聡子	静岡市こころの健康センター・所長	
同上	近藤 浩通	静岡県教育委員会事務局健康体育課長	教育関係者
同上	森岡 克明	静岡県健康福祉部障害者支援局長	県
同上	大石 晴康	静岡県健康福祉部障害者支援局 障害福祉課精神保健福祉室長	

摂食障害対策推進協議会

	開催日	議 題
第1回	令和4年9月1日	<ol style="list-style-type: none"> 令和3年度摂食障害治療支援センター設置運営事業実施報告について 令和4年度摂食障害治療支援センター設置運営事業実施計画について 診療報酬改定の情報提供、現在の算定状況の調査について 摂食障害患者の転院について 摂食障害患者の紹介状の記載内容に関して、静岡県病院協会及

		び静岡県医師会を通じた県内医療機関への周知依頼について 6. 静岡県精神科病院協会及び静岡県精神神経科診療所協会の外来診療連携参加に関する委員への協力依頼について 7. 高等学校学習指導要領改訂と保健体育での摂食障害指導について 8. 当協議会の情報公開について
第2回	令和5年2月3日	1. 令和4年度摂食障害治療支援センター設置運営事業実施報告について 2. 令和5年度摂食障害治療支援センター設置運営事業実施計画について

4. 相談支援

相談体制

1. コーディネーターが週3日、電話にて摂食障害患者及びその家族への専門的な相談支援を行う。

相談支援結果

相談件数は本年度11月末の時点で延べ163件であり、同時期（246件）と比べ少なくなっている。相談者の居住地域については事業開始以来、県外からの相談の割合が約1/3を占めて推移していたが、本年度は県外からの相談の割合が減っている。また、支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけは、インターネットが大きく減っている。これらは、令和3年1月に、全国を対象とした電話相談『摂食障害「相談ほっとライン」』が開設されたことにより本件への相談件数が減ったためと考えられる。相談後の紹介先も、県外の「他の病院」への紹介の割合が減った。

相談件数 期間:R4.4-R4.11

新規相談件数	延べ相談件数
119	163

地域(新規件数)n= 119 間:R4.4-R4.11

県内	県外	不明	計
90	29	0	119

相談者(新規件数)n= 119 期間:R4.4-R4.11

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
30	4	42	2	5	30	1	3	2	0	119

相談対象患者の年齢(新規件数)n= 119 平均年齢: 24.5 SD= 11.35 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	不明	個別以外	計
0	53	31	17	8	4	2	0	3	1	119

相談対象患者の性別(新規件数)n= 119 間:R4.4-R4.11

女性	男性	その他	不明	個別以外	計
108	10	0	0	1	119

相談対象患者状態(新規件数)n= 119 期間:R4.4-R4.11

やせ	食事制限	過食	代償行動					精神・行動症状					
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	その他
81	81	47	36	12	4	16	5	7	34	2	5	4	16

相談対象患者属性(新規件数) n= 119 期間:R4.4-R4.11

学生				社会人			その他	不明	個別以外	計
小	中	高	大/専	就業者	無職	主婦				
3	19	22	16	28	4	1	0	25	1	119

摂食障害での受診状況(新規件数) n= 119 期間:R4.4-R4.11

受診中	中断中	未受診	ED以外で受診中	その他	不明	個別以外	計
37	15	33	28	3	2	1	119

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ(新規件数) n= 119 期間:R4.4-R4.11

インターネット	紹介				メディア				ポスター・ちらし	その他	不明
	機関			その他・不明	テレビ	新聞	自治体・広報	その他・不明			
	医療	行政	教育								
50	37	5	2	2	0	0	0	0	0	0	23

相談経路(延べ件数)n= 163 期間:R4.4-R4.11

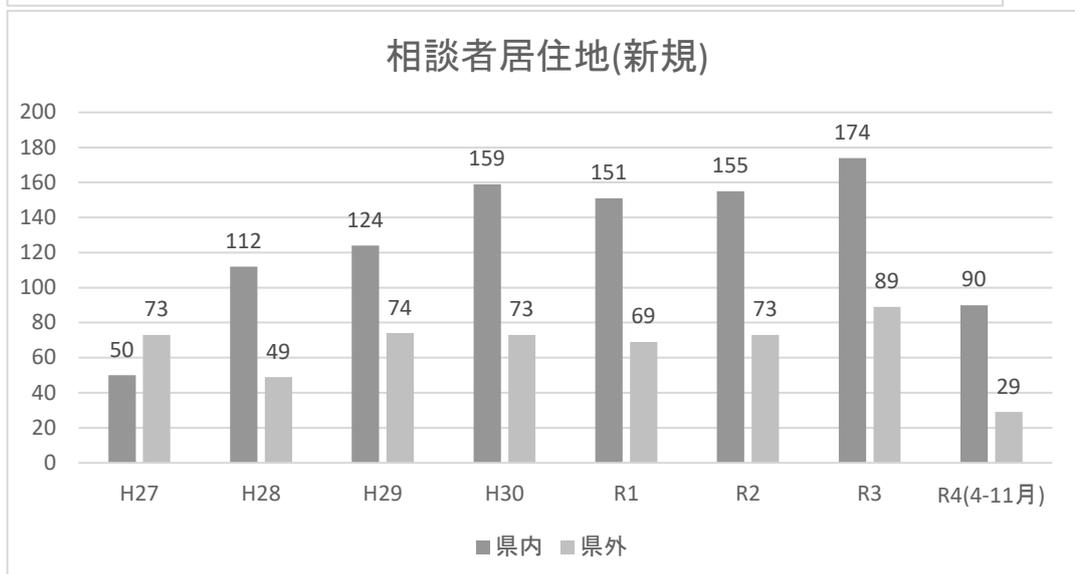
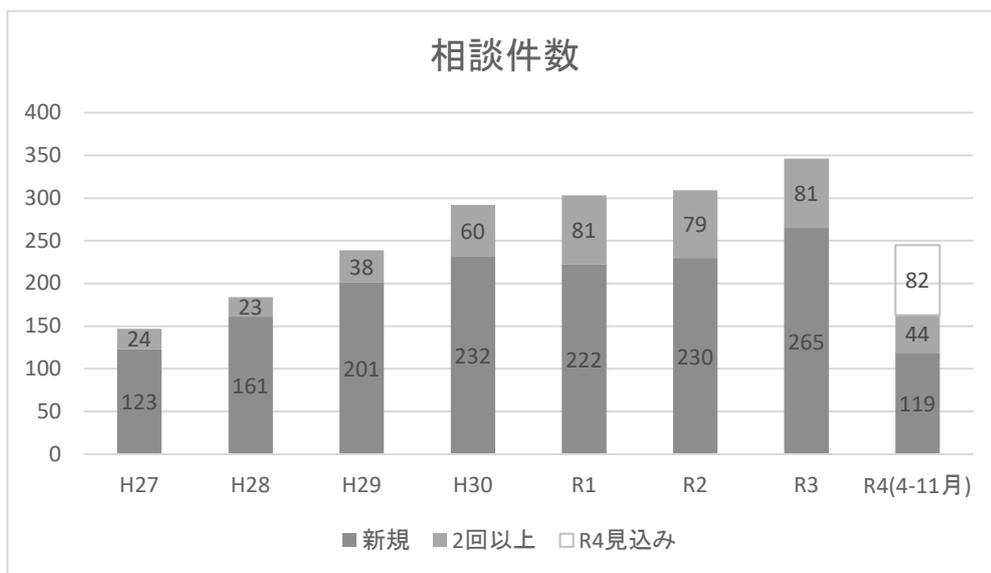
電話	メール	面談	計
163	0	0	163

相談内容(延べ件数) n= 163 期間:R4.4-R4.11

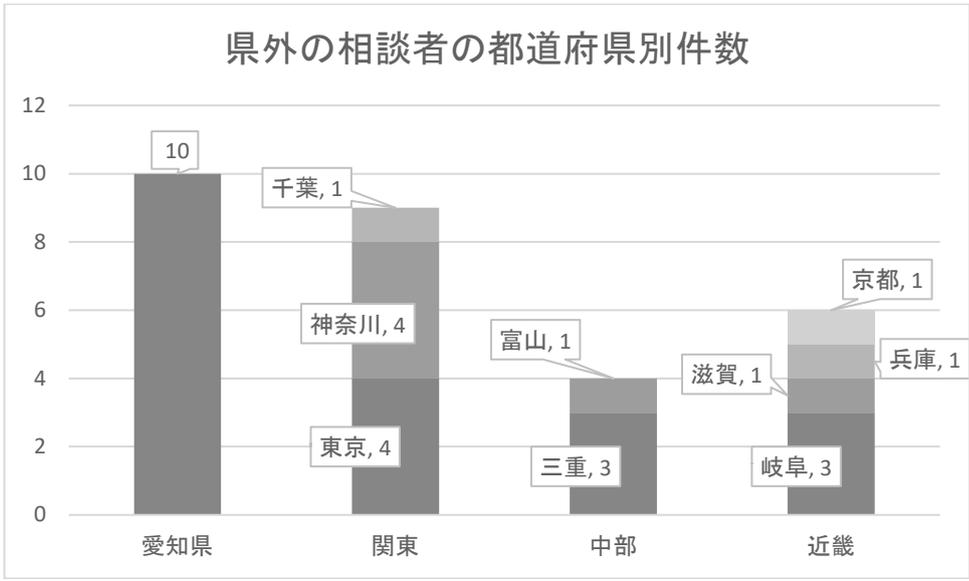
疾患相談	有り	対応相談			受診相談	問い合わせ	その他	コロナ関連
		接し方	生命危機	受診拒否				
26	22	11	1	8	143	1	0	3

対応内容(延べ件数) n= 163 期間:R4.4-R4.11

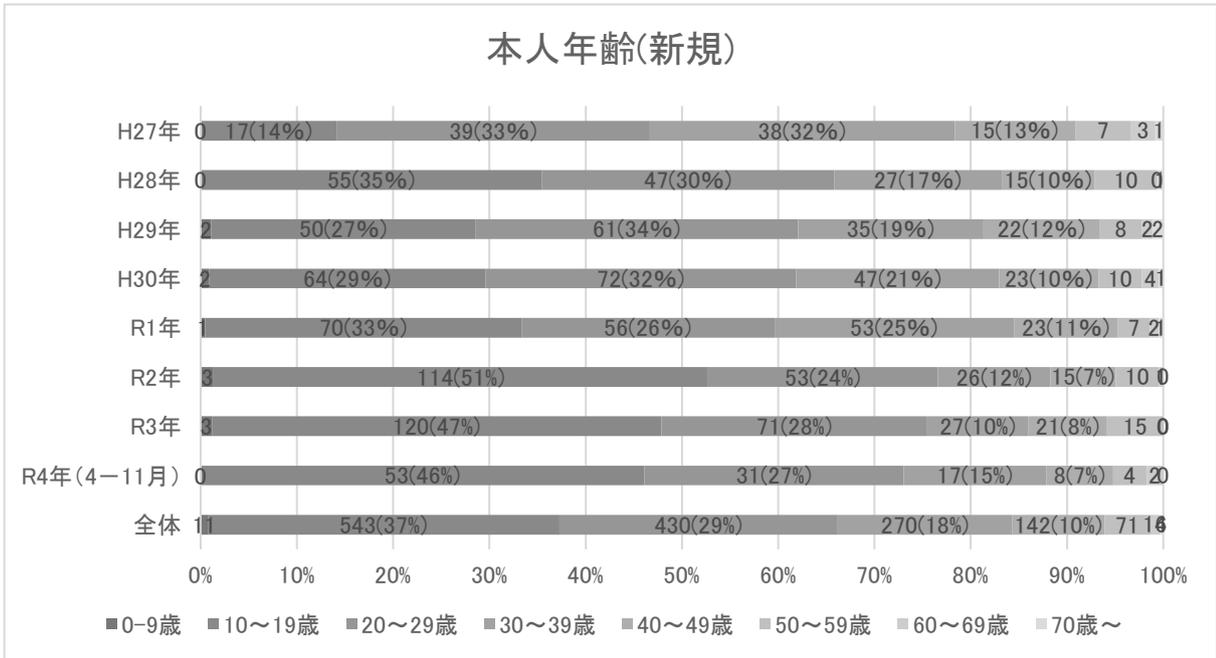
有り	紹介先				有り	情報提供				助言	問い合わせ対応	その他
	拠点病院	協力病院	他の医療機関	公共機関		疾患知識	治療受診	資料	社会資本			
103	45	38	18	14	59	27	33	8	0	111	2	0



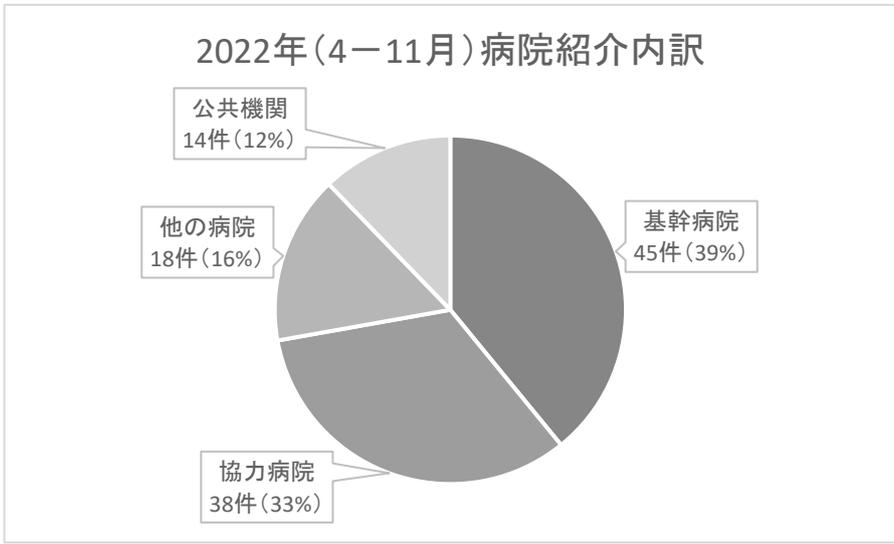
県外の相談者の都道府県別件数



本人年齢(新規)



2022年(4-11月)病院紹介内訳



〈家族支援〉

開催日	対象者	参加人数 (組)	内容	実施場所
令和4年5月28日、 6月25日、7月23日	摂食障害の患 者の家族	4	摂食障害への効果的な 対応を知ろう・摂食障 害の症状を知ろう・摂 食障害の回復・サポー トのコツ	浜松医科大学
令和4年7月16 日、8月20日、9 月17日	家族	8	同上	web
令和4年12月 17日、令和5年 1月21日、2月 18日	家族	4	同上	静岡市こころの 健康センター
令和4年6月18日	家族	13	摂食障害家族交流会	web

令和4年度

第1回オンライン摂食障害家族教室

食べ物へのこだわりが強い・食べる量がとても少ない…
食べ物を大量に食べたり、吐いたりしている…
とても痩せているのに、もっと痩せようとしている…

静岡県摂食障害支援拠点病院では、摂食障害の患者さんをもつご家族を対象に、3回シリーズの家族教室をオンラインで開催します。3回を通じて、摂食障害についての知識が深まりより良い対処が身に付きます。また、ご家族同士が和気あいあいと話し合える場を提供します。

主催：静岡県摂食障害支援拠点病院
(旧静岡県摂食障害治療支援センター)

会場 Zoomを用いたオンライン開催

全3回参加が可能な方を優先させていただきます。

第1回	令和4年7月16日(土)	13:30-16:00	摂食障害への効果的な対応を知ろう
第2回	令和4年8月20日(土)	13:30-16:00	摂食障害の症状を知ろう
第3回	令和4年9月17日(土)	13:30-16:00	摂食障害の回復・サポートのコツ

【定員】 摂食障害を抱える方のご家族 先着10家族
【参加費】 無料
【申し込み・問い合わせ】 静岡県摂食障害支援拠点病院

(旧静岡県摂食障害治療支援センター)
(浜松医科大学附属病院精神神経科内)

申し込みフォーム (QRコードよりどうぞ)



*この家族教室に参加して頂くためには、Zoomアプリが必要です。パソコンもしくはスマートフォン、タブレット等をご用意して頂き、あらかじめ以下のサイトより、アプリをインストールして下さい。

<https://zoom.us/download>

申し込み完了後、スタッフよりメールにてZoom会議へのアクセスの仕方をご案内致します。

*家族教室に参加される際には、wifi環境のある、なるべく静かな場所をご用意下さい。

令和4年 6月

摂食障害家族交流会 開催のお知らせ

オンライン

令和4年度第1回家族交流会のお知らせです。摂食障害の方を抱えるご家族を対象とした、体験を共有し、情報交換が出来る場です。今回は、新型コロナウイルス感染症拡大を鑑み、オンラインで開催致します。

摂食障害から回復傾向にあるピアサポーターも参加します。

皆さまのご参加、心よりお待ちしております。

日時 令和4年6月18日(土曜日)

時間 14:00から2時間程度
途中参加はご遠慮下さい

会場 Zoomを用いたオンライン開催

【定員】 摂食障害を抱える方のご家族 先着12家族 【参加費】 無料
【お問い合わせ】

静岡県摂食障害支援拠点病院 (浜松医科大学附属病院精神科内)
【申し込み】 右のQRコードよりどうぞ



*この家族交流会に参加して頂くためには、Zoomアプリが必要です。パソコンもしくはスマートフォン、タブレット等をご用意して頂き、あらかじめ以下のサイトより、アプリをインストールして下さい。

<https://zoom.us/download>

申し込み完了後、スタッフよりメールにてZoom会議へのアクセスの仕方をご案内致します。

*家族交流会に参加される際には、wifi環境のある、なるべく静かな場所をご用意下さい。

5. 治療支援

治療体制・計画

県の第8次保健医療計画（～令和5年度）における都道府県連携拠点機能、地域連携拠点機能、地域精神科医療提供機能を担う医療機関を明確化する。

- 1 静岡県精神病院協会・静岡県診療所協会と連携して県内の各地域（二次医療圏等）における外来治療担当医療機関を明確にする。担当機関を対象に複数回の研修を行い、摂食障害患者が居住地で治療が受けられる体制を構築する。
- 2 県内小児科との連携を強化する。
- 3 摂食障害の精神科治療協力病院での継続的な治療研修を行う。

治療支援実施結果

〈摂食障害治療連携検討会〉				
	開催日	参加者	会議名	実施場所
第1回	令和4年4月9日	小池和憲（静岡県精神神経科診療所協会西部担当）、支援拠点病院	第4回静岡県摂食障害治療連携検討会	小池神経科
第2回	令和4年5月14日	大嶋正浩（静岡県精神神経科診療所協会西部担当）、支援拠点病院	第5回静岡県摂食障害治療連携検討会	ダダ第一クリニック
第3回	令和4年8月8日	大場悟（静岡県小児科医会、浜松市医師会）、浜松市精神保健福祉センター、支援拠点病院	第6回静岡県摂食障害治療連携検討会	おおば小児科
第4回	令和4年8月18日	溝口明範（静岡県精神科病院協会・寺田誠史（静岡県精神神経科診療所協会）、静岡県、支援拠点病院	第7回静岡県摂食障害治療連携検討会	web
第5回	令和4年10月4日	富士心身リハビリテーション研究所附属病院・静岡県・支援拠点病院	第8回静岡県摂食障害治療連携検討会	富士心身リハビリテーション研究所附属病院
第6回	令和5年1月5日	山岡功一（静岡県精神科病院協会）・寺田誠史（静岡県精神神経科診療所協会）・静岡県、支援拠点病院	第9回静岡県摂食障害治療連携検討会	web
<p>1. 静岡県精神科病院協会からは県東部に1病院の外来担当医療機関が決まりいくことが決定したが、県中部・西部は病院協会主導での外来治療協力病院を選出していただくことが困難であった。静岡県精神神経科診療所協会からは県東部・中部・西部に合計4つの外来担当医療機関を選出していただき、今後、拠点病院と連携して外来初診患者の早期受診につなげる。 〈外来診療担当病院・診療所で受け入る患者の条件〉</p>				

- (1) 年齢：中学生以上
 (2) 身体状態：BMI \geq 14
 (3) 年間あたりの受け入れ患者数：3～4名程度（3～4ヵ月毎に1名）
 (4) 初診待機期間（初診依頼があつてから診療開始までの期間）：1ヶ月以内
2. 県内小児科との連携のための研究会を開催した。（（3）研修参照）
3. 研修のためのマテリアルを作成し、連携病院に配布することとした。（（3）研修参照）

支援拠点病院

初診患者数（R4.4・R4.11） 43人

初診患者数	43人							
性別	女性	男性						
	42人	1人						
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	
	0人	19人	15人	5人	1人	3人	0人	
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID	UFED	
	21人	9人	11人	0人	0人	2人	0人	
外来／入院	外来のみ	入院のみ	両方					
	26人	6人	11人					
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25 \leq
	3人	10人	9人	3人	2人	4人	11人	1人
治療状態	治療中	治療中断	治療終了	紹介				
	31人	0人	3人	9人				

入院患者数（R4.4・R4.11） 40人

入院患者数	40人							
性別	女性	男性						
	39人	1人						
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	
	0人	20人	10人	6人	3人	1人	0人	
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID	UFED	
	22人	12人	5人	1人	0人	0人	0人	
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25 \leq
	6人	11人	7人	1人	4人	3人	7人	1人

*入院中、BMI14にて協力病院に転院した患者2名。

協力病院：初診患者数／入院患者数(令和4年4-11月)

静岡県立こども病院：19名／10名（18名／9名）

菊川市立総合病院：5名／3名（3名／1名） 聖隷三方原病院：12名／13名（12名／10名）

沼津中央病院：11名／8名（12名／12名） 鷹岡病院：4名／1名（2名／0名）

静岡県立こころの医療センター：12名／17名（16名／15名）

藤枝駿府病院：3名／4名（5名／5名） 好生会三方原病院：3名／4名（4名／2名）

*（）内は昨年度

6. 研修

研修体制・計画

1. 摂食障害の精神科治療協力病院での継続的な治療研修を行う。
2. 精神科と小児科との連携を強化する。
3. 予防と早期発見を目的とし、養護教諭に対する研修を行う。

研修実施結果

講習会、研修会、ミーティング等

	開催日	対象者	参加人数	研修内容	実施場所
第1回	令和4年4月18日	秋田大学病院関連の若手医師	30名	第2回 秋田スキルアップセミナー	web
第2回	令和4年6月25日	奈良県立医科大学および離接県の医師	24名	第7回Nara Young Meeting	web
第3回	令和4年8月22日	浜松医大精神科病棟看護師	18名	精神科看護師セミナー	学内
第4回	令和4年8月29日	福井県内医療従事者、福祉行政職員、学校教諭	134名	摂食障がいへの治療支援に関する研修会	web
第5回	令和4年10月28日	ルンドベック社員		社員研修会	web
第6回	令和4年11月11日	産業医	24名	産業医研修会「摂食障害の理解と職場における支援について」	アクトシティ浜松交流研修センター
第7回	令和4年12月2日	産業医	34名	産業医研修会「摂食障害の理解と職場における支援について」	静岡労政会館
第8回	令和4年11月28日	精神科医・小児科医	50名 (精33、小12、他5)	第2回静岡県摂食障害治療研究会(資料②)	web
第9回	令和5年1月17日	石川県内医療従事者、福祉行政職員、学校教諭		摂食障害治療研修 - 入院治療の留意点とコツ - 第一回	金沢大学病院
第10回	令和5年1月31日	静岡県内精神科・小児科医療従事者		Psychiatry Topic Webinar 『摂食障害の最新治療-外来治療を中心に-』	web

1. 県内の摂食障害の精神科治療協力施設が増えたことや、入院・外来を担当する医療機関のそれぞれの研修会へのニーズやテーマが異なることから、複数の連携施設が同時に研修会に参加することは困難となった。このため、研修のためのマテリアルを作成し、すべての連携病院に配布することとした。
2. 昨年度に引き続き精神科と小児科が参加する研究会（第2回静岡県摂食障害治療研究会）を開催し、講演の内容は電子媒体で県内の小児科・精神科の医療機関に配布した。
3. 予定していた養護教諭研修会が新型コロナウイルス感染症の流行のために開催中止

となり、来年度に延期となった。

4. その他

- (1) 県外の大学病院からの依頼で精神科の専攻医・研修医を対象とした研修会をweb開催した。
(4月18日、6月25日)
- (2) 静岡産業保健総合支援センターからの依頼で産業医に対する研修会を開催した。
(11月11日、12月2日)

第2回静岡県摂食障害治療研究会

共催：浜松医科大学附属病院精神科神経科（静岡県摂食障害支援拠点病院）、県立こども病院こころの診療科

後援：浜松医科大学附属病院小児科、静岡県小児科医会、静岡県精神科病院協会、静岡県精神神経科診療所協会

日時

2022年11月28日(月) 18:30~20:10

開催形式：ウェブ開催（Zoom webinar）

* 事前参加申し込みの方法は裏面に記載しています。

プログラム

座長：浜松医科大学 精神科神経科 教授 山末 英典 先生

講演1 18:30~19:10 (40分)

『精神科における児童思春期の摂食障害治療の実際』

演者：名古屋市立大学大学院 医学研究科 精神・認知・行動医学

分野助教、保健管理センター副センター長 白石 直 先生

講演2 19:10~19:50 (40分)

『小児科における児童思春期の摂食障害治療の実際』

演者：星ヶ丘マタニティ病院 小児科 井口 敏之 先生

質疑応答 19:50~20:10

7. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

- | |
|--|
| 1. 一般市民、摂食障害当事者、家族、支援者を対象とした摂食障害に関する普及啓発活動を行う。 |
|--|

普及啓発活動実施結果

開催日	対象者	参加人数	内容	実施場所
令和4年 10月8 日	一般市民、当事者、家族、支援者	138名	令和4年度静岡県摂食障害フォーラム	web
<p>〈プログラム〉</p> <p>第1部 摂食障害に関する基本的知識と最新の治療</p> <p>第2部 静岡県の摂食障害治療支援センター設置運営事業について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 静岡県摂食障害支援拠点病院設置における行政の役割 発表者：静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課 精神保健福祉室長 大石晴康 2. 静岡県内の摂食障害の相談支援と医療連携状況 発表者：摂食障害治療拠点病院（浜松医科大学医学部附属病院） 竹林淳和 3. 聖隷三方原病院精神科における摂食障害の診療 発表者：聖隷三方原病院 精神科科長 西村克彦 4. 単科精神病院における摂食障害治療 発表者：県立こころの医療センター：医長 五條智久 5. 児童思春期精神科における摂食障害治療と小児科との連携 発表者：県立こども病院 こころの診療部こころの診療科 部長 大石聡 6. 浜松市精神保健福祉センターの摂食障害家族支援について 発表者：浜松市精神保健福祉センター センター長 二宮貴至 7. 事業の今後について 発表者：摂食障害治療拠点病院（浜松医科大学医学部附属病院）：竹林淳和 				

インターネット

静岡県摂食障害支援拠点病院 ホームページ <http://www.shizuoka-ed.jp/>

閲覧回数（セッション数）：6,208（R4.4-R4.11、グーグルアナリティクス）

ユーザー：4,893 新規ユーザー：4,816 ユーザーあたりのセッション数：1.45

市町村：不明 21.45%、浜松 10.13%、名古屋 5.52%、静岡 5.45%、大阪 4.18%

主催 静岡県・静岡県摂食障害支援拠点病院
共催 静岡市こころの健康センター・浜松市精神保健福祉センター

摂食障害
は
治ります！

静岡県摂食障害

フォーラム

2022

2022年10月8日（土）

13:30～15:30

Zoomにてオンライン開催

プログラム

第1部 13:30～14:00

摂食障害に関する基本的知識と最新の治療

講師 竹林淳和

第2部 14:05～15:30

静岡県における摂食障害の治療・支援って

どうなっているの？

対象 一般市民、当事者、家族、支援に関わる専門家

参加費 無料

お問合せ

静岡県摂食障害支援拠点病院
(浜松医科大学附属病院精神科神経科内)

☎053-435-2295

平日9:00～15:30

お申込み

静岡県摂食障害支援拠点病院ホームページ

<http://www.shizuoka-ed.jp>



8. 行政機関との連携

計画

1. 『第7次医療計画』における医療連携体制の構築において、静岡県健康福祉部障害者支援局と連携し、摂食障害の治療体制を確立する（平成30年度からの6か年計画）。
2. 家族教室運営の行政への移行：2019年度に静岡市こころの健康センターに運営を移行した家族教室において、医療機関よりスタッフの派遣を行う。
3. 行政が運営する家族支援と医療との連携：浜松市精神保健福祉センターが主催する家族交流会において、医療機関より治療者を派遣し、講演を行う。

実施結果

1. 県障害福祉課職員が静岡県精神科病院協会、静岡県精神神経科診療所協会および、県内の連携医療機関との摂食障害治療連携検討会（5. 治療支援 参照）に帯同した。
2. 静岡市こころの健康センターとの共同で家族教室を行った。（4. 相談支援「家族支援」の項参照）
3. 浜松市精神保健福祉センターが主催する摂食障害支援検討会に拠点病院が参加し、浜松市の摂食障害の連携、支援について検討した。

連携会議等

開催日	対象者	参加人数	内容	実施場所
R4/5/23	支援センター職員、浜松市精神保健福祉センター、浜松市内小児科医	9名	摂食障害支援検討会	リモート会議（浜松市）
R5/2/27	支援センター職員、浜松市精神保健福祉センター、浜松市内小児科医		摂食障害支援検討会	リモート会議（浜松市）

浜松市精神保健福祉センター主催の家族交流サロン

令和4年9月24日

内容：家族交流会 ピア・サポーターを交えた分かち合い

場所：浜松市精神保健福祉センター（リモート開催）、参加人数8名

9. その他の活動

実施体制・計画

1. ピア・サポーターを養成するためのプログラムを開発するとともに、治療・支援に参加して頂き、治療・支援においてピア・サポーターが継続的に参加する体制づくりを確立する。下記を計画
 - (ア) 摂食障害フォーラムへの参加
 - (イ) 浜松医科大学精神科神経科受診中の摂食障害患者のためのグループセラピーへの参加
2. 治療支援拠点病院主催の家族交流会、浜松市精神保健福祉センター主催の家族交流会への参加

実施結果

ピア・サポーター養成を兼ねたサポートグループを計2回開催した。

治療、支援への協力については、摂食障害フォーラムへの参加は見送り、家族交流会（1回）、摂食障害患者のためのグループセラピー（22回）にそれぞれピア・サポーターとして参加してもらい、当事者や家族に向けて体験談やコメントを発信してもらった。

新型コロナウイルス感染症感染の流行状況を鑑み、本年度はオンラインを中心に開催した。

開催日	対象者	参加人数	内容	実施場所
令和4年4月9日	回復者	4名	ピア・サポーター養成を兼ねたサポートグループを開催。	web
令和5年1月14日		5名	同上	
令和4年4月9日	同上	3名	当事者のためのグループセラピーへの参加	同上
令和4年5月21日	同上	4名	同上	同上
令和4年6月18日	同上	4名	同上	同上
令和4年7月30日	同上	5名	同上	同上
令和4年8月6日	同上	4名	同上	同上
令和4年8月20日	同上	4名	同上	同上
令和4年9月3日	同上	4名	同上	同上
令和4年9月24日	同上	3名	同上	同上
令和4年10月8日	同上	3名	同上	同上
令和4年10月22日	同上	3名	同上	同上
令和4年11月12日	同上	4名	同上	同上
令和4年11月26日	同上	4名	同上	同上
令和4年12月10日	同上	3名	同上	同上
令和4年12月24日	同上	3名	同上	同上
令和5年1月14日	同上	4名	同上	同上
令和5年1月28日	同上		同上	同上
令和5年2月4日	同上		同上	同上
令和5年2月18日	同上		同上	同上
令和5年3月11日	同上		同上	同上
令和5年3月25日	同上		同上	同上

10. 考察

(1) 外来診療の均てん化について

静岡県内では入院治療の均てん化が進んでいるが、外来診療は地域差が大きく、均てん化が進んでいなかった。外来診療の均てん化を目指して、令和3年度より静岡県精神病院協会・静岡県診療所協会と連携を図り、本年度までに外来診療を担当する医療機関を新たに5機関選出した。しかし、依然として外来診療を担当する医療機関は県内で偏在している。入院治療に比べ、外来診療はより患者の居住地域に近い医療機関で診療すべきであり、今後、外来治療の均てん化をさらに推し進める必要がある。

来年度以降も地域医療を担う静岡県精神病院協会・静岡県診療所協会と連携を継続していく。加えて、『精神科領域専門医研修プログラム』や『子どものこころ専門医機構研修施設群』などの精神科の専門医研修と連携し、研修医・専攻医が継続的に摂食障害の診療に従事する機会を確保するとともに、治療支援を行う。これらの摂食障害を診療する医師の継続的な育成を通して、摂食障害診療の均てん化を図る。

(2) 小児科との連携について

昨年度、今年度に精神科・小児科が合同で参加する研究会を開催した。昨年度は児童思春期の摂食障害の診療を行っている支援拠点病院や精神科児童思春期専門病院の紹介、本年度は摂食障害の家族療法について講演を行った。来年度は疾患の具体的なケース・カンファレンス等を通して、現場でのより実地的な連携の在り方について検討を行う。

(3) 治療研修の在り方について

摂食障害の研修は、入院／外来、精神科／小児科、診療従事者／ゲートキーパー、医師／コメディカル、ピア・サポーター等、研修内容や研修対象が多岐にわたっている。これらの研修を県内全域で継続的に開催することが困難になってきている。オンライン（オンデマンド）による研修や、研修時間の制約のないマテリアルの配布など、研修の在り方を検討する必要がある。

6. 福岡県摂食障害支援拠点病院活動報告書

令和 4 年度

福岡県摂食障害支援拠点病院

Fukuoka Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和4年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

1. 基本情報

支援拠点病院名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
福岡県摂食障害 支援拠点病院	九州大学病院 心療内科	812-8582	福岡県福岡市東区馬出 3-1-1	092-642-4869

URL

福岡県摂食障害支援拠点病院：<http://edsupport-fukuoka.jp/>

摂食障害支援拠点病院職員

氏名	所属	役職
須藤 信行	九州大学病院 心療内科	教授
高倉 修	九州大学病院 心療内科	講師
波多 伴和	九州大学病院 心療内科	助教
権藤 元治	九州大学病院 心療内科	助教
麻生 千恵	九州大学病院 心療内科	医師
戸田 健太	九州大学病院 心療内科	医師
横山 寛明	九州大学病院 心療内科	医師
末松 孝文	九州大学病院 心療内科	医師
北島 智子	九州大学病院 心療内科	テクニカルスタッフ

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
北島 智子	保健師

2. 要旨

福岡県摂食障害支援拠点病院（旧：福岡県摂食障害治療支援センター）は2015年12月より、摂食障害患者や関係者への相談支援、摂食障害に診療経験の少ない医療機関への助言指導、県民に対する摂食障害の普及啓発を軸とした事業を展開し、福岡県における摂食障害医療体制の構築を目指し活動している。

本年度も有識者により構成される福岡県摂食障害対策推進協議会を設置し、計画の策定、検証を行った。本年度は一部協議会委員の一部変更が行われた。

相談支援における相談者数は、例年よりも少ないペースで推移している。COVID-19パンデミックに対する行政措置の緩和なども影響しているかも知れない。一方、どこにも受診したことのない患者の割合は年々増加しており、普及啓発活動などが寄与している可能性がある。

助言指導では、単科精神科への出張講習に加え、診療科や医療機関を特定しない医療者向けの研修会を行っている。不特定の医療機関向けへの研修会には、県内の精神科、また内科・小児科などの身体科に加え、外科や訪問看護など医療関係、保健所など行政機関からも申し込みがあった。職種では医師や看護師・心理士・ソーシャルワーカーに加え、管理栄養士や理学・作業療法士、薬剤師、保健師など多岐に渡っていた。子どものこころ診療部との連携においては、発達障害が疑われる患者についての診療の橋渡しがスムーズに行われるようになっている。協議会委員である福岡大学小児科永光信一郎先生のご協力により、小児例についての連携が摂りやすくなっている。

普及啓発活動においては、学校関係者への研修会はオンラインで開催し、多数の参加者を得ることができた。教員や養護教諭が摂食障害患者に遭遇した際の対処法や医療との連携について学ぶ機会となった。啓発リーフレットの配布は引き続き行っている。

以上、相談者の推移から、事業が早期発見・早期治療および潜在患者の掘り起こしに寄与している可能性が考えられた。また、県内の医療連携に加え、院内の連携についての新たな展開が期待され、発達障害合併例や小児例を含むより幅広い医療連携が構築されている可能性が考えられた。また、早期発見・早期治療へ患者を導くにはゲートキーパーとしての学校関係者との連携が重要と考えられた。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	楯林 英晴	福岡県精神保健福祉センター所長	福岡県
委員	宗 真由美	福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課職員	
同上	大村 重成	福岡保養院院長・福岡県精神科病院協会副会長	摂食障害治療を専門的に行なっている医師
同上	原 祐一	原土井病院副理事長・福岡県医師会理事	
同上	永光 信一郎	福岡大学医学部小児科学講座	
同上	藤田 浩介	北九州市立精神保健福祉センター所長	精神保健福祉センター 保健所
同上	川口 貴子	福岡市精神保健福祉センター所長	
同上	高田 淳子	福岡県田川保健福祉事務所保健監	
同上	今村 浩司	西南女学院大学教授 福岡県精神保健福祉士協会代表代行理事	摂食障害対策に資するもの
同上	-	-	摂食障害患者
同上	-	-	摂食障害家族
事務局	猪肢 祐子	福岡県保健医療介護部健康増進課 こころの健康づくり推進室	/
	小迫 基央		
	中川 洸平		
	須藤 信行	九州大学病院 心療内科	
	高倉 修		
	波多 伴和		
	権藤 元治		
	麻生 千恵		
	戸田 健太		
	末松 孝文		
	北島 智子		

摂食障害対策推進協議会

	開催日	議 題
第 1 回	令和 4 年 7 月 22 日 (Web 開催)	1. 令和 3 年度摂食障害治療支援センター設置事業実績報告 2. 令和 4 年度摂食障害治療支援センター事業実施計画 3. その他
第 2 回	令和 5 年 2 月 書面開催予定	令和 4 年度事業実績報告、事業効果の検証

4. 相談支援

相談体制

- ・コーディネーター（保健師）1名による電話・メール・面談での相談を実施する。
- ・窓口開設時間：9時～16時（月・水・金曜日）
- ・摂食障害救急対応マニュアルに従い、医療機関の紹介を行う。
- ・精神保健福祉センター、保健福祉（環境）事務所、学校等との連携をこれまで以上に強化する。

相談支援結果

- ・相談件数は例年より少ないペースで経過している。
- ・10代の若年患者に関する相談は2020年をピークに例年並みに戻りつつある印象。
- ・未受診患者の相談割合がさらに増加している。
- ・支援拠点病院から九州大学病院への案内は年々減少傾向にある。

相談件数 期間:R4.4-R4.11

新規相談件数	延べ相談件数
124	153

地域(新規件数)n= 124 期:R4.4-R4.11

県内	県外	不明	計
91	24	9	124

相談者(新規件数)n= 124 期間:R4.4-R4.11

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
36	6	47	5	6	8	2	4	4	6	124

相談対象患者の年齢(新規件数)n= 124 平均年齢: 25.5 SD= 13.2 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	不明	個別以外	計
3	36	35	18	4	6	2	1	15	4	124

相談対象患者の性別(新規件数)n= 124 期:R4.4-R4.11

女性	男性	その他	不明	個別以外	計
102	11	0	7	4	124

相談対象患者状態(新規件数)n= 124 期間:R4.4-R4.11

やせ	食事制限	過食	代償行動					精神・行動症状					
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	その他
67	51	55	46	10	1	17	2	11	11	2	2	5	18

相談対象患者属性(新規件数)n= 124 期間:R4.4-R4.11

学生				社会人			その他	不明	個別以外	計
小	中	高	大/専	就業者	無職	主婦				
4	15	12	17	31	11	10	1	19	4	124

摂食障害での受診状況(新規件数)n= 124 期間:R4.4-R4.11

受診中	中断中	未受診	ED以外で受診中	その他	不明	個別以外	計
41	17	32	18	0	12	4	124

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ(新規件数)n= 124 期間:R4.4-R4.11

インターネット	紹介				その他・不明	メディア				ポスター・ちらし	その他	不明
	機関			テレビ		新聞	自治体・広報	その他・不明				
	医療	行政	教育									
71	9	5	2	7	0	7	1	0	7	1	14	

相談経路(延べ件数)n= 153 期間:R4.4-R4.11

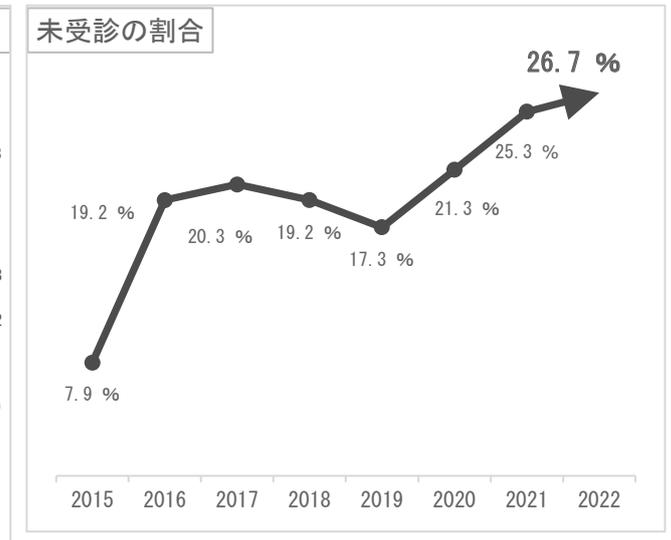
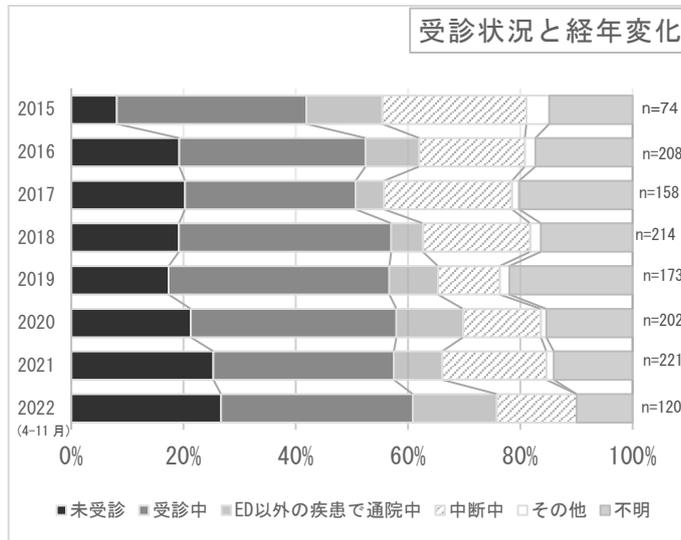
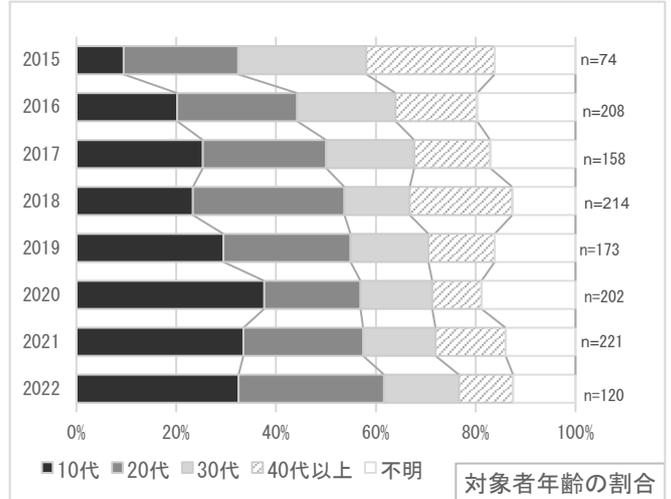
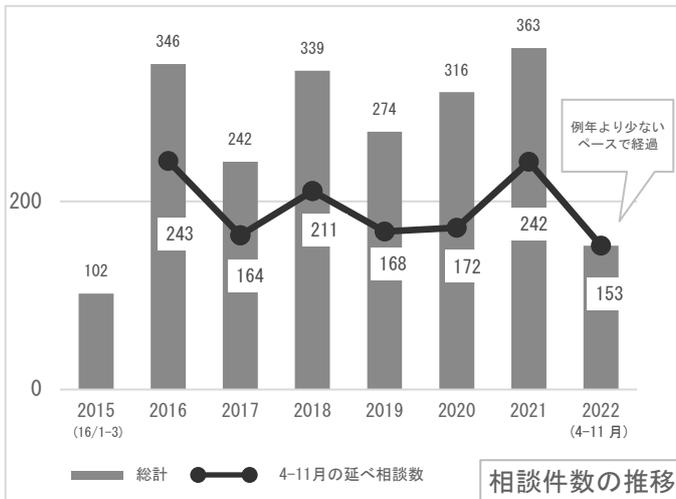
電話	メール	面談	計
136	16	1	153

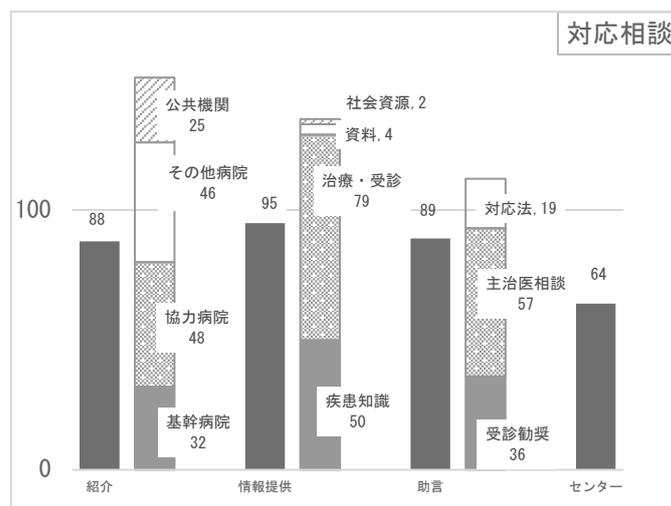
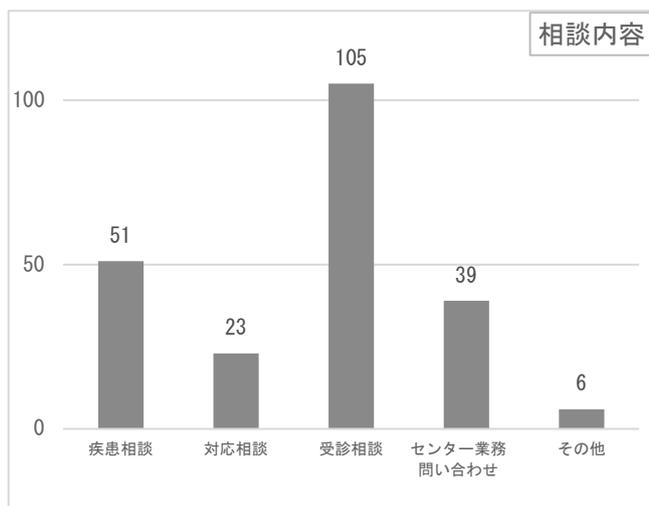
相談内容(延べ件数) n= 153 期間:R4.4-R4.11

疾患相談	対応相談				受診相談	問い合わせ	その他	コロナ 関連
	有り	接し方	生命危機	受診拒否				
51	23	15	2	9	105	39	6	0

対応内容(延べ件数) n= 153 期間:R4.4-R4.11

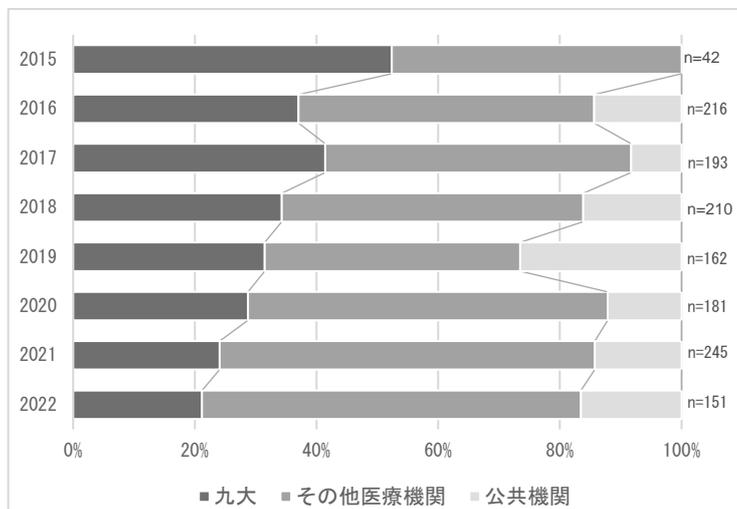
有り	紹介先				有り	情報提供				助言	問い合わせ 対応	その他
	拠点病院	協力病院	他の 医療機関	公共 機関		疾患 知識	治療 受診	資料	社会 資本			
88	32	48	46	25	95	50	79	4	2	89	64	1





案内先

	九大	その他医療機関	公共機関	計
2015	22	20	0	42
2016	80	105	31	216
2017	80	97	16	193
2018	72	104	34	210
2019	51	68	43	162
2020	52	107	22	181
2021	59	151	35	245
2022 (4-11月)	32	94	25	151
総計	448	746	206	1400



5. 治療支援

治療体制・計画

- ・心療内科医師 5 名。
- ・身体的に重篤な患者に関して (BMI < 12kg/m²) は九州大学病院心療内科などの内科系の医療機関の受診を促し、衝動性の強いパーソナリティ障害が疑われるような症例は、精神科系の医療機関への受診を促す。
- ・病状に応じて患者を診療できるような医療機関の連携体制を構築するために、医療機関向けに研修を行い、患者を診療できる医療機関をさらに増やす。
- ・九州大学病院精神科・子どものこころの診療部との連携を図る。
- ・医療連携に関する調査を行う。

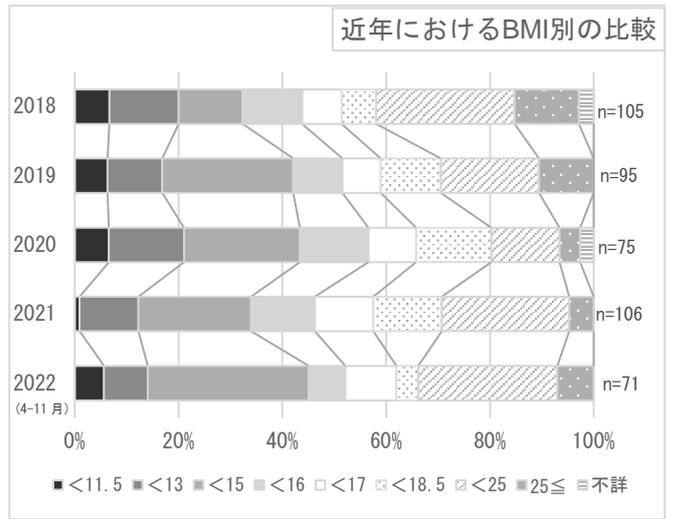
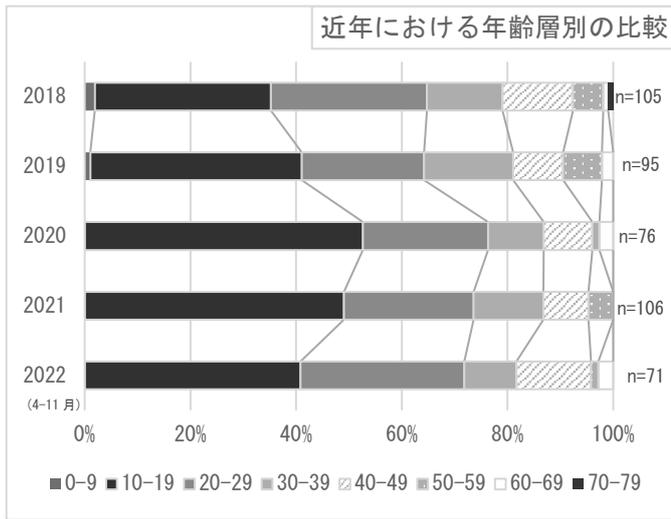
治療支援実施結果

- ・ 10代の受診患者の割合は多い傾向にあるが、2020年がピークであった。
- ・ 九州大学病院子どものこころの診療部と連携会議を行い、情報交換を行なった。その場で、「コロナ禍の子どものこころの実態調査」協力依頼があり、その後データを提出。子どもの心の診療事業ネットワークでプレスリリースされた。
- ・ 医療連携に関する調査を実施中である。第1段階として実施したウェブアンケートでは、回収率は32.5%であった。「県内の医療連携が進めば、摂食障害の診療を行うことは可能」と答えたところが半数に上った。第2段階は2月にリーフレット送付に同封し実施予定である。

支援拠点設置病院

初診患者数 (R4.4-11) 71 人

初診患者数	71人							
性別	女性	男性						
	67人	4人						
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79
	0人	29人	22人	7人	10人	1人	2人	0人
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID	UFED	その他
	25人	16人	18人	3人	0人	6人	0人	0人
外来/入院	外来のみ	入院のみ	両方					
	61人	0人	10人					
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≦
	4人	6人	22人	3人	7人	3人	19人	5人
治療状態	治療中	治療中断	治療終了	紹介	死亡			
	55人	15人	0人	0人	1人			
治療期間平均	3.9ヶ月							



九州大学病院精神科・子どものこころの診療部との連携について

2022年3月	子どものこころの診療部と打ち合わせ ・現状報告、治療法の確認、院内紹介手順について ・ガイドラインの提供 ・「コロナ禍の子どものこころの実態調査」協力依頼 ・福岡県障がい福祉課への報告について	
2022年4月	「コロナ禍の子どものこころの実態調査」 調査提出依頼	
2022年5月	データ提出	
2022年11月	国立成育医療研究センター 子どもの心の診療ネットワーク事業 でプレスリリース	
2022年6月	九州児童懇話会での講演依頼、9月に実施	

医療連携に関するアンケート調査

【目的】 県内の摂食障害診療の状況や医療連携について把握する

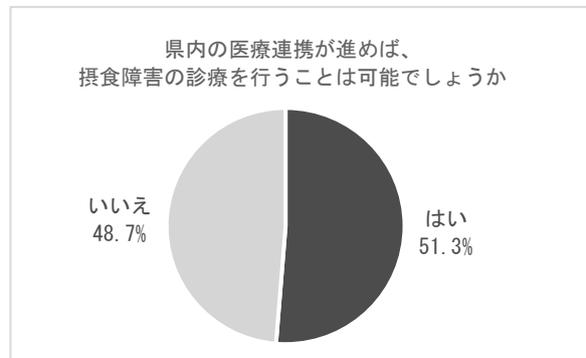
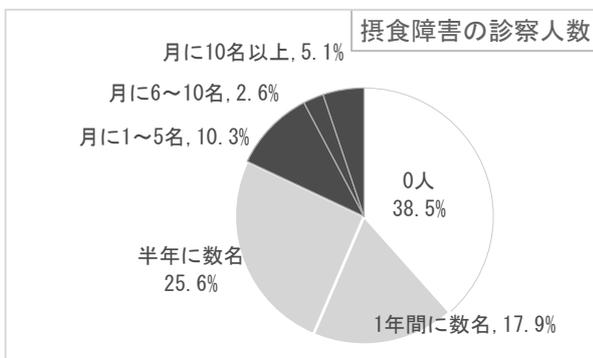
【対象】 福岡県内の精神科、心療内科、小児科を有する医療機関

【方法】

1. メールでウェブアンケートを送付。12月実施。
2. アンケート用紙を郵送、回答はウェブ、郵送、FAXの方法から選択いただき回収。2月実施予定。

【結果】

- ・方法1：12月に実施。精神科を有する医療機関117施設に送付。回答数39（回収率32.5%）



6. 研修

研修体制・計画

- ・出張講習、研修会を開催する。
- ・医療関係者向け研修会は動画作成し、配信する。
- ・摂食障害の理解促進を図るため、学校関係者向け研修会を実施する。

研修実施結果

- ・看護部長向けの研修会は、テーマが好評であったため一般の看護師からも希望があり参加があった。
- ・子どものこころの診療部より依頼を受け、児童・思春期医療に携わる方が対象に研修会を行った。
- ・学校関係者向けに研修会をオンラインで開催し、募集人数を上回る申し込みがあった。アンケートでは様々な声が聞け、関心の高さが伺えた。
- ・学校関係者からは、上記主催した研修会とは別に、養護教諭と栄養教諭の団体から研修会の申し込みがあり、R5年2月に実施予定である。
- ・福岡県内の医療機関を特定しない医療関係者対象の研修会では、周知は県を通じて医師会から案内を行った。これまでに接点のなかった医療機関や他職種の方からの申し込みがあった。
- ・出張講習は医療機関に出向いて実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響のため延期となっている。

講習会、研修会、ミーティング等

開催日	種別	対象者	研修内容	実施場所	参加人数	理解度
R4.5.30	研修会	筑後地区精神科病院 看護部長及び職員	筑後地区看護部長会一般研修会 「摂食障害について」	オンライン	30	
R4.9.3	研修会	児童・思春期医療に 関わる医師・心理士	九州児童講和会 「摂食障害」	オンライン	20	
R4.12.20	研修会	学校関係者	学校関係者向け摂食障害研修会 「摂食障害を疑う時には」	オンライン/ オンデマンド	160	
R5.1.20	出張講習	医療関係者	医療関係者のための摂食障害研修会 第1回「摂食障害の病態」	オンライン	57	90.6%
R5.2.17	出張講習	医療関係者	医療関係者のための摂食障害研修会 第2回「摂食障害の初期治療」	オンライン	42	92.5%
R5.2.20	研修会	養護教諭	令和4年度福岡県高等学校養護教諭 研究会 筑後支部第3回研修会 「摂食障害を疑う時には」	広川町産業 展示会館	37	
R5.2.24	研修会	栄養教諭	令和4年度北筑後学校給食会連合会 実践交流会 「摂食障害の理解と対応」	オンライン	71	
R5.3.24 予定	出張講習	医療関係者	医療関係者のための摂食障害研修会 第3回「摂食障害治療の実際」	オンライン	-	-
延期	出張講習	医療関係者	「摂食障害 概論/症例編」	新門司病院		



学校関係者向け研修会アンケート結果

【回答】74（回収率 74%、2022 年 12 月末現在）

【結果】具体的な意見（抜粋）

- ・学校健診における成長曲線の活用の重要性を改めて認識することができた。
- ・医療に繋げるタイミングが参考になった。
- ・学校が行う段階が分かりやすかった。
- ・生徒を見る角度や声かけの仕方を学べた。
- ・事例を学べたことは、今後に生かせると思う。
- ・摂食障害の理解が深まった。

7. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

- ・ホームページを改訂する。
- ・研修会案内などはホームページを随時更新する。
- ・インターネット（関連機関 HP との連携や SNS）を利用した情報発信を促進する。
- ・摂食障害への理解促進を図るため、県民向け公開講座を実施する。
- ・「回避・制限性食物摂取症（ARFID）」リーフレットを保健福祉（環境）事務所、精神保健福祉センターや学校保健担当者、小児科を有する医療機関に配布する。
- ・精神科を有する医療機関に利用案内、回避・制限性食物摂取症（ARFID）リーフレットを配布する。
- ・各種リーフレットをスポーツ関連団体に配布する。

普及啓発活動実施結果

- ・ホームページの大幅な改訂に着手している。ホームページ上に相談フォームを作る予定で、必要最低限の情報を得ることができ、また相談者にもメール相談をより気軽に活用していただけることを期待している。
- ・インターネットのアクセス数は依然多く、また相談のきっかけはインターネットが最も多いことから、情報発信として重要である。
- ・各種リーフレットをスポーツ関連団体に送付した。今のところ反響はないが、多くの方に知っていただく機会となったと考えられる。
- ・リーフレット配布にあたり、保健所や小児科に配布漏れがあったため、今回新たに配布することとなった。

講演会

開催日	種別	対象者	参加数	内容	実施場所
R5.3.11	公開講座	一般	-	摂食障害ってどんな病気？	オンライン (ZOOM)

メディア関係

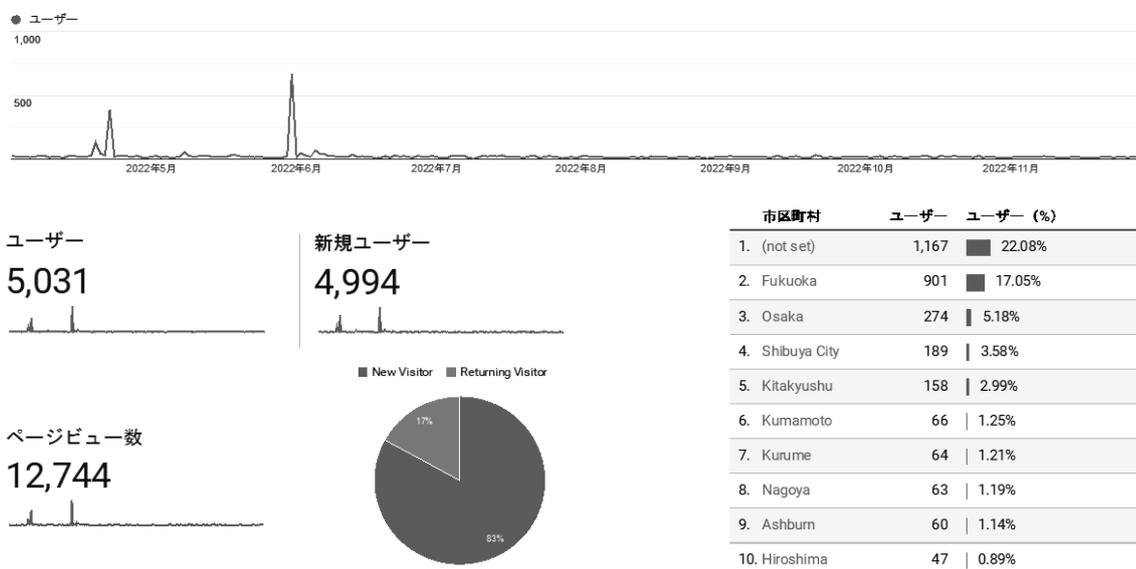
開催日（発行日、オンエア）	メディア	内容
R4. 4. 18 発行	西日本新聞	9 面：医療いのち「摂食障害 進む低年齢化」
R5. 2. 18 発行	読売新聞	14 面：医療ルネサンス 摂食障害「行動制限 自身と向き合う」

出版物

■ 雑誌

- 高倉修. COVID-19 パンデミックの摂食障害患者に対する影響～九州大学心療内科の新患患者から見てきたもの～. 外来小児科 25(4)：471-47, 2022

ホームページ閲覧回数（2022.4-11）



リーフレット

● 配布

配布日	配布先	配布物
R4.4.21	九州大学 キャンパスライフ・ 健康支援センター	・「福岡県摂食障害支援センター」リーフレット ・利用案内リーフレット ・「ご存知ですか？摂食障害」リーフレット ・「過食性障害（むちゃ食い障害）」リーフレット ・相談案内カード 各 40 部
R4.5.9	北九州市立八幡病院	・利用案内リーフレット 各 20 部 ・「ご存知ですか？摂食障害」リーフレット ・「摂食障害ってどんな病気？」リーフレット ・相談案内カード

R4.11.2	福岡県スポーツ協会 加盟団体・準加盟団体 92 施設	・利用案内リーフレット 各 5 部 ・「ご存知ですか？摂食障害」リーフレット ・相談案内カード
R4.11.10	各保健福祉（環境）事務所及び 福岡県精神保健福祉センター	・「回避・制限性食物摂取症（ARFID）」リーフレット 各 30 部
R4.11.10	私立小学校 9 校 公立小学校（福岡市）152 校 公立小学校（北九州市）135 校	・「回避・制限性食物摂取症（ARFID）」リーフレット 各 5 部
R4.12.1	公立小学校（福岡県）523 施設	
R4.11.18	・福岡市 8 施設 精神保健福祉センター、 各区保健福祉センター ・北九州市 2 施設 精神保健福祉センター、 総合保健センター ・久留米市 6 施設 保健所、各保健センター	・利用案内リーフレット 各 30 部 ・「ご存知ですか？摂食障害」リーフレット ・「摂食障害ってどんな病気？」リーフレット ・「過食性障害（むちゃ食い障害）」リーフレット ・「回避・制限性食物摂取症（ARFID）」リーフレット ・相談案内カード
R4.11.18	・精神科 117 施設	・「回避・制限性食物摂取症（ARFID）」リーフレット 各 3 部
R5.2.2	・精神科・心療内科 258 施設	
R5.2.2	・小児科 480 施設	・「回避・制限性食物摂取症（ARFID）」リーフレット 各 5 部
R5.2.2	・精神科・心療内科 3 施設	・利用案内リーフレット 各 5 部 ・「ご存知ですか？摂食障害」リーフレット ・「摂食障害ってどんな病気？」リーフレット ・「過食性障害（むちゃ食い障害）」リーフレット ・「回避・制限性食物摂取症（ARFID）」リーフレット ・相談案内カード
R5.2.2	・小児科 250 施設	・利用案内リーフレット 各 5 部 ・「ご存知ですか？摂食障害」リーフレット ・「摂食障害ってどんな病気？」リーフレット ・「回避・制限性食物摂取症（ARFID）」リーフレット ・相談案内カード

8. 行政機関との連携

研修体制・計画

- ・摂食障害への理解促進を図るため、学校関係者向け研修会 2 回、県民向け公開講座を 1 回実施する
- ・研修案内は県の関連部署に依頼し、案内周知に協力を得る。
- ・ARFIDリーフレットを保健福祉（環境）事務所、精神保健福祉センターや小学校の保健担当者に配布する。
- ・各種リーフレットをスポーツ関連団体に配布する

研修実施結果

- ・学校関係者向けの研修会では、今年度も県担当者から福岡県、福岡市、北九州市、私学の教育担当部署に依頼して案内を行なった。
- ・リーフレット配布に伴い、各窓口の担当部署が明確化された。
- ・保健所や小児科に配布漏れがあったことが発覚し、今回新たに配布することとなった。県担当者と配布の流れ、連絡窓口などの確認を行なった。
- ・医療関係者向け研修会の案内周知については、周知方法を見直し、医師会を通じてメールで案内した。これまで繋がりのなかった医療機関や他職種の方からの申し込みが見られた。

連携会議等

開催日	対象	内容	実施場所
R4.7.28	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・顔合わせ ・今年度計画について ・研修会について ・リーフレット送付について ・医療連携に関する調査について ・子どものこころの診療部との連携について 	福岡県庁 こころの健康 づくり推進室
R4.5.23		第 1 回福岡県摂食障害対策推進校議会について	(電話・メール)
R4.6.17	厚生労働省	視察訪問・意見交換会	九州大学病院
R4.7-10	事務局	リーフレット配布方法について <ul style="list-style-type: none"> ・学校関連部署（北九州市）の担当窓口 ・保健所関連部署（福岡市、北九州市、久留米市）の担当窓口 	(電話)
R4.10		医療連携に関する調査について	(電話・メール)
R4.11-12		研修会案内について	(電話・メール)
R4.11	県教育庁 体育スポーツ課	公立学校へのリーフレット配布について	(電話・メール)

9. その他の活動

実施体制・計画

- 福岡県の指標
 - ① 支援拠点病院への相談件数（相談者の属性・相談内容・相談方法別）
 - ② 支援拠点病院における患者数：性・年齢別、疾病の属性別、外来・入院別
 - ③ 支援拠点病院における治療期間（治療終了、治療中、治療中断別）
 - 治療中の患者の 2023 年 3 月 31 日までの平均治療期間
 - 治療中断した患者の平均治療期間
 - 治療終了した患者の平均治療期間
 - ④ 支援拠点病院における受診後の患者の経過
 - 定期通院をしている患者の割合
 - 1 回の受診のみの患者の割合
 - 他院へ紹介した患者の割合
 - 中断した患者の割合
 - ⑤ 研修した医療機関受講者数
 - 医療機関における受講者数・理解度
- 全国支援センターより依頼の活動

実施結果

- ① 「4.相談支援」参照。
- ② ③ ④
 - ・支援拠点病院から九大病院へ紹介し受診に至った患者の割合は減少傾向にある。
- ⑤ 「6.研修」参照。

拠点病院相談室から九州大学病院を案内し、実際に受診した患者数 （2022/4～11） 11 名

性別		疾患別	
女性	10 名	AN-R	5 名
男性	1 名	AN-BP	3 名
		BN	2 名
		ARFID	1 名
年齢別		外来・入院別	
10-19 歳	3 名	外来	9 名
20-29 歳	1 名	入院のみ	0 名
30-39 歳	3 名	外来・入院	2 名
40-49 歳	4 名		
50-59 歳	0 名		

BMI

< 11.5	< 13	< 15	< 16	< 17	< 18.5	< 25	25 ≤
0名	4名	0名	0名	4名	0名	2名	1名

治療状態

治療状態	患者数	割合	平均治療期間	標準偏差	最小	最大
治療中	7名	63.6%	174.9日	59.8	87日	240日
治療中断	4名	36.4%	105.5日	49.1	33日	163日
他院へ紹介	0名	-%	-日	-	-日	-日
(1回のみ受診)	0名	-%	-	-	-	-
計	11名	-	149.6日	65.3	33日	240日

拠点病院相談室から九大病院へ案内し、受診した患者数と割合の推移

	九大初診患者数	拠点病院に相談した患者数	拠点病院が案内に関わった割合
2015年度 (2016/1-3)	35名	10名	28.6%
2016年度	128名	33名	25.8%
2017年度	148名	34名	23.0%
2018年度	105名	35名	33.3%
2019年度	95名	31名	32.6%
2020年度	75名	16名	21.3%
2021年度	106名	28名	26.4%
2022年度 (2022/4-11)	71名	11名	15.5%

全国支援センターより依頼の活動

開催日	種別	内容	実施場所
R4.6.5	イベント	世界摂食障害アクションデイ2022 ; 総合討論	オンライン
R4.8.29	研修会	令和4年度摂食障がいへの治療支援に関する研修会 「摂食障害患者の地域連携～学校-医療の連携事例～」	オンライン
R4.9.26	研修会	摂食障害治療支援コーディネーター研修会 「コーディネーターの業務内容」	オンライン
R5.1.17	研修会	摂食障害入院治療研修-入院治療の留意点とコツ-第1回 ; 質疑応答	金沢大学附属病院

10. 考察

相談支援：相談者の推移から、事業が早期発見・早期治療に寄与している可能性が考えられた。新規相談者の割合の増加は、学校や一般市民、医療機関への啓発活動が、潜在患者の掘り起こしに寄与している可能性が考えられた。10代の若年者の相談者の割合増加は2020年がピークで減少傾向にあり、COVID-19パンデミックに対する措置の緩和などが影響している可能性があり、精査が必要である。

助言指導：引き続き、拠点病院への相談者の九州大学病院へ案内割合は減少している。背景には、県内の医療連携の充実が考えられ、引き続きの助言指導の重要性が示唆された。今年度も医療機関を特定しない研修会を行い、県内の医療機関に加え、九州大学病院内の医療者にも研修を行うことが出来た。また、子どものこころの診療部とは、発達障害を抱える若い患者に関する連携などが進んでいる。本年度より、県内の精神科系医療機関に対する連携調査を開始し、回答医療機関の約半数が今後の連携が可能であるという回答を得た。今後は、精神科のみならず他の診療科を含めた調査を行う予定である。

普及啓発：早期発見・早期治療へ患者を導くにはゲートキーパーとしての学校関係者との連携が重要と考えられた。本年度も100名以上の学校関係者の参加が得られ、その関心の高さが窺えた。拠点病院への相談者において、どの医療機関へも受診したことのない患者の割合は増加傾向にあり、こうした普及啓発活動が挙している可能性が考えられた。引き続き、普及啓発活動を行い、摂食障害患者の早期発見・早期治療促し、県内・院内の医療連携を強化していく。

7. 石川県摂食障害支援拠点病院活動報告書

令和 4 年度

石川県摂食障害支援拠点病院

Ishikawa Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和4年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

1. 基本情報

支援拠点病院名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
石川県摂食障害支援拠点病院	金沢大学附属病院 神経科精神科	920-8641	石川県金沢市宝町 13-1	076-265-2827

URL

石川県摂食障害支援拠点病院：<https://ishikawa-ed.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

摂食障害支援拠点病院職員

氏名	所属	役職
菊知 充	金沢大学附属病院 神経科精神科	教授
内藤 暢茂	金沢大学附属病院 神経科精神科	病院臨床教授
佐野 滋彦	金沢大学附属病院 神経科精神科	助教
水上 喜美子	金沢大学附属病院 神経科精神科	助教
廣澤 徹	金沢大学附属病院 子どものこころの診療科	准教授

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
堂本 彩未	公認心理師 臨床心理士
長江 巴那子	公認心理師 臨床心理士
多田 浩昌	公認心理師 臨床心理士

2. 要旨

石川県摂食障害支援拠点病院は金沢大学附属病院神経科精神科に設置され令和4年10月3日より活動を開始した。摂食障害の当事者や家族、関係者への電話相談事業、摂食障害にかかる地域医療ネットワークの構築、県民や関連機関に対する摂食障害の普及啓発を軸とした事業を展開し、石川県における摂食障害医療体制の充実を図る。

規定に則り有識者と当事者および当事者家族により構成される石川県摂食障害対策推進協議会を設置した。令和5年1月27日に第1回目の協議会を開催し、計画の策定、検証を行う予定である。

電話相談事業における相談者数は、広報活動の成果もあり他拠点病院と人口比で同水準となっている

る。まだ2ヶ月分のデータを集計したところであるが、他拠点病院同様の傾向がみられ、当事者の年齢層は10~20代で8割を占め、内容としては受診に関する相談が最多である。

地域への普及啓発については、令和4年12月9日に県内の高等学校養護教諭向けの研修会を企画・実施した。多数が参加し、学校現場での具体的な事例についての質問相談を受け、併存疾患がある場合の対応法などを学ぶ機会となった。その他、刑務所からも研修会の依頼があり、県内の関心は高い。また一般の人にもわかりやすい言葉とイラストを配置したリーフレットを作成し、関連施設に配布した。専用のwebサイトを作成しており、令和5年1月中に公開予定である。県や大学によるプレスリリース、各種新聞・テレビ局などのマスメディアへの取材対応も積極的に行い、広報活動に注力している。

地域医療ネットワークの構築は今後の課題であるが、全国センターや各拠点病院の支援により、単科精神科病院向けの入院治療研修を令和5年1月17日に実施する予定である。また一般科との連携については県医師会と協力して摂食障害に関する研修会を令和5年1月18日に実施する予定である。

金沢大学附属病院内では子どものこころの診療科と連携し、特に学童期における摂食障害の早期発見、早期介入に取り組んでいる。

今年度の報告は活動開始後の2か月分となるが、県民、関係機関、医療機関等から大きな反響があり、期待に応えるべく今後の活動につなげていきたい。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	内藤 暢茂	金沢大学附属病院神経科精神科 病院臨床教授	摂食障害治療を専門的に 行なっている医師
委員	佐野 滋彦	金沢大学附属病院神経科精神科 助教	
同上	水上 喜美子	金沢大学附属病院神経科精神科 助教	心理の専門職
同上	沼田 直子	石川県南加賀保健福祉センター 所長	保健所
同上	角田 雅彦	石川県こころの健康センター 所長	精神保健福祉センター
同上	居村 吉記	石川県教育委員会事務局保健体育課	教育関係者
同上	小泉 敏浩	石川県健康福祉部障害保健福祉課	県
同上	—	—	摂食障害患者
同上	—	—	摂食障害家族
同上	—	—	摂食障害家族
事務局			

摂食障害対策推進協議会

	開催日	議 題
第1回	令和5年 1月27日 (開催予定)	1. 令和4年度 摂食障害支援拠点病院設置事業効果について 2. 令和5年度 摂食障害支援拠点病院事業計画について 3. 現状における問題点の抽出 当事者および家族からの要望等について

4. 相談支援

相談体制

- ・コーディネーター（公認心理師）3名による電話での相談を実施する。
- ・窓口開設時間：9時～15時（月・水・金曜日）
- ・摂食障害救急対応マニュアルに従い、医療機関の紹介を行う。
- ・精神保健福祉センター、保健福祉（環境）事務所、学校等との連携をこれまで以上に強化する。

相談支援結果

- ・開設から2か月間で、新規相談件数は35件だった。
- ・患者の年齢は10代から20代が7割以上を占める。
- ・摂食障害で医療機関を受診中の患者からの相談が最も多かった。
- ・相談の内容は受診に関する相談が最も多く、対応の内容も受診先に関する情報提供が多かった。

相談件数 期間:R4.10-R4.11

新規相談件数	延べ相談件数
35	40

地域(新規件数)n= 35 冊:R4.10-R4.11

県内	県外	不明	計
23	8	4	35

相談者(新規件数)n= 35 期間:R4.10-R4.11

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
10	4	16	1	2	0	2	0	0	0	35

相談対象患者の年齢(新規件数)n= 35 平均年齢: 24.8 SD= 11.2 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	不明	個別以外	計
0	10	14	3	1	2	0	0	3	2	35

相談対象患者の性別(新規件数)n= 35 冊:R4.10-R4.11

女性	男性	その他	不明	個別以外	計
30	2	0	1	2	35

相談対象患者状態(新規件数)n= 35 期間:R4.10-R4.11

やせ	食事制限	過食	代償行動					精神・行動症状					
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	その他
22	20	17	8	2	1	2	2	6	7	0	1	1	1

相談対象患者属性(新規件数)n= 35 期間:R4.10-R4.11

学生				社会人			その他	不明	個別以外	計
小	中	高	大/専	就業者	無職	主婦				
3	5	3	3	10	5	0	0	4	2	35

摂食障害での受診状況(新規件数)n= 35 期間:R4.10-R4.11

受診中	中断中	未受診	ED以外で受診中	その他	不明	個別以外	計
14	5	7	3	3	1	2	35

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ(新規件数)n= 35 期間:R4.10-R4.11

インターネット	紹介				メディア				ポスター・ちらし	その他	不明
	機関			その他・不明	テレビ	新聞	自治体・広報	その他・不明			
	医療	行政	教育								
8	1	0	1	1	4	3	0	0	0	1	16

相談経路(延べ件数)n= 40 期間:R4.10-R4.11

電話	メール	面談	計
40	0	0	40

相談内容(延べ件数) n= 40 期間:R4.10-R4.11

疾患相談	対応相談				受診相談	問い合わせ	その他	コロナ 関連
	有り	接し方	生命危機	受診拒否				
7	16	13	2	6	27	13	1	0

対応内容(延べ件数) n= 40 期間:R4.10-R4.11

有り	紹介先				有り	情報提供				助言	問い合わせ 対応	その他
	拠点病院	協力 病院	他の 医療機関	公共 機関		疾患 知識	治療 受診	資料	社会 資本			
19	11	3	10	1	31	10	28	1	3	20	10	2

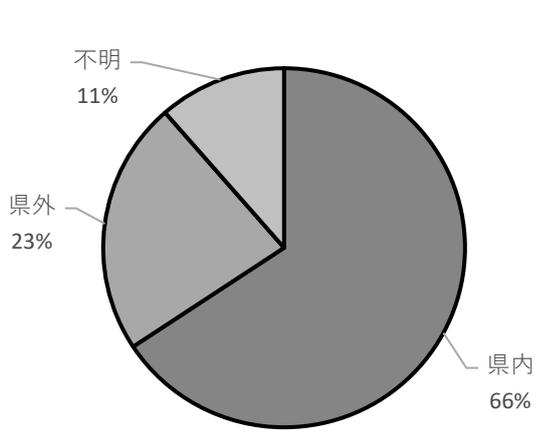


図4-1 当院の患者居住地

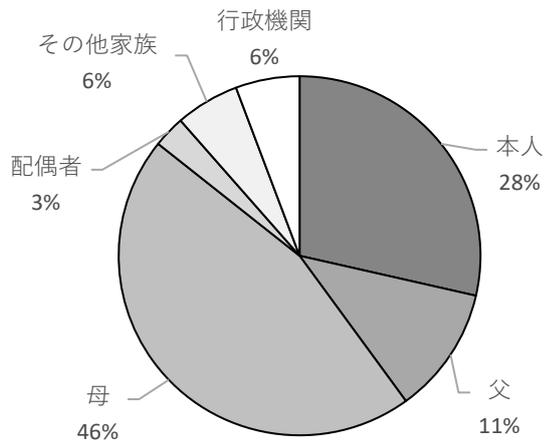


図4-2 当院の相談者

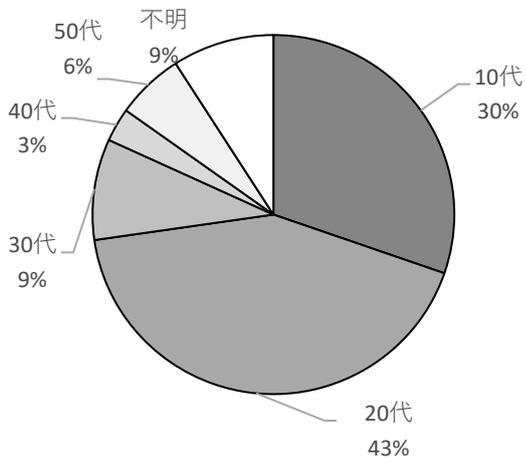


図4-3 当院の患者年齢

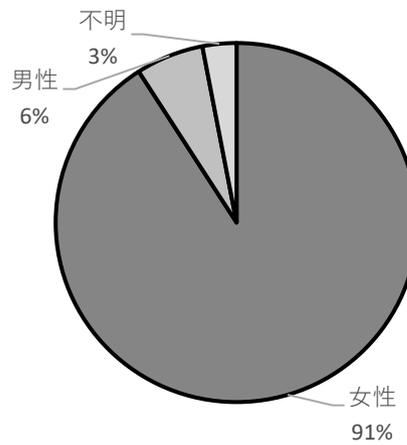


図4-4 当院の患者性別

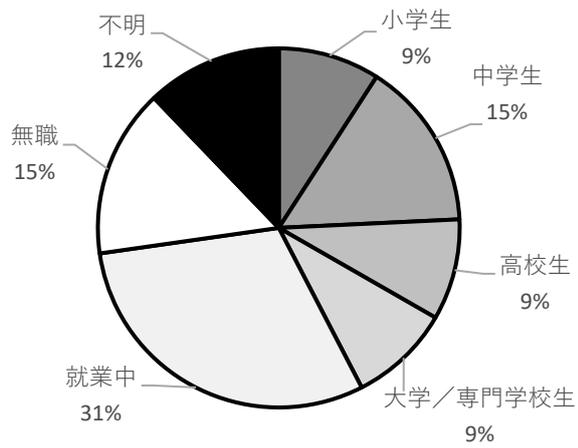


図4-5 当院の患者属性

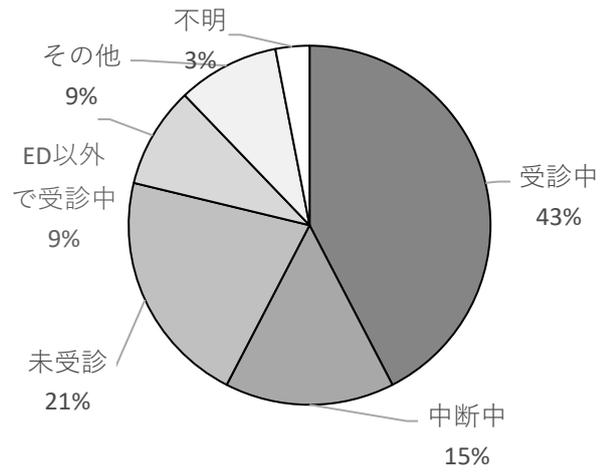


図4-6 当院の患者受診状況

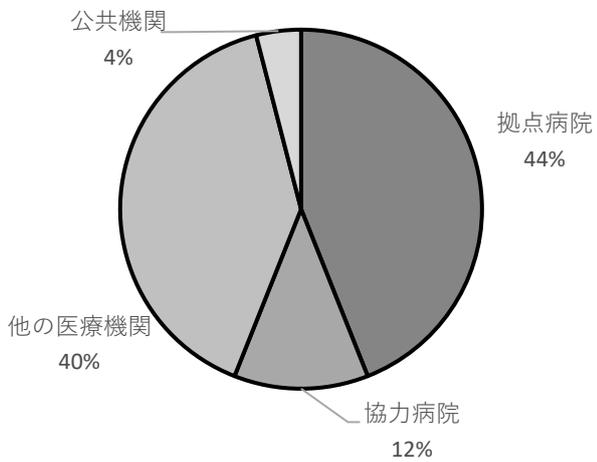


図4-7 紹介先内訳

5. 治療支援

治療体制・計画

- 大学病院精神科として、医師、看護師、心理士、精神科ソーシャルワーカー、管理栄養士など多職種が協働して治療にあたっている。
- 入院治療では指導医 1 名と後期研修医 1～2 名を 1 つの主治医チームとして、4 チームによる輪番主治医制をとっている。これにより後期研修医に満遍なく摂食障害の入院治療を経験させ、県内の摂食障害診療のレベルの底上げを計っている。
- 受診相談に対しては、患者の身体的な重症度（BMI を指標とする）や行動面の特徴を聴取した上で適切な受診先や入院の要否などをお伝えしている。
- 現時点では連携医療機関が単科精神科病院 1 か所のみで、この病院も身体的に重症な患者の受け入れはできないので、入院治療の受け入れ先は当院に集中している。今後は県内の医療機関に対し研修を行い、摂食障害患者を診療できる連携医療機関を増やしていく。
- 県内にある摂食障害患者の自助グループと連携し、相談者にこれを紹介している。

治療支援実施結果

- 当院は本年 10 月より摂食障害支援拠点病院に指定されたため、前年度以前の初診患者数は集計されていない。
- 指定の影響を評価するため、本年度の集計を指定前（4 月～9 月）と指定後（10 月～11 月）に分割した。
- 指定前後で比較を行うと、指定後の方が月あたりの初診患者数が多く、また 40 歳以上の高年齢層の初診が増加している。

初診患者数（2022/4-11） 20人

※当院は2022年10月1日より支援拠点病院として指定されたため、その前後で分けて記載する。

初診患者数								
4月-9月	13人							
10月-11月	7人							
性別	女性	男性						
4月-9月	12人	1人						
10月-11月	6人	1人						
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79
4月-9月	0人	6人	4人	3人	0人	0人	0人	0人
10月-11月	0人	2人	1人	1人	1人	2人	0人	0人
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID	UFED	その他
4月-9月	7人	2人	1人	0人	0人	2人	1人	0人
10月-11月	4人	2人	0人	0人	0人	1人	0人	0人
外来/入院	外来のみ	入院のみ	両方					
4月-9月	7人	0人	6人					
10月-11月	2人	0人	5人					
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≤
4月-9月	0人	2人	7人	1人	2人	0人	1人	0人
10月-11月	1人	5人	1人	0人	0人	0人	0人	0人
治療状態	治療中	治療中断	治療終了	紹介				
4月-9月	7人	2人	1人	3人				
10月-11月	6人	1人	0人	0人				

6. 研修

研修体制・計画

- ・現時点では受講側から依頼のあった研修会、講演会を実施することが主で、計画的な研修は実施できていない。
- ・今後は県内の医療関係者を対象とし、拠点病院からの提案で、摂食障害の研修会を行なっていく。まずは入院治療で連携できる病院を増やすことを目的として、精神科の入院治療が可能な病院を主な対象としていく。

研修実施結果

- ・下記のごとく、現時点で3件の研修会を実施済み or 実施予定としている。
- ・養護教諭向けの研修会を実施後、研修に参加した受講者から電話相談があった。研修活動が相談につながった。

講習会、研修会、ミーティング等

開催日	種別	対象者	研修内容	実施場所	参加人数
2022/12/8	研修会	養護教諭 (高校)	摂食障害はどんな病気？－医療と学校のよりよい連携に向けて－	石川県地場産業振興センター 対面	約100名
2022/1/18	研修会	医療関係者	「依存症等対応力向上研修会」 摂食障害の治療と関わり方	石川県医師会館 ハイブリッド形式	約90名
2023/1/31 予定	研修会	保健師	摂食障害治療の理解と支援について	駅西健康センター ハイブリッド形式	約20-30 名

7. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

- ・石川県摂食障害支援拠点病院（以下、拠点病院）の Web サイトを作成する。
- ・インターネット（関連機関の Web サイトとの連携）を利用した情報発信を促進する。
- ・摂食障害への理解促進を図るため、講演の依頼があれば引き受けていく。
- ・拠点病院のリーフレットを作成する。
- ・リーフレットを保健福祉事務所、精神保健福祉センターや石川県管轄の保健担当者、大学、専門学校、高校、中学校、小学校に配布する。
- ・各種リーフレットを県内の精神科、小児科、婦人科に配布する。

普及啓発活動実施結果

- ・拠点病院の Web サイトが完成し、2023 年 1 月 28 日に公開された。
URL : <https://ishikawa-ed.w3.kanazawa-u.ac.jp/>
- ・今年度は、メディアからの取材依頼が多く、メディアを通して、相談のきっかけにつながるが多かった。
- ・拠点病院のリーフレットが完成し、計画の通りに配布された。

講演会

開催日	種別	対象者	研修内容	実施場所	参加人数
2023/1/31 予定	講演会	医療関係者	Psychiatry Web Symposium～地域で取り組む摂食障害治療～	金沢市本町1丁目5番2号リファーレ8階大会議室 ハイブリッド形式	約30名

メディア関係

開催日 (発行日、オンエア)	メディア	内容
2022/6/5 発行	読売新聞 北陸版	ワイドリポート「摂食障害支援の動き」
2022/9/30 発行	北陸中日新聞	「国の摂食障害支援拠点 金大病院を指定」
2022/9/30 発行	北國新聞	「国の摂食障害支援拠点 金大病院を指定」
2022/9/30	NHK 金沢	金沢大学附属病院が摂食消退の支援拠点病院に指定」
開催日 (発行日、オンエア)	メディア	内容
2022/10/3	北陸朝日放送	摂食障害の拠点に金大附属病院
2022/10/4	北陸朝日放送	摂食障害支援拠点病院について
2022/11/4	石川テレビ	摂食障害支援拠点病院について
2022/11/30 発行	日本経済新聞	「金沢大病院、摂食障害支援拠点病院に 電話相談も」
2023/1/3	NHK 金沢	摂食障害「支援拠点」金沢大学附属病院で相談に対応
2023/1 月末頃	読売新聞 全国版	医療掲載「医療ルネサンス」 ANへの行動制限療法（入院）

リーフレット

「石川県摂食障害支援拠点病院」リーフレットを下記の配布先に、10部ずつ配布した。

配布日	配布先
2022/12	各保健福祉センター 4施設

2022/12	大学・短期大学 21 校
2022/12	専修学校・各種学校 13 校
2022/12	小児科を有する医療機関 126 施設
2022/12	婦人科を有する医療機関 75 施設
2022/12	精神科を有する医療機関 15 施設
2022/12	県管轄の学校 58 校（高校・特別支援学校など）
2022/12	市町村管轄の学校 287 校（小学校・中学校など）
2022/12	国立・私立学校 12 校
2022/12	市町村教育委員会・教育事務所 24 ヶ所
2022/12	市町村福祉課・健康課 19 ヶ所

8. 行政機関との連携

研修体制・計画

- ・センター利用案内リーフレットを保健福祉事務所、精神保健福祉センターや石川県管轄の保健担当者、大学、高校、中学校、小学校に配布する。
- ・各種リーフレットを県内の婦人科、小児科に配布する

研修実施結果

- ・県管轄の施設にリーフレットを配布予定で、石川県障害福祉課に協力を依頼した。
- ・婦人科、小児科へのリーフレット配布については、対象の選定、送付方法などを相談し協力を仰ぎ、配布の方向となった。

連携会議等

開催日	対象	内容	実施場所
2022/12/2	事務局	・摂食障害支援拠点病院の相談室視察	金沢大学附属病院
2023/1/27 予定		<ul style="list-style-type: none"> ・顔合わせ ・第1回石川県摂食障害対策推進協議会について ・今年度計画について ・研修について ・リーフレット送付 ・家族会、自助グループについて 	金沢大学附属病院 多目的室

9. その他の活動

実施体制・計画

- ・上記 3.から 9.に記載したもの以外の活動は、現時点では実施していない。
- ・今後、以下のような活動を計画している。

家族心理教室の開催

患者家族（両親のみならず、きょうだい等も対象とする）への支援体制構築

外部機関と連携した事例検討会の実施

外部医療機関を対象とした、治療困難事例に対するのスーパーヴィジョン

10. 考察

石川県摂食障害支援拠点病院は、5年ぶりの新規の摂食障害支援拠点病院として令和4年10月1日より金沢大学附属病院にて活動を開始した。全国支援センターおよび各拠点病院に手厚いご協力をいただけたことで、順調に業務を開始・継続できている。行政機関との連携も良好であり、また報道での注目も集め、その結果として2ヶ月の活動期間で複数の研修・講演依頼を受けることができている。今後も地域の摂食障害治療の質の向上に寄与するための活動を継続・拡充していくことが求められる。

喫緊の課題は、石川県内の摂食障害治療体制の拡充である。石川県の医療の特徴として①入院治療のできる心療内科がない、②身体管理に長けた単科精神科病院がない、③有床総合病院精神科は複数あるがいずれも極めて多忙で慢性的にマンパワーが不足している、④小児科の摂食障害患者受け入れが減少傾向である、などの問題が重なっており、摂食障害の入院治療を積極的に引き受けられる病院が実質的に2つの大学病院のみとなってしまう。また外来治療においても、摂食障害の治療経験が乏しいことや入院治療に移行できないことを理由に応需できない or 応需するも治療に難渋されている医療機関が多いという印象を受ける。相談支援の集計データにおいて、患者受診状況で「医療機関を受診中」、紹介先で「拠点病院」の割合がそれぞれ大きくなっているのは、こうした現状を反映している部分があると考えられる。

治療支援の集計データにおいて、拠点病院の初診患者数が10月以降増加し、患者の年齢層も広がっている。拠点病院の活動開始により県内における摂食障害の潜在的な治療需要を喚起できている可能性が示唆される変化で、これ自体は喜ばしいことである。しかし、需要の受け皿となれる医療機関が増加しないことには、需要の増加＝初診待機患者の増加となってしまう危険性があり、それを避けるためにも治療体制を拡充していく必要がある。その方法として、医療機関向けの治療研修を精力的に行い連携可能な医療機関を増加させていくことに加え、大学病院内においても摂食障害を診療できる医師・医療スタッフの育成に注力していく。

8. 令和4年度の活動成果と課題、提言

令和4年度

8. 令和4年度の活動成果と課題、提言

摂食障害全国支援センター長 関口敦

はじめに

我が国における、摂食障害の医療体制の問題点は患者の相談・治療・支援につながる窓口が明確でないこと、専門的治療に至る経路が確立していないこと、専門的治療や支援の受け皿が少ないことである。平成26年度から厚生労働省による摂食障害治療支援センター設置運営事業がスタートした。本事業は我が国の摂食障害患者およびその医療・支援の現状を改善する契機になることが期待される。

I. 摂食障害治療支援センター設置運営事業の概要

摂食障害支援拠点病院は精神科、心療内科、小児科外来を有する救急医療体制が整備された総合病院に設置され、その役割は、①摂食障害に関する専門的な相談支援、②急性期における摂食障害患者への適切な対応、③医療機関等への助言・指導、④関係機関等との連携・調整、⑤摂食障害患者やその家族、地域住民等への普及啓発活動とされている。支援拠点病院を統括する全国拠点機関〔摂食障害全国支援センター（全国支援センター）〕の役割は、①全国摂食障害対策連絡協議会（協議会）開催、②支援拠点病院との連携、③情報ウェブサイトの運営、④相談事例の収集と解析、⑤研究や研修の実施である。

II. 令和4年度までの事業の経過

平成27年2月5日に摂食障害全国基幹センターが国立精神・神経医療研究センター（NCNP）に指定された。平成27年度は10月1日に宮城県（東北大学病院心療内科）に、10月21日に静岡県（浜松医科大学医学部附属病院精神科神経科）に、12月24日に福岡県（九州大学病院心療内科）に摂食障害治療支援センターが指定され、全国基幹センターと3箇所の治療支援センターでの活動が開始された。平成29年10月19日には千葉県摂食障害治療支援センター（国立国際医療研究センター国府台病院心療内科）が開設され治療支援センターは4カ所になった。平成29年度末には、平成26年度から29年度までのモデル事業の取り組みをまとめて報告書を作成した。平成30年度からの第7次医療計画では、向こう5年以内に摂食障害の都道府県拠点機能を担う医療機関（拠点病院）を明記することが定められ、本事業の取り組みが参考にされることと記載された。モデル事業としては平成29年度で終了した。平成30年度からは、全国基幹センターはNCNPへの継続的な指定が決まり、治療支援センターは、地方自治体向け事業として継続されることとなった。

令和3年に、てんかん地域診療連携体制整備事業と名称を合わせることとなり、「摂食障害全国基幹センター」は「摂食障害全国支援センター」へ、「摂食障害治療支援センター」は「摂食障害支援拠点病院」へ名称を変えた。また、初代センター長の安藤哲也の退官に伴い、2代目のセンター長に関口敦が就任し、井野敬子を副センター長に指名した。本事業のミッションとして、新たな支援拠点病院の指定、摂食障害入院医療管理加算が算定できる病院の増加が課された。支援拠点病院新規指定を目指した設置準備研修会や、摂食障害治療・支援者のすそ野を広げるとともに摂食障害専門治療施設の支援を目指して、外来/入院治療者向けの研修会を開催した。これら事業を続ける中で、令和4年10月1日に金沢大学大学附属病院神経科精神科が石川県摂食障害支援拠点病院に、5年ぶり5カ所目、北陸地方で初の支援拠点病院として指定された。指定後の支援に関して、既存の支援拠点病院の協力を得てコーディネーター研修会や入

院治療研修を開催するなど、新規指定後の全国支援センターの支援方略も明確できた。

普及啓発活動として、一般社団法人日本摂食障害協会とダブル主催で『世界摂食障害アクションデイ』を令和3年より例年企画として開催している。また、国立国際医療研究センター国府台病院心療内科に委託して、全国を対象とした電話相談事業、摂食障害『相談ほっとライン』を運営している。開設当初より増枠しているが、電話がつながりにくい状況が続いており、相談ニーズの上限はまだ見えてこない。

Ⅲ. 事業の成果、課題、提言

1. 事業の成果

1-1. 新規支援拠点病院の指定

- 金沢大学大学附属病院神経科精神科が石川県摂食障害支援拠点病院に、5年ぶり5カ所目、北陸地方で初の支援拠点病院として指定された。指定前より、長年の静岡県支援拠点病院のご尽力により金沢大学では静岡方式の診療体制の構築が進んでいた背景があり、支援拠点病院としての診療体制は非常にスムーズに整備で来ている。
- 指定後のコーディネーター研修会や入院治療研修会など、全国支援センターによる新規指定後のサポート体制の方略も確立できた。
- 一方で、指定に至る経緯での金沢大学における自治体関係者との折衝など、大いに参考にできる戦略を学ぶことができた。新たに指定を目指す医療機関/自治体に広めていく好事例が得られた。

1-2. 診療施設リストの公開

- 医療者や当事者からの要望が強かった、診療施設リストを Web 公開することができた。診療施設リストには、診療可能な年齢、BMI、入院の可否などの情報を付与し、医療者や当事者が紹介先や受信先を選択するために実用的な情報を付加することができている。冊子版のリストも作成し精神保健福祉センターに配布しており、当事業の支援拠点病院以外の相談窓口としての活用されることが期待される。
- 掲載医療機関に患者が集中することの懸念により一般公開が難しいとされていたが、掲載を同意いただけた施設に限定した公開にたどり着いた。現状、掲載医療施設は 100 施設ほどに留まり、地域によってはほとんど掲載施設がないケースもあることから、医療者や当事者のニーズに充分応えきれていない状況である。しかし、摂食障害診療体制の現状を表す資料としても価値があると考えている。
- 掲載の意向調査から 1 年間後の再確認の段階で、既に 5%ほどの施設が摂食障害診療を取りやめているため掲載を辞退するの回答があり、摂食障害診療体制の脆弱さも垣間見えた。一方で、診療施設リスト公開後に、複数の医療機関から追加掲載を希望する声も寄せられている。Web 公開版の診療施設リストは更新が容易であり、今後もリストの拡充が期待される。

1-3. 相談事業の拡充

- 令和 4 年 1 月に国府台病院に委託して開設した「相談ほっとライン」の開設日は、週 2 日から、週 3 日（令和 4 年 4 月～）、週 4 日（令和 5 年 1 月～）と増枠を続けている。増枠をすれども電話は鳴りやまず、なかなかつながらないとの声が絶えないことから、相談ニーズの天井は見えていない状況である。
- 全国からの電話相談は、ほぼ人口比に応じた件数が寄せられている。総量として大都市圏からの相談ニーズは言うまでもないが、人口比で比較的件数が多い地域も散見され、これら地域の医療機関/自治体に対する支援ニーズの啓発へとつなげるデータが得られている。

2. 事業の課題

2-1. 新規支援拠点病院指定への支援

- 静岡の好事例の移植により、石川県摂食障害支援拠点病院の指定が達成され、静岡方式は1件1医大体制の自治体に適していることが証明されている。一方で、大都市部での拠点病院(東京、大阪、愛知、北海道など)の新規指定の動きは限定的であり、大都市に適したモデルの構築も道半ばである。
- 大都市圏の複数の医療機関や自治体関係者からの問い合わせをいただいているが、新規指定に向けた動きは限定的である。新規指定へのボトルネックは、①医療機関/自治体が、①摂食障害支援ニーズを把握していない、②摂食障害対策の優先度を上げられない、③現状の摂食障害診療体制に問題を感じていない、ことに大別されると考えている。
- 医療機関や精神保健医療担当者が交渉をして、都道府県の予算を確保しなければいけない現状が、大きなハードルとなっている。新規指定を目指す医療機関にとっては、診療体制の確立という医療課題に取り組む覚悟を固めたにもかかわらず、更に自治体との折衝という課題を課せられることにより、冷や水を浴びさせられる思いであろう。
- 全国支援センターとしてもできる限りのサポートを行いたいのが、現状で支援可能な手段は、各種研修会の開催による既存支援拠点病院における好事例の共有に留まっている。厚生労働省、日本摂食障害学会、日本摂食障害協会とも連携によるオールジャパン体制を構築して、各々の立場で可能な限りのサポートをできる体制を整える必要がある。

2-2. 相談事業の拡充

- 全国を対象とした相談ニーズの天井が見えない状況であり、開所日の増加による相談ニーズへの対応には限界が見えている。最低限、現状の開設日を維持しつつも、当事業以外のリソースを用いた相談事業の展開が必要となってくると思われる。
- 相談内容の大半は病院紹介と情報提供であり、診療施設リストとポータルサイト情報などで一定のニーズが満たせる可能性もある。ただし、電話相談で得られる代えがたい安心感など、電子的な情報のみでは対応しきれない側面にも留意しなければならない。
- ポータルサイトの充実や診療施設リストの拡充を進めることにより、各地域の精神保健福祉センターが相談の受け皿として機能することが期待される。

2-3. 小児期治療の均てん化

- コロナ禍による当事業における相談件数の増加や受診者数の増加は一定の収束傾向を認めているが、成育医療センターの調査によれば、10代の受診者数は高止まりを見せている。15歳未満の摂食障害患者の診療は小児科と児童精神科が担っているが、児童精神科医の数的制約から現実的には小児科医が担う役割が大きい。
- 小児期治療の均てん化に向けて、小児科医が実施すべき摂食障害患児の身体管理、心理的ケア、家族への支援など、小児診療向けの指針やガイドライン制定・活用、研修会の実施などが求められている。
- 小児期の摂食障害は神経性やせ症制限型と回避・制限型食物回避症の頻度が多いとされているが、加えて発達障害の合併の有無、養育環境の影響など治療選択の際に考慮が必要である。これら要因を加味し診療体制の構築も必要であり、患者層別に治療の選択肢を提示できる体制が望ましい。

3. 今後の提言

3-1. 学校関係者への啓発活動

- 既存の枠組みを活用した、学校関係者への摂食障害の正しい知識の啓発を提言する。
- 早期発見・早期治療には養護教員が担う役割が大きい。養護教員向けの指針はポータルサイトで公開しており、日本摂食障害学会が継続的にゲートキーパー研修会を開催し、日本摂食障害協会のHPで研修会講義を無料公開している。これらゲートキーパー研修の周知、オンライン受講の拡充など既存のコンテンツをより活用できる啓発活動が必要である。
- 令和4年度の指導要綱の改訂で、高校の保健体育で摂食障害のことを教えることになった。養護教員の先生以外にも、保健体育の教員に対しても摂食障害の正しい知識の啓発が求められる。スポーツ指導と摂食障害ケアとの両立が課題であり、AMED事業にて動画コンテンツ(こころの健康教室:サニタ)も公開されている。上記ゲートキーパー研修と同様に、周知啓発を進めることによる対策の広まりを期待したい。
- 摂食障害の発症年齢を考えると高校からの指導ではもう遅いとの懸念がある。やせを礼賛する文化は幼少期より醸成されていると考えられ、ソーシャルメディアにおいてもやせ礼賛を強化するような情報が跋扈している。デジタルネイティブ世代への摂食障害啓発方略、小中学校での教育体制、教育資源の開発も必要である。

3-2. メディア/プラットフォーム業者と連携した啓発活動

- 国府台病院に委託している電話相談事業「相談ほっとライン」や、診療施設リストの公開、コロナ禍における10代患者の増加と高止まりの発表を受けて、多くのメディアからの取材依頼を受けている。新聞やテレビなどの従来メディアに加えて、SNSプラットフォーム企業からも問い合わせをいただき、『ソーシャルメディア上に跋扈している摂食障害発症や悪化のきっかけとなり得るような有害な動画コンテンツ』に対する問題意識が共有できている。
- これら有害な動画コンテンツの規制はプラットフォーム企業により、規制や削除などの対策が進みつつある。2023年の世界摂食障害アクションデイでも、『摂食障害とメディアの良い関係をめざして』をテーマとして、メディア/プラットフォーム業者との連携もより進むことが期待される。
- プラットフォーム業者の協力を得て『有害な』動画を削除ができたとしても、『有益な』動画配信が整備されない状況では、『有害な』動画配信とその削除のイタチごっこが続いてしまう。イタチごっこに終止符を打つために、『有益な』動画コンテンツを作成し、積極的な情報発信を行う必要がある。
- 『有益な』動画コンテンツを作成するためには、本事業で整備された治療者のネットワークを活用し、専門家の監修を受けた正しい動画を作る必要がある。更に正しくても視聴されなければ意味がないため、プラットフォーム業者のアドバイスや動画配信の経験知の高いインフルエンサーの協力を取りつけ、視聴数を稼げる手法を動画作成のノウハウに活かしていくことも提言に加える。

3-3. 拠点病院候補の診療実態調査と拠点病院運営の効果検証

- 既存の拠点病院や新規拠点病院候補となる医療機関の運営実態の調査および、拠点病院として指定されたことによる効果検証の実施を提言する。
- 今後拠点病院の候補となり得る医療機関の診療実態把握を進めていただきたい。患者層別による治療選択の必要性は、小児期医療の項目でも述べたが、成人にも通じる課題である。小児期医療と同様に、発達障害や幼少期トラウマ等の既往の有無に限らず、アルコールや物質依存症の合併の有無、触法行為(薬物、窃盗症など)の有無により、治療環境・治療選択が変わることが想定され

る。しかし、これら個別性の高い治療体制については、実態把握すらできていない状況である。これら診療体制の追加整備の課題を明らかにするためにも、実態調査が必要である。

- 静岡の好事例モデルの展開が進んでおり、静岡摂食障害支援拠点病院での有効性を示すデータは集まっている。静岡モデルの有効性が、新規拠点病院や好事例モデルを導入している拠点病院候補においても再現されているかの検証が必要である。具体的には、初診時罹病期間の短縮、入院時 BMI の上昇、入院期間の短縮、退院時体重の増加、再入院率の低下などのデータ得られることを期待する。更に、地域での医療連携構築を示すデータとして、都道府県内での入院／外来診療施設の増加、支援拠点病院以外での患者数の増加、支援拠点病院への紹介／逆紹介率の検証などが求められよう。

9. 令和4年度全国摂食障害対策連絡協議会委員

氏名		所属・役職
関口 敦	全国支援センター (事務局)	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 心身症研究室長
井野 敬子	全国支援センター (事務局)	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 ストレス研究室長
小原 千郷	全国支援センター (事務局)	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 科研費研究員
船場 美佐子	全国支援センター (事務局)	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 科研費研究員
中野 稚子	全国支援センター (事務局)	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 テクニカルフェロー
廣方 美沙	全国支援センター (相談ほっとライン)	国立国際医療研究センター 国府台病院心療内科 相談ほっとライン(委託)
福土 審	宮城県支援拠点病院	東北大学大学院医学系研究科心療内科学 教授、 東北大学病院心療内科 科長
佐藤 康弘	宮城県支援拠点病院	東北大学病院心療内科 講師
金澤 素	宮城県支援拠点病院	東北大学大学院医学系研究科心療内科学 准教授、 東北大学病院心療内科
阿部 麻衣	宮城県支援拠点病院	東北大学病院心療内科 技術補佐員
河合 啓介	千葉県支援拠点病院	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科 診療科長
田村 奈穂	千葉県支援拠点病院	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科 医師
竹林 淳和	静岡県支援拠点病院	浜松医科大学医学部附属病院精神科神経科 講師
磯部 智代	静岡県支援拠点病院	浜松医科大学医学部附属病院精神科神経科 臨床心理士
村越 優	静岡県支援拠点病院	浜松医科大学医学部附属病院精神科神経科 看護師
高倉 修	福岡県支援拠点病院	九州大学病院 心療内科 講師
波多 伴和	福岡県支援拠点病院	九州大学病院 心療内科 助教
権藤 元治	福岡県支援拠点病院	九州大学病院 心療内科 助教
北島 智子	福岡県支援拠点病院	九州大学病院 心療内科 保健師
菊知 充	石川県支援拠点病院	金沢大学附属病院 神経科精神科 教授
内藤 暢茂	石川県支援拠点病院	金沢大学附属病院 神経科精神科 病院臨床教授
佐野 滋彦	石川県支援拠点病院	金沢大学附属病院 神経科精神科 助教
水上 喜美子	石川県支援拠点病院	金沢大学附属病院 神経科精神科 助教
中川 良昭	厚生労働省	社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課
田中 裕記	厚生労働省	社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課
松井 佑樹	厚生労働省	社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課
作田 亮一	専門治療医師	獨協医科大学埼玉医療センター 子どものこころ診療センター長
吉内 一浩	専門治療医師	東京大学医学部附属病院心療内科 准教授
三井 信幸	専門治療医師	北海道大学病院精神科神経科 講師、病棟医長
山内 常生	専門治療医師	大阪公立大学大学院医学研究科神経精神医学 講師
永田 利彦	専門治療医師	日本摂食障害学会 理事長、なんばながたメンタルクリニック
鈴木 眞理	摂食障害対策に資するもの	日本摂食障害協会 理事長、 跡見学園女子大学・大学院心理学部臨床心理学科 特任教授

10. 令和4年度摂食障害全国支援センター・摂食障害支援拠点病院職員

摂食障害全国支援センター

氏名	所属	役職
関口 敦 (事務局実施責任者、センター長)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	心身症研究室長
井野 敬子 (事務局実施担当者、副センター長)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	ストレス研究室長
小原 千郷 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費研究員
船場 美佐子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費研究員
中野 稚子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	テクニカルフェロー
國重 寛子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費研究補助員
兼山 桃子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費事務助手
河合 啓介 (事務局実施担当者)	国立国際医療研究センター 国府台病院心療内科(委託)	心療内科診療科長
廣方 美沙 (相談コーディネーター)	国立国際医療研究センター 国府台病院心療内科 相談ほっとライン(委託)	看護師・保健師
藤野 沙織 (相談コーディネーター)	国立国際医療研究センター 国府台病院心療内科 相談ほっとライン(委託)	看護師

宮城県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
福土 審	東北大学大学院医学系研究科心療内科学 東北大学病院心療内科	教授 科長
佐藤 康弘	東北大学病院心療内科	講師
金澤 素	東北大学大学院医学系研究科心療内科学 東北大学病院心療内科	准教授
馬上 峻哉	東北大学病院心療内科	助手
後藤 漢	東北大学病院心療内科	助手
阿部 麻衣	東北大学病院心療内科	コーディネーター

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
阿部 麻衣	公認心理師/医療心理士

千葉県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
河合 啓介	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	診療科長
田村 奈穂	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	医師
石戸 淳一	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	医師
出水 玲奈	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	レジデント
中谷 有希	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	心理療法士
山本 ゆりえ	国立国際医療研究センター国府台病院薬剤部	薬剤師
岩崎 心美	千葉県摂食障害支援拠点病院	コーディネーター
大家 聡樹	千葉県摂食障害支援拠点病院	コーディネーター、事務助手
池田 知寿子	千葉県摂食障害支援拠点病院	コーディネーター

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
岩崎 心美	看護師、保健師、臨床心理士、公認心理師
大家 聡樹	臨床心理士、公認心理師
池田 知寿子	管理栄養士

静岡県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
竹林 淳和	浜松医科大学精神科	講師
磯部 智代	浜松医科大学精神科	医療技術職員(臨床心理士)

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
村越 優	看護師

福岡県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
須藤 信行	九州大学病院 心療内科	教授
高倉 修	九州大学病院 心療内科	講師
波多 伴和	九州大学病院 心療内科	助教
権藤 元治	九州大学病院 心療内科	助教
麻生 千恵	九州大学病院 心療内科	医師
戸田 健太	九州大学病院 心療内科	医師
横山 寛明	九州大学病院 心療内科	医師
末松 孝文	九州大学病院 心療内科	医師
北島 智子	九州大学病院 心療内科	テクニカルスタッフ

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
北島 智子	保健師

石川県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
菊知 充	金沢大学附属病院 神経科精神科	教授
内藤 暢茂	金沢大学附属病院 神経科精神科	病院臨床教授
佐野 滋彦	金沢大学附属病院 神経科精神科	助教
水上 喜美子	金沢大学附属病院 神経科精神科	助教
廣澤 徹	金沢大学附属病院 子どものこころの診療科	准教授

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
堂本 彩未	公認心理師 臨床心理士
長江 巴那子	公認心理師 臨床心理士
多田 浩昌	公認心理師 臨床心理士

11. 摂食障害治療支援センター設置運営事業拠点機関一覧

拠点機関名	設置施設	郵便番号	住所	電話番号
摂食障害 全国支援センター	国立精神・神経医療 研究センター	187-8553	東京都小平市小川東 4-1-1	042-341-2711(代)
宮城県摂食障害 支援拠点病院	東北大学病院心療内 科	980-8574	宮城県仙台市青葉区星陵 町 1-1	022-717-7328
静岡県摂食障害 支援拠点病院	浜松医科大学医学部 附属病院精神科神経 科	431-3192	静岡県浜松市東区半田山 1-20-1	053-435-2635
千葉県摂食障害 支援拠点病院	国立国際医療研究セ ンター国府台病院心 療内科	272-8516	千葉県市川市国府台 1-7-1	047-372-4792
福岡県摂食障害 支援拠点病院	九州大学病院心療内 科	812-8582	福岡県福岡市東区馬出 3-1-1	092-642-4869
石川県摂食障害 支援拠点病院	金沢大学附属病院 神経科精神科	920-8641	石川県金沢市宝町 13-1	076-265-2827

URL

摂食障害全国支援センター

摂食障害全国支援センター：<http://www.ncnp.go.jp/nimh/shinshin/edcenter/>

摂食障害情報ポータルサイト(一般の方)：<http://www.edportal.jp/>

摂食障害情報ポータルサイト(専門職の方)：<http://www.edportal.jp/pro/>

相談ほっとライン：<https://sessyoku-hotline.jp/>

宮城県摂食障害支援拠点病院：<http://plaza.umin.ac.jp/~edsupportmiyagi/index.htm>

静岡県摂食障害支援拠点病院：<http://www.shizuoka-ed.jp/>

千葉県摂食障害支援拠点病院：<http://www.ncgmkohnodai.go.jp/sessyoku/index.html>

福岡県摂食障害支援拠点病院：<http://edsupport-fukuoka.jp/>

石川県摂食障害支援拠点病院：<https://ishikawa-ed.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

令和4年度精神保健対策費補助金
摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

発行: 令和5年3月
連絡先: 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
摂食障害全国支援センター
〒187-8553 東京都小平市小川東町4-1-1
Tel: 042-341-2711(代表)
Mail: EDcenter@ncnp.go.jp
印刷: アトミ印刷株式会社

